

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

( 調 書 )

# 基礎資料（薬学教育評価用）

(2021年5月1日現在)

東邦大学 薬学部



薬学教育評価 基礎資料

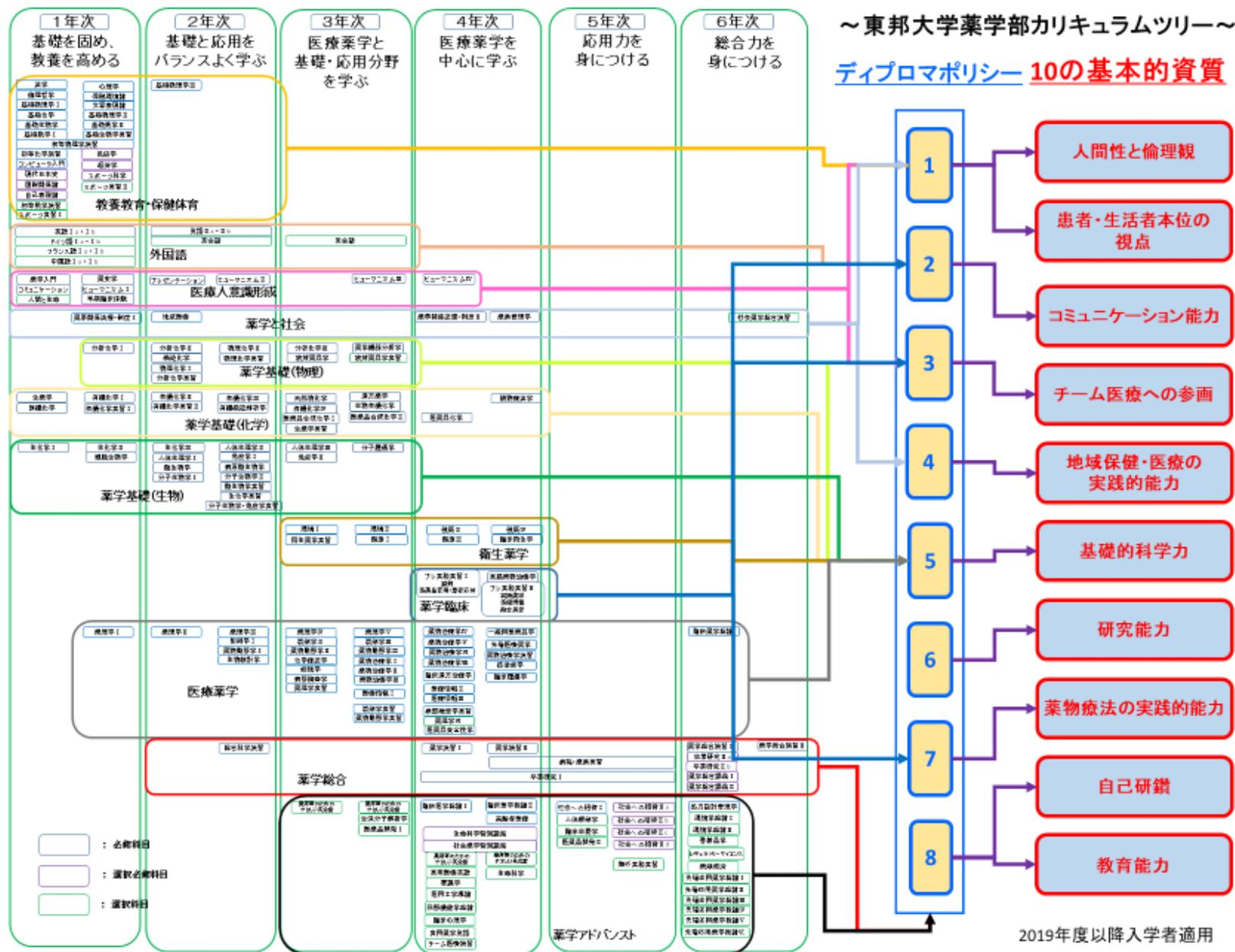
(目次)

	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目	3	3
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向	3	5 1
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	5 5
基礎資料 5	教員・職員の数	5	5 7
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	5 9
基礎資料 7	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	5	6 1
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	8 3
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	8 5
基礎資料 10	学生の健康管理	6	1 9 5
基礎資料 11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	1 9 7
基礎資料 12	学生閲覧室等の規模	7	1 9 9
基礎資料 13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	2 0 1

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。



(基礎資料1) カリキュラム・ツリー





(基礎資料2) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選)をつける)実施学年の欄に記入してください。  
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

[補足]04(2)~(3)4年に記載の「(医薬品化学)」は、2020年度まで3年で開講していたが2021年度より開講学年を4年へ変更したため2021年度は未開講である。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>A 基本事項</b>						
<b>(1) 薬剤師の使命</b>						
<b>【①医療人として】</b>						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	法学 倫理哲学 薬学入門 薬事関係法規・制度I ヒューマンズI	ヒューマンズII	ヒューマンズIII	薬事関係法規・制度II ヒューマンズIV 社会薬学特別講義(選)		薬事関係法規・制度III(選)
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	薬学入門 薬事関係法規・制度I ヒューマンズI			薬事関係法規・制度II 社会薬学特別講義(選)		
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	薬学入門 薬事関係法規・制度I	ヒューマンズII		薬事関係法規・制度II		
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)		地域医療			人体解剖学(選)	
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)						社会への招待IIa(選) 社会への招待IIb(選) 社会への招待IIc(選) 社会への招待IId(選)
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	倫理哲学 ヒューマンズI		ヒューマンズIII			
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)		地域医療 ヒューマンズII				
<b>【②薬剤師が果たすべき役割】</b>						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	法学 薬学入門 薬事関係法規・制度I ヒューマンズI				社会への招待I	
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	法学 薬学入門 薬事関係法規・制度I 早期臨床体験			薬事関係法規・制度II 実用薬学英語(選)	社会への招待I 社会への招待IIa(選) 社会への招待IIb(選) 社会への招待IIc(選) 社会への招待IId(選)	薬事関係法規・制度III(選)
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	薬学入門 薬事関係法規・制度I	地域医療				
4) 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。	薬学入門					
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門 薬事関係法規・制度I			薬事関係法規・制度II	社会への招待I 社会への招待IIc(選)	薬事関係法規・制度III(選)
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門	地域医療		実用薬学英語(選)	社会への招待I 社会への招待IIb(選)	
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	法学 薬学入門					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
8) 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。（知識・態度）		プレゼンテーション		高齢者医療Ⅰ 臨床心理学（選）	社会への招待Ⅰ	
<b>【③患者安全と薬害の防止】</b>						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。（態度）	薬学入門 薬事関係法規・制度Ⅰ			薬事関係法規・制度Ⅱ ヒューマニズムⅣ		薬事関係法規・制度Ⅲ（選）
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。	薬学入門					
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	薬学入門 薬事関係法規・制度Ⅰ		衛生薬学実習	薬事関係法規・制度Ⅱ		薬事関係法規・制度Ⅲ（選）
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。						
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）	薬事関係法規・制度Ⅰ	プレゼンテーション				
6) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	薬学入門 薬史学 薬事関係法規・制度Ⅰ		衛生薬学実習 医薬品開発Ⅰ	薬事関係法規・制度Ⅱ ヒューマニズムⅣ		
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）	薬事関係法規・制度Ⅰ	プレゼンテーション	衛生薬学実習			
<b>【④薬学の歴史と未来】</b>						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬史学	地域医療				先端応用薬学総論Ⅵ（選）
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。						
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。						
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）	早期臨床体験	地域医療			社会への招待Ⅰ	先端応用薬学総論Ⅵ（選）
<b>(2) 薬剤師に求められる倫理観</b>						
<b>【①生命倫理】</b>						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）	倫理哲学 ヒューマニズムⅠ		ヒューマニズムⅢ			
2) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。		ヒューマニズムⅡ				
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）	倫理哲学	地域医療 ヒューマニズムⅡ				
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。			ヒューマニズムⅢ			
<b>【②医療倫理】</b>						
1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。	倫理哲学 薬事関係法規・制度Ⅰ ヒューマニズムⅠ			薬事関係法規・制度Ⅱ		薬事関係法規・制度Ⅲ（選）
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。	薬事関係法規・制度Ⅰ ヒューマニズムⅠ					
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	倫理哲学		ヒューマニズムⅢ			
<b>【③患者の権利】</b>						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）	倫理哲学 薬事関係法規・制度Ⅰ	ヒューマニズムⅡ		薬事関係法規・制度Ⅱ		薬事関係法規・制度Ⅲ（選）
2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。	倫理哲学					
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	薬事関係法規・制度Ⅰ ヒューマニズムⅠ			薬事関係法規・制度Ⅱ 臨床心理学（選）		
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度）	薬事関係法規・制度Ⅰ ヒューマニズムⅠ			薬事関係法規・制度Ⅱ		
<b>【④研究倫理】</b>						
1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	倫理哲学 薬事関係法規・制度Ⅰ ヒューマニズムⅠ			薬事関係法規・制度Ⅱ		薬事関係法規・制度Ⅲ（選）
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	ヒューマニズムⅠ					
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）	倫理哲学					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(3) 信頼関係の構築</b>						
<b>【①コミュニケーション】</b>						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	コミュニケーション心理学			臨床医学総論 I 臨床心理学(選)	社会への招待 I 社会への招待 II a(選) 社会への招待 II b(選) 社会への招待 II c(選) 社会への招待 II d(選)	
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。						
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。						
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	基礎物理学 I コミュニケーション			臨床心理学(選)		
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)		ヒューマンズム II		ブレ実務実習 II (実践薬学) 臨床心理学(選)	社会への招待 I	
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)	基礎物理学 I 基礎化学 基礎生物学 コミュニケーション			ブレ実務実習 II (実践薬学) 臨床心理学(選)		
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)				ブレ実務実習 II (実践薬学) 臨床心理学(選)		
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)				ブレ実務実習 II (実践薬学)		
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)		ヒューマンズム II	薬理学実習	臨床心理学(選)		
<b>【②患者・生活者と薬剤師】</b>						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	コミュニケーション	ヒューマンズム II		臨床心理学(選)		
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)						
<b>(4) 多職種連携協働とチーム医療</b>						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	薬事関係法規・制度 I			薬事関係法規・制度 II ヒューマンズム IV チーム医療演習(選)	社会への招待 I	薬事関係法規・制度 III(選)
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。						
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。				薬事関係法規・制度 II ヒューマンズム IV	社会への招待 I 社会への招待 II a(選)	
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)						
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	基礎生物学			ヒューマンズム IV	社会への招待 I	
<b>(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成</b>						
<b>【①学習の在り方】</b>						
1) 医療・福祉・医薬品に関する問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	薬学入門			社会薬学特別講義(選)	社会への招待 I	先端応用薬学総論 VI(選)
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)		総合科学演習				
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	薬学入門					
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	文章表現論			総合科学演習		
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	コンピュータ入門					
<b>【②薬学教育の概要】</b>						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学入門				社会への招待 I 社会への招待 I 社会への招待 II a(選) 社会への招待 II b(選) 社会への招待 II c(選) 社会への招待 II d(選)	
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学入門 早期臨床体験	総合科学演習		社会薬学特別講義(選)		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【③生涯学習】</b>						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学入門	総合科学演習		生命科学特別講義 (選) 社会薬学特別講義 (選)	社会への招待 I 社会への招待 II a(選)	
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)					社会への招待 II b(選) 社会への招待 II c(選) 社会への招待 II d(選)	
<b>【④次世代を担う人材の育成】</b>						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	薬学入門				社会への招待 I	
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<b>B 薬学と社会</b>							
<b>(1) 人と社会に関わる薬剤師</b>							
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	コミュニケーション心理学			臨床心理学(選)	社会への招待 I		
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)	ヒューマニズム I	プレゼンテーション	ヒューマニズム III	ヒューマニズム IV 臨床心理学(選)			
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)				ヒューマニズム IV			
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)							
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	法学 薬事関係法規・制度 I ヒューマニズム I			薬事関係法規・制度 II		薬事関係法規・制度 III(選)	
<b>(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範</b>							
<b>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</b>							
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。	薬事関係法規・制度 I			薬事関係法規・制度 II		薬事関係法規・制度 III(選)	
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。							
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。							
4) 薬剤師以外の医療職種の仕事に関する法令の規定について概説できる。							
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。							
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。							
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。							
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。							
<b>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</b>							
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品(薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等 製品)の定義について説明できる。	薬事関係法規・制度 I		医薬品開発 I(選)	薬事関係法規・制度 II 一般医薬品学	医薬品開発 II(選)	薬事関係法規・制度 III(選)	
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。				薬事関係法規・制度 II	社会への招待 I		
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。				薬事関係法規・制度 II 一般医薬品学	医薬品開発 II(選)		
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。				薬事関係法規・制度 II			
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。				薬事関係法規・制度 II			
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。				薬事関係法規・制度 II			
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。				薬事関係法規・制度 II			
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。				薬事関係法規・制度 II			
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。				薬事関係法規・制度 II			
10) 健康被害救済制度について説明できる。		薬事関係法規・制度 I			薬事関係法規・制度 II 一般医薬品学		
11) レギュラトリーサイエンスの必要性和意義について説明できる。					薬事関係法規・制度 II		
<b>【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】</b>							
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。				薬事関係法規・制度 II		薬事関係法規・制度 III(選) 先端応用薬学総論 VI(選)	
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。		地域医療				薬事関係法規・制度 III(選)	
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。							

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(3) 社会保障制度と医療経済</b>						
<b>【①医療、福祉、介護の制度】</b>						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。		地域医療		薬事関係法規・制度Ⅱ 高齢者医療Ⅰ 臨床心理学(選)		薬事関係法規・制度Ⅲ(選)
2) 医療保険制度について説明できる。				薬事関係法規・制度Ⅱ 高齢者医療Ⅰ		
3) 療養担当規則について説明できる。				薬事関係法規・制度Ⅱ		
4) 公費負担医療制度について概説できる。				薬事関係法規・制度Ⅱ 高齢者医療Ⅰ		
5) 介護保険制度について概説できる。		地域医療				
6) 薬価基準制度について概説できる。			医薬品開発Ⅰ(選)	薬事関係法規・制度Ⅱ		
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。		地域医療				
<b>【②医薬品と医療の経済性】</b>						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。	薬事関係法規・制度Ⅰ		医薬品開発Ⅰ(選)	薬事関係法規・制度Ⅱ		薬事関係法規・制度Ⅲ(選)
2) 国民医療費の動向について概説できる。				薬事関係法規・制度Ⅱ 一般用医薬品学 高齢者医療Ⅰ		薬事関係法規・制度Ⅲ(選) 先端応用薬学総論Ⅵ(選)
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。		地域医療	医薬品開発Ⅰ(選)	薬事関係法規・制度Ⅱ		薬事関係法規・制度Ⅲ(選)
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。						
<b>(4) 地域における薬局と薬剤師</b>						
<b>【①地域における薬局の役割】</b>						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	薬事関係法規・制度Ⅰ			薬事関係法規・制度Ⅱ 一般用医薬品学		薬事関係法規・制度Ⅲ(選) 先端応用薬学総論Ⅵ(選)
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。				薬事関係法規・制度Ⅱ	社会への招待Ⅱ b(選)	薬事関係法規・制度Ⅲ(選)
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。		地域医療		薬事関係法規・制度Ⅱ 一般用医薬品学		薬事関係法規・制度Ⅲ(選) 先端応用薬学総論Ⅵ(選)
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	薬事関係法規・制度Ⅰ			薬事関係法規・制度Ⅱ		薬事関係法規・制度Ⅲ(選)
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。				薬事関係法規・制度Ⅱ 一般用医薬品学		薬事関係法規・制度Ⅲ(選) 先端応用薬学総論Ⅵ(選)
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。						
<b>【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</b>						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。						
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	薬事関係法規・制度Ⅰ			薬事関係法規・制度Ⅱ	社会への招待Ⅱ b(選)	薬事関係法規・制度Ⅲ(選)
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。		地域医療	衛生薬学実習			
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。					社会への招待Ⅱ b(選)	
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)				プレ実務実習(実践薬学)		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C 薬学基礎</b>						
<b>C1 物質の物理的性質</b>						
(1) 物質の構造						
【①化学結合】						
1) 化学結合の様式について説明できる。	基礎化学 無機化学 有機化学 I	構造化学 有機化学 II	医薬品合成化学 I			薬学総合講義 I (選) 薬学総合講義 I (選) 先端応用薬学総論 I (選)
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。						
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	有機化学 I					
【②分子間相互作用】						
1) ファンデルワールス力について説明できる。		構造化学				
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。		基礎物理学Ⅲ 構造化学				
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	無機化学		生物有機化学			
4) 分散力について例を挙げて説明できる。		構造化学				
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。						
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。						
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	無機化学					
【③原子・分子の挙動】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		基礎物理学Ⅲ 構造化学		医用工学概論(選)		薬学総合講義 I (選) 先端応用薬学総論 I (選)
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		構造化学				
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。		構造化学				
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。	基礎物理学Ⅱ	構造化学 物理化学実習 構造化学				
5) 光の散乱および干渉について説明できる。						
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。			薬学機器分析学			
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。						
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。			放射薬品学	医用工学概論(選)		
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4) 核反応および放射平衡について説明できる。						
5) 放射線測定の実験と利用について概説できる。				医用工学概論(選)		
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。						
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。		物理化学 I				
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。						
2) 熱力学第一法則を説明できる。						
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。						
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。		物理化学 I				
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
6) エンタルピーについて説明できる。						
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。						
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。						
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 熱力学第三法則について説明できる。		物理化学 I				
4) ギブズエネルギーについて説明できる。						
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。		物理化学 I 物理化学実習				
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。		物理化学Ⅱ				
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。		物理化学Ⅱ				
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。		物理化学実習				
4) 共役反応の原理について説明できる。	生化学Ⅱ	物理化学Ⅱ				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【⑤相平衡】</b>						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。		物理化学Ⅱ				
2) 相平衡と相律について説明できる。		物理化学実習				
3) 状態図について説明できる。						
<b>【⑥溶液の性質】</b>						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。		物理化学Ⅱ 製剤学Ⅰ 物理化学実習				
2) 活量と活量係数について説明できる。		物理化学Ⅱ				
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。		基礎物理学Ⅲ				
4) イオン強度について説明できる。		物理化学Ⅱ				
<b>【⑦電気化学】</b>						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		物理化学Ⅱ				
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。		基礎物理学Ⅲ 物理化学Ⅱ				
<b>【③物質の変化】</b>						
<b>【①反応速度】</b>						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学Ⅰ				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理化学実習				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学Ⅰ				
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学Ⅰ 物理化学実習				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理化学Ⅱ				
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。		物理化学Ⅱ				
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。		物理化学実習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C2 化学物質の分析</b>						
<b>(1) 分析の基礎</b>						
<b>【①分析の基礎】</b>						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)		分析化学実習		医用工学概論(選)		薬学総合講義Ⅰ(選)
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)						
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。		分析化学Ⅱ				薬学総合講義Ⅰ(選) 先端応用薬学総論Ⅰ(選)
<b>(2) 溶液中の化学平衡</b>						
<b>【①酸・塩基平衡】</b>						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	分析化学Ⅰ					
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)		分析化学実習				薬学総合講義Ⅰ(選)
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)						
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	分析化学Ⅰ					
<b>【②各種の化学平衡】</b>						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学Ⅰ					
2) 沈殿平衡について説明できる。						
3) 酸化還元平衡について説明できる。						
4) 分配平衡について説明できる。						
<b>(3) 化学物質の定性分析・定量分析</b>						
<b>【①定性分析】</b>						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		分析化学Ⅱ				薬学総合講義Ⅰ(選)
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
<b>【②定量分析(容量分析・重量分析)】</b>						
1) 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ 分析化学実習				
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ				
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ 分析化学実習				
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)						
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学Ⅱ				
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
<b>(4) 機器を用いる分析法</b>						
<b>【①分光分析法】</b>						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学実習	分析化学Ⅲ 生体分子解析学(選)			薬学総合講義Ⅰ(選) 先端応用薬学総論Ⅰ(選)
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。						
3) 赤外吸収(IR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		構造化学	生体分子解析学(選)			
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ(ICP)発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析化学実習	分析化学Ⅲ			薬学総合講義Ⅰ(選)
5) 旋光度測定法(旋光分散)の原理および応用例を説明できる。		構造化学	生体分子解析学(選)			
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		分析化学実習				
<b>【②核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法】</b>						
1) 核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		有機構造解析学	生体分子解析学(選)			薬学総合講義Ⅰ(選)
<b>【③質量分析法】</b>						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析化学実習	生体分子解析学(選)			薬学総合講義Ⅰ(選) 先端応用薬学総論Ⅰ(選)
<b>【④X線分析法】</b>						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。			薬学機器分析学			
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。						
<b>【⑤熱分析】</b>						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。			薬学機器分析学			
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(5) 分離分析法</b>						
<b>【①クロマトグラフィー】</b>						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。		分析化学実習	分析化学Ⅲ			先端応用薬学総論Ⅰ(選)
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学実習	分析化学Ⅲ 薬学機器分析学			先端応用薬学総論Ⅰ(選)
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)		分析化学実習				
<b>【②電気泳動法】</b>						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ			薬学総合講義Ⅰ(選)
<b>(6) 臨床現場で用いる分析技術</b>						
<b>【①分析の準備】</b>						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		分析化学実習	分析化学Ⅲ			薬学総合講義Ⅰ(選) 先端応用薬学総論Ⅰ(選)
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。				医用工学概論(選)		
<b>【②分析技術】</b>						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			分析化学Ⅲ			薬学総合講義Ⅰ(選)
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。						
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。				医用工学概論(選)		
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。			薬学機器分析学			
5) 代表的な画像診断技術(X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など)について概説できる。			放射薬品学 薬学機器分析学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C3 化学物質の性質と反応</b>						
<b>(1) 化学物質の基本的性質</b>						
<b>【①基本事項】</b>						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	基礎化学 有機化学 I 無機化学 有機化学 I    有機化学 I	有機化学実習 II				薬学総合講義 I (選)
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。						
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。						
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。		有機化学実習 II	医薬品合成化学 I			
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。						
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。						
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。		有機化学 II	医薬品合成化学 I			
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。						
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)		有機化学 II 有機化学実習 II	医薬品合成化学 I			
<b>【②有機化合物の立体構造】</b>						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	有機化学 I		生物有機化学 医薬品合成化学 I			薬学総合講義 I (選) 薬学総合講義 I (選) 先端応用薬学総論 II (選)
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。						
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。		有機化学 II				薬学総合講義 I (選)
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)						
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。						
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)						
8) エタン、ブタン の立体配座とその安定性について説明できる。				医薬品合成化学 I		
<b>(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応</b>						
<b>【①アルカン】</b>						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機化学 I					
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)						
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。						
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)			医薬品合成化学 I			薬学総合講義 I (選)
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
<b>【②アルケン・アルキン】</b>						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I	有機化学 II	医薬品合成化学 I			
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。						
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。						
<b>【③芳香族化合物】</b>						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	有機化学 I	有機化学 II 有機化学実習 II 有機化学 III	有機化学 IV 医薬品合成化学 II			
2) 芳香族性の概念を説明できる。			有機化学 IV			
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学 III	有機化学 IV 医薬品合成化学 II 有機化学 IV			
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。						
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						
<b>(3) 官能基の性質と反応</b>						
<b>【①概説】</b>						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。		有機化学実習 II				
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)						
<b>【②有機ハロゲン化合物】</b>						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学実習 II 有機化学 III	医薬品合成化学 I			
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。		有機化学 III				
3) 脱離反応の特徴について説明できる。						
<b>【③アルコール・フェノール・エーテル】</b>						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 III	医薬品合成化学 I			
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】</b>						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学実習 I		有機化学IV 医薬品合成化学 II			先端応用薬学総論 II (選)
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド) の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学実習 II	医薬品合成化学 II			
<b>【⑤アミン】</b>						
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学実習 I	有機化学実習 II 有機化学 III	有機化学IV 医薬品合成化学 I 医薬品合成化学 II			
<b>【⑥電子効果】</b>						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	有機化学 I	有機化学実習 II	有機化学IV 医薬品合成化学 II			
<b>【⑦酸性度・塩基性度】</b>						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	基礎化学 有機化学 I	有機化学 II	有機化学IV 医薬品合成化学 I 医薬品合成化学 II			
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。	有機化学 I		有機化学IV 医薬品合成化学 II			
<b>(4) 化学物質の構造決定</b>						
<b>【①核磁気共鳴 (NMR)】</b>						
1) <sup>1</sup> H および <sup>13</sup> C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。						
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。		有機構造解析学				
3) <sup>1</sup> H NMR の積分値の意味を説明できる。						
4) <sup>1</sup> H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。						
5) 代表的な化合物の部分構造を <sup>1</sup> H NMR から決定できる。(技能)		有機化学実習 II 有機構造解析学				薬学総合講義 I (選)
<b>【②赤外吸収 (IR)】</b>						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。		有機構造解析学				
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		有機化学実習 II 有機構造解析学				薬学総合講義 I (選)
<b>【③質量分析】</b>						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。		有機構造解析学				
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)		有機構造解析学				
3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。		有機構造解析学				
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		有機化学実習 II 有機構造解析学				薬学総合講義 I (選)
<b>【④総合演習】</b>						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		有機化学実習 II 有機構造解析学				薬学総合講義 I (選)
<b>(5) 無機化合物・錯体の構造と性質</b>						
<b>【①無機化合物・錯体】</b>						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。						
2) 代表的な無機酸化物、オキシ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	無機化学					
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C4 生体分子・医薬品の化学による理解</b>						
<b>(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質</b>						
<b>【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】</b>						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。			生物有機化学			
2) 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。			生物有機化学 生体分子解析学(選)			
<b>【②生体内で機能する小分子】</b>						
1) 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。						
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。			生物有機化学			
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。						
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。	無機化学					薬学総合講義Ⅱ(選)
<b>(2) 生体反応の化学による理解</b>						
<b>【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】</b>						
1) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。						
2) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			生物有機化学			
<b>【②酵素阻害剤と作用様式】</b>						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。				(医薬品化学)		
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
<b>【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】</b>						
1) 代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。				(医薬品化学)		
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。						
<b>【④生体内で起こる有機反応】</b>						
1) 代表的な生体分子(脂肪酸、コレステロールなど)の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			生物有機化学			
2) 異物代謝の反応(発がん性物質の代謝的活性化など)を有機化学の観点から説明できる。			生物有機化学	(医薬品化学)		
<b>(3) 医薬品の化学構造と性質、作用</b>						
<b>【①医薬品と生体分子の相互作用】</b>						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的観点(結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など)から説明できる。				(医薬品化学)		
<b>【②医薬品の化学構造に基づく性質】</b>						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質(酸性、塩基性、疎水性、親水性など)を説明できる。				(医薬品化学)		
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。						
<b>【③医薬品のコンポーネント】</b>						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。						
2) バイオアイソスター(生物学的等価体)について、代表的な例を挙げて概説できる。				(医薬品化学)		
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。						
<b>【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】</b>						
1) ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
3) スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			有機化学実習Ⅱ	(医薬品化学)		
4) キノロン骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
5) β-ラクタム骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
6) ペプチドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
<b>【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】</b>						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						薬学総合講義Ⅱ(選)
2) アセチルコリンアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
3) ステロイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				(医薬品化学)		薬学総合講義Ⅱ(選)
5) オピオイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】</b>						
1) DNAと結合する医薬品 (アルキル化剤、シスプラチン類) を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。				(医薬品化学)		
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
<b>【⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質】</b>						
1) イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造 (ジヒドロピリジンなど) の特徴を説明できる。				(医薬品化学)		薬学総合講義Ⅱ (選)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C5 自然が生み出す薬物</b>						
<b>(1) 薬になる動植物</b>						
<b>【①薬用植物】</b>						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。	生薬学		生薬学実習	植物療法学		
2) 代表的な薬用植物を外形形態から説明し、区別できる。(知識、技能)						
3) 植物の主な内部形態について説明できる。						
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。						
<b>【②生薬の基原】</b>						
1) 日本薬局方記載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	生薬学		生薬学実習			
<b>【③生薬の用途】</b>						
1) 日本薬局方記載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。	生薬学					
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。						
<b>【④生薬の同定と品質評価】</b>						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。	生薬学		生薬学実習			
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。						
3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)						
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。	生薬学					
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。						
<b>(2) 薬の宝庫としての天然物</b>						
<b>【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】</b>						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。			天然物化学 生薬学実習		医薬品開発Ⅱ(選)	
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然物化学			
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
<b>【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】</b>						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。			天然物化学		医薬品開発Ⅱ(選)	
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
<b>【③天然生物活性物質の取扱い】</b>						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)			生薬学実習			
<b>【④天然生物活性物質の利用】</b>						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。			天然物化学		医薬品開発Ⅱ(選)	
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。						
3) 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C6 生命現象の基礎</b>						
<b>(1) 細胞の構造と機能</b>						
<b>【①細胞膜】</b>						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	細胞生物学					
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。						
<b>【②細胞小器官】</b>						
1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	細胞生物学	分子生物学 I				
<b>【③細胞骨格】</b>						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	細胞生物学					
<b>(2) 生命現象を担う分子</b>						
<b>【①脂質】</b>						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I 細胞生物学					
<b>【②糖質】</b>						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I 細胞生物学					
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	細胞生物学	生化学 III				
<b>【③アミノ酸】</b>						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学 I 細胞生物学					
<b>【④タンパク質】</b>						
1) タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生化学 I 細胞生物学					
<b>【⑤ヌクレオチドと核酸】</b>						
1) ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	細胞生物学	生化学 III 分子生物学 I				
<b>【⑥ビタミン】</b>						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 II	生化学 III				
<b>【⑦微量元素】</b>						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生化学 II					
<b>【⑧生体分子の定性、定量】</b>						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)	基礎生物学実習	分子生物学・免疫学 実習	衛生薬学実習			
<b>(3) 生命活動を担うタンパク質</b>						
<b>【①タンパク質の構造と機能】</b>						
1) 多彩な機能をもつタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し概説できる。	生化学 I	生化学 III 生化学実習				
<b>【②タンパク質の成熟と分解】</b>						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。	細胞生物学	生化学 III				
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。						
<b>【③酵素】</b>						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生化学 I	生化学実習				
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学 I 生化学 II					
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		生化学実習				
<b>【④酵素以外のタンパク質】</b>						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	生化学 I	生化学 III				
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。	生化学 II					薬学総合講義 II (選)
<b>(4) 生命情報を担う遺伝子</b>						
<b>【①概論】</b>						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	細胞生物学	分子生物学 I	分子腫瘍学			
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。						
<b>【②遺伝情報を担う分子】</b>						
1) 染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。		分子生物学 I				
2) 遺伝子の構造(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。						
3) RNAの種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNAなど)と機能について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【③遺伝子の複製】</b>						
1) DNA の複製の過程について説明できる。	細胞生物学	分子生物学 I		生命科学(選)		
<b>【④転写・翻訳の過程と調節】</b>						
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。	細胞生物学	分子生物学 I		生命科学(選)		
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。						
3) 転写因子による転写制御について説明できる。						
4) RNA のプロセシング(キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。						
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	細胞生物学					
<b>【⑤遺伝子の変異・修復】</b>						
1) DNA の変異と修復について説明できる。		分子生物学 II	放射薬品学 分子腫瘍学	生命科学(選)		
<b>【⑥組換え DNA】</b>						
1) 遺伝子工学技術(遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など)を概説できる。		分子生物学 II				
2) 遺伝子改変生物(遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物)について概説できる。						
<b>(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系</b>						
<b>【①概論】</b>						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	生化学 II 細胞生物学			生命科学(選)		
<b>【②ATP の産生と糖質代謝】</b>						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	生化学 II 細胞生物学			生命科学(選)		
2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。						
3) 電子伝達系(酸化のリン酸化)と ATP 合成酵素について説明できる。						
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。	生化学 II					薬学総合講義 II (選)
5) 糖新生について説明できる。		生化学 III				
<b>【③脂質代謝】</b>						
1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。	生化学 II			生命科学(選)		
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。						薬学総合講義 II (選)
<b>【④飢餓状態と飽食状態】</b>						
1) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。	生化学 II	生化学 III		生命科学(選)		
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
<b>【⑤その他の代謝系】</b>						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。		生化学 III		生命科学(選)		
2) ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。		生化学 III 分子生物学 I				
3) ペントースリン酸回路について説明できる。	生化学 II					
<b>(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達</b>						
<b>【①概論】</b>						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	細胞生物学					
<b>【②細胞内情報伝達】</b>						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	細胞生物学 薬理学 I		人体生理学 III			薬学総合講義 II (選) 薬学総合講義 II (選) 先端応用薬学総論 I (選)
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。			人体生理学 III 分子腫瘍学			
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。			人体生理学 III			
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。						
5) 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	細胞生物学					
<b>【③細胞間コミュニケーション】</b>						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	細胞生物学					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(7) 細胞の分裂と死</b>						
<b>【①細胞分裂】</b>						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	細胞生物学					
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。						
<b>【②細胞死】</b>						
1) 細胞死（アポトーシスとネクローシス）について説明できる。	細胞生物学					
<b>【③がん細胞】</b>						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	細胞生物学					
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。			分子腫瘍学	生命科学(選)		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C7 人体の成り立ちと生体機能の調節</b>						
<b>(1) 人体の成り立ち</b>						
<b>【①遺伝】</b>						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	基礎生物学					
2) 遺伝子多型について概説できる。		分子生物学Ⅱ 分子生物学・免疫学 実習 分子生物学Ⅱ				
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。						
<b>【②発生】</b>						
1) 個体発生について概説できる。	基礎生物学	人体生理学Ⅱ				
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。						
<b>【③器官系概論】</b>						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	基礎生物学				人体解剖学(選)	
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。		人体生理学Ⅰ				
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)			薬理学実習		人体解剖学(選)	
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)	基礎生物学実習					
<b>【④神経系】</b>						
1) 中枢神経系について概説できる。		人体生理学Ⅰ 薬理学Ⅲ			人体解剖学(選)	薬学総合講義Ⅱ(選)
2) 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。		人体生理学Ⅰ 薬理学Ⅱ			人体解剖学(選)	薬学総合講義Ⅱ(選) 先端応用薬学総論Ⅳ(選)
<b>【⑤骨格系・筋肉系】</b>						
1) 骨、筋肉について概説できる。						
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	スポーツ科学(選)	人体生理学Ⅰ			人体解剖学(選)	薬学総合講義Ⅱ(選)
<b>【⑥皮膚】</b>						
1) 皮膚について概説できる。		人体生理学Ⅰ				
<b>【⑦循環器系】</b>						
1) 心臓について概説できる。		人体生理学Ⅰ		生命科学特別講義(選)	人体解剖学(選)	薬学総合講義Ⅱ(選) 先端応用薬学総論Ⅳ(選)
2) 血管系について概説できる。						
3) リンパ管系について概説できる。						薬学総合講義Ⅱ(選)
<b>【⑧呼吸器系】</b>						
1) 肺、気管支について概説できる。		人体生理学Ⅰ			人体解剖学(選)	薬学総合講義Ⅱ(選)
<b>【⑨消化器系】</b>						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。		人体生理学Ⅰ			人体解剖学(選)	
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。						
<b>【⑩泌尿器系】</b>						
1) 泌尿器系について概説できる。		人体生理学Ⅰ			人体解剖学(選)	
<b>【⑪生殖器系】</b>						
1) 生殖器系について概説できる。		人体生理学Ⅱ			人体解剖学(選)	
<b>【⑫内分泌系】</b>						
1) 内分泌系について概説できる。		人体生理学Ⅱ			人体解剖学(選)	薬学総合講義Ⅱ(選)
<b>【⑬感覚器系】</b>						
1) 感覚器系について概説できる。		人体生理学Ⅰ			人体解剖学(選)	
<b>【⑭血液・造血器系】</b>						
1) 血液・造血器系について概説できる。		人体生理学Ⅱ				薬学総合講義Ⅱ(選)
<b>(2) 生体機能の調節</b>						
<b>【①神経による調節機構】</b>						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。		人体生理学Ⅰ 人体生理学Ⅰ 薬理学Ⅱ 薬理学Ⅲ				
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		人体生理学Ⅲ				薬学総合講義Ⅱ(選)
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。		人体生理学Ⅱ 薬理学Ⅱ 人体生理学Ⅱ				
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。		薬理学Ⅱ 人体生理学Ⅱ				薬学総合講義Ⅱ(選)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【②ホルモン・内分泌系による調節機構】</b>						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。			人体生理学Ⅲ 薬理学Ⅴ	生命科学(選)		薬学総合講義Ⅱ(選)
<b>【③オータコイドによる調節機構】</b>						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。			人体生理学Ⅲ			薬学総合講義Ⅱ(選)
<b>【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】</b>						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。			人体生理学Ⅲ			
<b>【⑤血圧の調節機構】</b>						
1) 血圧の調節機構について概説できる。		人体生理学Ⅱ		生命科学特別講義 (選)		薬学総合講義Ⅱ(選)
<b>【⑥血糖の調節機構】</b>						
1) 血糖の調節機構について概説できる。		人体生理学Ⅱ				薬学総合講義Ⅱ(選)
<b>【⑦体液の調節】</b>						
1) 体液の調節機構について概説できる。		人体生理学Ⅱ				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。						
<b>【⑧体温の調節】</b>						
1) 体温の調節機構について概説できる。		人体生理学Ⅱ				
<b>【⑨血液凝固・線溶系】</b>						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。		人体生理学Ⅱ				薬学総合講義Ⅱ(選)
<b>【⑩性周期の調節】</b>						
1) 性周期の調節機構について概説できる。		人体生理学Ⅱ				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C9 生体防御と微生物</b>						
<b>(1) 身体をまもる</b>						
<b>【① 生体防御反応】</b>						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。						
2) 免疫反応の特徴 (自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容) を説明できる。						
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係について説明できる。						
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。						
<b>【② 免疫を担当する組織・細胞】</b>						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。						
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
<b>【③ 分子レベルで見た免疫のしくみ】</b>						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。						
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。						
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性 (遺伝子再構成) と活性化について説明できる。						
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。						
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。						
<b>(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用</b>						
<b>【① 免疫応答の制御と破綻】</b>						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。						
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。						
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。						
4) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。						
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
<b>【② 免疫反応の利用】</b>						
1) ワクチンの原理と種類 (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど) について説明できる。						
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。						
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。						
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法 (ELISA 法、ウエスタンブロット法など) を実施できる。(技能)						
<b>(3) 微生物の基本</b>						
<b>【① 総論】</b>						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。						
<b>【② 細菌】</b>						
1) 細菌の分類や性質 (系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など) を説明できる。						
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。						
3) 細菌の異化作用 (呼吸と発酵) および同化作用について説明できる。						
4) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。						
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。						
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。						
<b>【③ ウイルス】</b>						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。						
<b>【④ 真菌・原虫・蠕虫】</b>						
1) 真菌の性状を概説できる。						
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。						
<b>【⑤ 消毒と滅菌】</b>						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。						
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。						
<b>【⑥ 検出方法】</b>						
1) グラム染色を実施できる。(技能)						
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(4) 病原体としての微生物</b>						
<b>【①感染の成立と共生】</b>						
1) 感染の成立 (感染源、感染経路、侵入門戸など) と共生 (腸内細菌など) について説明できる。		病原微生物学		感染症学		
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。						
<b>【②代表的な病原体】</b>						
1) DNA ウイルス (ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど) について概説できる。		病原微生物学	分子腫瘍学			
2) RNA ウイルス (ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など) について概説できる。						
3) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌など) およびグラム陽性桿菌 (破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など) について概説できる。						
4) グラム陰性球菌 (淋菌、髄膜炎菌など) およびグラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など) について概説できる。						
5) グラム陰性らせん菌 (ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど) およびスピロヘータについて概説できる。				分子腫瘍学		
6) 抗酸菌 (結核菌、らい菌など) について概説できる。						
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。						
8) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など) について概説できる。						
9) 原虫 (マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫 (回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど) について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<b>D 衛生薬学</b>							
<b>D1 健康</b>							
<b>(1) 社会・集団と健康</b>							
<b>【①健康と疾病の概念】</b>							
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。				健康Ⅲ			
<b>【②保健統計】</b>							
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			医薬品開発Ⅰ(選)	健康Ⅲ			
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。				健康Ⅲ			
3) 人口動態(死因別死亡率など)の変遷について説明できる。				高齢者医療Ⅰ			
<b>【③疫学】</b>							
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。				健康Ⅲ			
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。							
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。							
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)							
<b>(2) 疾病の予防</b>							
<b>【①疾病の予防とは】</b>							
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。				健康Ⅳ			
2) 健康増進政策(健康日本21など)について概説できる。							
<b>【②感染症とその予防】</b>							
1) 現代における感染症(日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など)の特徴について説明できる。				感染症学 健康Ⅳ			
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。							
3) 代表的な感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。			分子腫瘍学	健康Ⅳ			
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。							
<b>【③生活習慣病とその予防】</b>							
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。				健康Ⅳ			
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。							
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)							
<b>【④母子保健】</b>							
1) 新生児マスクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。				健康Ⅳ			
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			分子腫瘍学				
<b>【⑤労働衛生】</b>							
1) 代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。				健康Ⅳ			
2) 労働衛生管理について説明できる。							
<b>(3) 栄養と健康</b>							
<b>【①栄養】</b>							
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			健康Ⅰ			薬学総合講義Ⅱ(選)	
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。							
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。							
4) 五大栄養素以外の食品成分(食物繊維、抗酸化物質など)の機能について説明できる。							
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。				健康Ⅱ		薬学総合講義Ⅱ(選)	
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。							
7) 栄養素の過不足による主な疾患を列挙し、説明できる。							
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。				医薬品安全性学	臨床栄養学(選)	薬学総合講義Ⅱ(選) 先端応用薬学総論Ⅲ(選)	
<b>【②食品機能と食品衛生】</b>							
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。				健康Ⅱ			
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			衛生薬学実習				
3) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。							
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。							
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			衛生薬学実習				
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。							
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。			衛生薬学実習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【③食中毒と食品汚染】</b>						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。				健康Ⅱ		
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
3) 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						先端応用薬学総論Ⅲ (選)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>D2 環境</b>						
<b>(1) 化学物質・放射線の生体への影響</b>						
<b>【①化学物質の毒性】</b>						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。						
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			環境Ⅱ			先端応用薬学総論Ⅲ(選)
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)						
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。						
7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。					医薬品安全性学	
<b>【②化学物質の安全性評価と適正使用】</b>						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)						
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)などについて概説できる。			環境Ⅱ			
4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。						
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。					保健環境論	
<b>【③化学物質による発がん】</b>						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			環境Ⅱ			分子腫瘍学
2) 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。		微生物学実習	環境Ⅱ			分子腫瘍学
3) 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。			環境Ⅱ			分子腫瘍学
<b>【④放射線の生体への影響】</b>						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。						放射薬品学 環境Ⅱ 放射薬品学実習(選)
2) 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。						放射薬品学 環境Ⅱ 放射薬品学実習(選)
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						放射薬品学 環境Ⅱ 放射薬品学実習(選)
4) 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。						環境Ⅱ
<b>(2) 生活環境と健康</b>						
<b>【①地球環境と生態系】</b>						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。			環境Ⅰ			
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。						
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)						
<b>【②環境保全と法的規制】</b>						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。						
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。			環境Ⅰ			
<b>【③水環境】</b>						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。						
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。			環境Ⅰ			衛生薬学実習
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)						衛生薬学実習
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			環境Ⅰ			衛生薬学実習
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)						衛生薬学実習
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			環境Ⅰ			衛生薬学実習
<b>【④大気環境】</b>						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。						環境Ⅰ 衛生薬学実習
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)						衛生薬学実習
3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。						環境Ⅰ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【⑤室内環境】</b>						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			衛生薬学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。	保健環境論		環境Ⅰ 衛生薬学実習			
<b>【⑥廃棄物】</b>						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。			環境Ⅰ			
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			放射薬品学実習(選)			
3) マニフェスト制度について説明できる。			環境Ⅰ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>E 医療薬学</b>						
<b>E1 薬の作用と体の変化</b>						
<b>(1) 薬の作用</b>						
<b>【①薬の作用】</b>						
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。	薬理学 I					
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。						
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。						先端応用薬学総論IV(選)
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。						
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(6)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照)			人体生理学Ⅲ			
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)				高齢者医療 I		
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。						
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)	薬理学 I					
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。						
<b>【②動物実験】</b>						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)						
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			薬理学実習			
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)						
<b>【③日本薬局方】</b>						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。	薬理学 I					
<b>(2) 身体の病的変化を知る</b>						
<b>【①症候】</b>						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸痛、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害		症候学		臨床医学総論 I 一般用医薬品学		
<b>【②病態・臨床検査】</b>						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				病態検査学実習		
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				病態検査学実習		
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
6) 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				病態検査学実習		
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病原微生物学 微生物学実習				
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			症候学	病態検査学実習		
<b>(3) 薬物治療の位置づけ</b>						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。			薬物治療学 I 薬物治療学 II			
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)				薬物治療学演習		
<b>(4) 医薬品の安全性</b>						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。	薬理学 I					
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害				地域医療 II		
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)			衛生薬学実習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>E2 薬理・病態・薬物治療</b>						
<b>(1) 神経系の疾患と薬</b>						
<b>【①自律神経系に作用する薬】</b>						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅱ				薬学総合講義Ⅱ(選) 先端応用薬学総論Ⅳ(選)
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						薬学総合講義Ⅱ(選)
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
<b>【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅱ		形態機能学総論(選)		薬学総合講義Ⅱ(選)
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅱ 薬理学Ⅲ				
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)		薬理学Ⅱ		薬物治療学Ⅴ		
<b>【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅲ				薬学総合講義Ⅱ(選)
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。		薬理学Ⅲ 総合科学演習		形態機能学総論(選)		
3) 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。						
4) 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						薬学総合講義Ⅱ(選)
5) うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
6) 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅲ				薬学総合講義Ⅱ(選)
7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療学Ⅴ		
8) 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
9) Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅲ 総合科学演習				薬学総合講義Ⅱ(選)
10) 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅲ				
11) 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。		薬理学Ⅱ 薬理学Ⅲ				
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)				薬物治療学演習		
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症		薬理学Ⅲ		薬物治療学Ⅴ		
<b>【④化学構造と薬効】</b>						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学Ⅱ 薬理学Ⅲ		薬理学Ⅵ(選)		
<b>(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬</b>						
<b>【①抗炎症薬】</b>						
1) 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅲ	薬理学Ⅴ			
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。						
3) 創傷治癒の過程について説明できる。			薬物治療学Ⅲ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) アレルギー治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理学V			薬学総合講義Ⅱ (選)
2) 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。				薬理学VI (選)		
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 アトピー性皮膚炎、尋麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複)			薬理学V 薬物治療学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ			
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (スティーブンス-ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹			薬物治療学Ⅱ			
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬理学V 薬物治療学Ⅱ			
6) 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病						
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 バセドウ病 (重複)、橋本病 (重複)、悪性貧血 (重複)、アジソン病、1型糖尿病 (重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血 (重複)、シェーグレン症候群			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学V		
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ (重複)			薬理学V 薬物治療学Ⅱ			
9) 臓器移植 (腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血) について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD) の病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				先端医療薬学		
<b>【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学V			
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅳ 薬理学V			
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学V	薬物治療学VI		
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患 (副甲状腺機能亢進 (低下) 症、骨軟化症 (くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅳ 薬理学V			薬学総合講義Ⅱ (選)
<b>【④化学構造と薬効】</b>						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			薬理学V	薬理学VI (選)		
<b>(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬</b>						
<b>【①循環器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮 (PAC)、心室性期外収縮 (PVC)、心房細動 (Af)、発作性上室頻拍 (PSVT)、WPW症候群、心室頻拍 (VT)、心室細動 (Vf)、房室ブロック、QT延長症候群				形態機能学総論 (選)		
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅳ 薬物治療学Ⅰ			薬学総合講義Ⅱ (選)
3) 虚血性心疾患 (狭心症、心筋梗塞) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症 (腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)				生命科学特別講義 (選) 形態機能学総論 (選)		
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症 (ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患			薬物治療学Ⅰ			
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)		薬理学実習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【②血液・造血系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅳ			
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。						
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨芽球形貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球形貧血						薬学総合講義Ⅱ(選)
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学Ⅳ 薬物治療学Ⅱ			
5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複) (E2(7))【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)						
<b>【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】</b>						
1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅳ			
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学Ⅴ	薬物治療学Ⅶ		
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ				
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、糖尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石			化学療法学	薬物治療学Ⅶ 薬理学Ⅵ(選)		
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜炎、子宮筋腫		薬理学Ⅱ	薬理学Ⅴ	薬物治療学Ⅶ		
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療学Ⅶ 薬理学Ⅵ(選)		
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症				薬物治療学Ⅶ		
<b>【④化学構造と薬効】</b>						
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学Ⅱ	薬理学Ⅳ	薬理学Ⅶ(選)		
<b>(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬</b>						
<b>【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学Ⅴ	薬物治療学Ⅳ		
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【②消化器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎						
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		総合科学演習				
4) 肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学Ⅴ	薬物治療学Ⅳ		
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
6) 機能的消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						薬学総合講義Ⅱ(選)
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						薬学総合講義Ⅱ(選)
9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
<b>【③化学構造と薬効】</b>						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学Ⅴ	薬理学Ⅵ(選)		
<b>(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬</b>						
<b>【①代謝系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	総合科学演習		薬理学Ⅳ	薬物治療学Ⅵ	形態機能学総論(選)	薬学総合講義Ⅱ(選)
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
<b>【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。						
2) Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						薬学総合講義Ⅱ(選)
3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学Ⅴ	薬物治療学Ⅵ		
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内膜症(重複)、アジソン病(重複)						
<b>【③化学構造と薬効】</b>						
1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学Ⅳ 薬理学Ⅴ	薬物治療学Ⅵ		
<b>(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬</b>						
<b>【①眼疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ 総合科学演習				
2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学Ⅲ	薬理学Ⅵ(選)		
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅲ	薬理学Ⅴ 薬物治療学Ⅲ	薬理学Ⅵ(選)		
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎			薬物治療学Ⅲ			
<b>【③皮膚疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(2)【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)			薬理学Ⅴ 薬物治療学Ⅲ			
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(7)【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照)			化学療法学 薬物治療学Ⅲ	薬理学Ⅵ(選)		
3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				高齢者医療Ⅰ 薬理学Ⅵ(選)		
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)			薬物治療学Ⅲ			
<b>【④化学構造と薬物】</b>						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学Ⅱ		薬理学Ⅵ(選)		
<b>(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬</b>						
<b>【①抗菌薬】</b>						
1) 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(ST合剤を含む)、その他の抗菌薬			化学療法学	感染症学 薬理学Ⅵ(選)		
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。		病原微生物学		感染症学		
<b>【②抗菌薬の耐性】</b>						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			化学療法学	感染症学		
<b>【③細菌感染症の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 上気道炎(かぜ症候群(大部分がウイルス感染症)を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎		病原微生物学	薬物治療学Ⅲ	薬物治療学Ⅳ 感染症学		
2) 以下の消化器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎		病原微生物学 総合科学演習				
3) 以下の感覚器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎			薬物治療学Ⅲ			
4) 以下の尿路感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎				薬物治療学Ⅶ		
5) 以下の性感染症について、病態(病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等		病原微生物学	化学療法学	薬物治療学Ⅶ 感染症学		
6) 脳炎、髄膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療学Ⅴ		
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛囊炎、ハンセン病		病原微生物学	化学療法学	薬物治療学Ⅲ 感染症学		
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学Ⅰ			
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等			化学療法学	感染症学	社会への招待Ⅱa	
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症		病原微生物学	化学療法学 薬物治療学Ⅱ	薬物治療学Ⅳ 薬物治療学Ⅴ 薬物治療学Ⅶ		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】</b>						
1) ヘルペスウイルス感染症(単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病原微生物学	化学療法学 薬物治療学Ⅲ	感染症学 薬理学Ⅵ(選)		
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			化学療法学	薬物治療学Ⅳ 感染症学 薬理学Ⅵ(選)		
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) ウイルス性肝炎(HAV、HBV、HCV)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理(急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(重複)		病原微生物学	化学療法学 薬理学Ⅴ 分子腫瘍学	薬物治療学Ⅳ 感染症学 薬理学Ⅵ(選)		
5) 後天性免疫不全症候群(AIDS)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			化学療法学 薬物治療学Ⅱ	感染症学 薬理学Ⅵ(選)		
6) 以下のウイルス感染症(プリオン病を含む)について、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性紅斑(リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob(クロイツフェルト・ヤコブ)病			化学療法学 薬物治療学Ⅱ 薬物治療学Ⅲ	薬物治療学Ⅳ 薬物治療学Ⅴ		
<b>【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】</b>						
1) 抗真菌薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			化学療法学	薬理学Ⅵ(選)		
2) 以下の真菌感染症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症		病原微生物学	化学療法学	薬物治療学Ⅳ 薬物治療学Ⅶ		
<b>【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢		病原微生物学	化学療法学 薬物治療学Ⅱ	薬物治療学Ⅳ 薬物治療学Ⅶ 薬理学Ⅵ(選)		
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症			化学療法学	薬物治療学Ⅳ 薬理学Ⅵ(選)		
<b>【⑦悪性腫瘍】</b>						
1) 腫瘍の定義(良性腫瘍と悪性腫瘍の違い)を説明できる。			分子腫瘍学			
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査(細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー(腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学(がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因				臨床腫瘍学		
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			分子腫瘍学			
<b>【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			化学療法学 分子腫瘍学	臨床腫瘍学 薬理学Ⅵ(選) (選)形態機能学総論		
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む)、血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。			分子腫瘍学		社会への招待Ⅱ a(選)	
4) 代表的ながん化学療法法のレジメン(FOLF0X等)について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。				臨床腫瘍学		
5) 以下の白血病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人T細胞白血病(ATL)			分子腫瘍学 薬物治療学Ⅱ			
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学Ⅱ			
7) 骨肉腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療学Ⅵ		
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌		総合科学演習	分子腫瘍学	薬物治療学Ⅳ 臨床腫瘍学		
9) 肺癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					先端応用薬学総論Ⅵ (選)	
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍			薬物治療学Ⅲ	薬物治療学Ⅴ		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌			分子腫瘍学	薬物治療学Ⅶ 臨床腫瘍学		
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍(腎癌、膀胱癌)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
13) 乳癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
<b>【⑨がん終末期医療と緩和ケア】</b>						
1) がん終末期の病態(病態生理、症状等)と治療を説明できる。			薬物治療学Ⅲ	臨床腫瘍学 臨床腫瘍学 形態機能学総論(選)		
2) がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
<b>【⑩化学構造と薬物】</b>						
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			化学療法学 分子腫瘍学	薬理学Ⅵ(選)		
<b>(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報</b>						
<b>【①組換え体医薬品】</b>						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				先端医療薬学	医薬品開発Ⅱ(選)	
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
<b>【②遺伝子治療】</b>						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				先端医療薬学	医薬品開発Ⅱ(選)	
<b>【③細胞、組織を利用した移植医療】</b>						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				先端医療薬学	医薬品開発Ⅱ(選)	
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。						
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。						
4) 胚性幹細胞(ES細胞)、人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた細胞移植医療について概説できる。						
<b>(9) 要指導医薬品・一般医薬品とセルフメディケーション</b>						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。				植物療法学 一般医薬品学		
2) 要指導医薬品および一般医薬品(リスクの程度に応じた区分(第一類、第二類、第三類)も含む)について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。						
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。			症候学	一般医薬品学		
4) 要指導医薬品・一般医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)				臨床医学総論Ⅰ 一般医薬品学		
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				植物療法学 一般医薬品学	社会への招待Ⅱ b(選)	
6) 主な養生法(運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む)とその健康の保持・促進における意義を説明できる。						
7) 要指導医薬品・一般医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。						
8) 要指導医薬品・一般医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)				一般医薬品学		
<b>(10) 医療の中の漢方薬</b>						
<b>【①漢方薬の基礎】</b>						
1) 漢方の特徴について概説できる。			生薬学実習 漢方薬学	臨床漢方治療学		
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証						
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。						
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。						臨床漢方治療学 植物療法学
<b>【②漢方薬の応用】</b>						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。			漢方薬学	臨床漢方治療学	先端応用薬学総論Ⅱ(選)	
2) 日本薬局方に記載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。			生薬学実習 漢方薬学			
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。						先端応用薬学総論Ⅱ(選)
<b>【③漢方薬の注意点】</b>						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。			生薬学実習 漢方薬学	臨床漢方治療学	先端応用薬学総論Ⅱ(選)	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(11) 薬物治療の最適化</b>						
<b>【①総合演習】</b>						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)				薬物治療学演習		
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)						
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)						
<b>E3 薬物治療に役立つ情報</b>						
<b>(1) 医薬品情報</b>						
<b>【①情報】</b>						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。			医療情報 I			
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。						
3) 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。			医療情報 I 医薬品開発 I (選)			
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。						
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。						
<b>【②情報源】</b>						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。						
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。			医療情報 I			
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。						
4) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。						
5) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。			医療情報 I 一般用医薬品学			
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。			医療情報 I			
<b>【③収集・評価・加工・提供・管理】</b>						
1) 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)				ブレ実務実習 II (医療情報)		
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)				ブレ実務実習 II (医療情報)		
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医療情報 I			
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)				ブレ実務実習 II (医療情報)		
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。						
<b>【④EBM (Evidence-based Medicine)】</b>						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。						
2) 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。						
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。(E3 (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)			医療情報 I			
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。						
<b>【⑤生物統計】</b>						
1) 臨床研究における基本的な統計量(平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など)の意味と違いを説明できる。				薬理学実習		
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。					医療情報 III	
3) 代表的な分布(正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 $\chi^2$ 分布、F分布)について概説できる。			生物統計学			
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。						
5) 二群間の差の検定(t検定、 $\chi^2$ 検定など)を実施できる。(技能)				薬理学実習	医療情報 III ブレ実務実習 II (医療情報)	
6) 主な回帰分析(直線回帰、ロジスティック回帰など)と相関係数の検定について概説できる。					医療情報 III	
7) 基本的な生存時間解析法(カプラン・マイヤー曲線など)について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【⑥臨床研究デザインと解析】</b>						
1) 臨床研究 (治験を含む) の代表的な手法 (介入研究、観察研究) を列挙し、それらの特徴を概説できる。				医療情報Ⅲ		
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。						
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン (症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など) について概説できる。						
4) 副作用の因果関係を評価するための方法 (副作用判定アルゴリズムなど) について概説できる。						
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。						
6) 介入研究の計画上の技法 (症例数設定、ランダム化、盲検化など) について概説できる。						
7) 統計解析時の注意点について概説できる。						
8) 介入研究の効果指標 (真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント) の違いを、例を挙げて説明できる。						
9) 臨床研究の結果 (有効性、安全性) の主なパラメータ (相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合) を説明し、計算できる。 (知識・技能)					医療情報Ⅲ プレ実務実習Ⅱ (医療情報)	
<b>【⑦医薬品の比較・評価】</b>						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。				医療情報Ⅲ		
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。 (技能)				医療情報Ⅲ プレ実務実習Ⅱ (医療情報)		
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)						
<b>(2) 患者情報</b>						
<b>【①情報と情報源】</b>						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。				医療情報Ⅱ 一般用医薬品学		
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。				医療情報Ⅱ		
<b>【②収集・評価・管理】</b>						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。				医療情報Ⅱ		
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。						
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。						
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A (2) 【③患者の権利】参照)						
<b>(3) 個別化医療</b>						
<b>【①遺伝的素因】</b>						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				医療情報Ⅱ		
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。						
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
<b>【②年齢的要因】</b>						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医療情報Ⅱ		
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				医療情報Ⅱ 高齢者医療Ⅰ		
<b>【③臓器機能低下】</b>						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				医療情報Ⅱ		
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						
<b>【④その他の要因】</b>						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。				医療情報Ⅱ		
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、腹水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
<b>【⑤個別化医療の計画・立案】</b>						
1) 個別の患者情報 (遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など) と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)				医療情報Ⅱ 高齢者医療Ⅰ		
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。				医療情報Ⅱ	先端応用薬学総論Ⅵ (選)	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>E4 薬の生体内運命</b>						
<b>(1) 薬物の体内動態</b>						
<b>【①生体膜透過】</b>						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。						
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。		薬物動態学 I				先端応用薬学総論Ⅳ (選)
<b>【②吸収】</b>						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。						薬学総合講義Ⅱ (選)
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。						
3) 薬物の吸収に影響する因子 (薬物の物性、生理学的要因など) を列挙し、説明できる。		薬物動態学 I				
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
5) 初回通過効果について説明できる。						薬学総合講義Ⅱ (選)
<b>【③分布】</b>						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。						
2) 薬物の組織移行性 (分布容積) と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。						薬学総合講義Ⅱ (選)
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。		薬物動態学 I				
4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。						
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。						
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						薬物動態学Ⅲ 薬物動態学実習
<b>【④代謝】</b>						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。						薬学総合講義Ⅱ (選)
2) 薬物代謝の第Ⅰ相反応 (酸化・還元・加水分解)、第Ⅱ相反応 (抱合) について、例を挙げて説明できる。						薬物動態学Ⅲ
3) 代表的な薬物代謝酵素 (分子種) により代謝される薬物を列挙できる。						
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。						
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。						
<b>【⑤排泄】</b>						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。						薬学総合講義Ⅱ (選)
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。						
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。						薬物動態学Ⅲ
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。						
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
<b>(2) 薬物動態の解析</b>						
<b>【①薬物速度論】</b>						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。						薬学総合講義Ⅱ (選) 先端応用薬学総論Ⅳ (選)
2) 線形 1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)						薬物動態学Ⅱ 薬物動態学実習
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)						薬物動態学Ⅲ
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。						薬物動態学Ⅱ 薬物動態学実習
5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。						薬物動態学Ⅱ 薬物動態学Ⅲ 薬物動態学実習
6) 薬物動態学-薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。						薬物動態学Ⅱ 薬物動態学実習
<b>【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】</b>						
1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。						薬物動態学Ⅲ
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。						
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)						薬物動態学Ⅱ 薬物動態学Ⅲ 薬物動態学実習
4) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						先端応用薬学総論Ⅳ (選) 薬物動態学Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>E5 製剤化のサイエンス</b>						
<b>(1) 製剤の性質</b>						
<b>【①固形材料】</b>						
1) 粉体の性質について説明できる。			製剤学Ⅱ 製剤学実習			
2) 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。			製剤学Ⅱ			
3) 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2 (2) 【①酸・塩基平衡】1. 及び【②各種の化学平衡】2. 参照)		製剤学Ⅰ	製剤学実習			
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。						
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
<b>【②半固形・液状材料】</b>						
1) 流動と変形(レオロジー)について説明できる。		製剤学Ⅰ	製剤学実習			
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。						
<b>【③分散系材料】</b>						
1) 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2 (2) 【②各種の化学平衡】4. 参照)		製剤学Ⅰ	製剤学実習			
2) 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。						
3) 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。						
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
<b>【④薬物及び製剤材料の物性】</b>						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			製剤学実習			
2) 薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。 (C1 (3) 【①反応速度】1. ~7. 参照)		製剤学Ⅰ				
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
<b>(2) 製剤設計</b>						
<b>【①代表的な製剤】</b>						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤学Ⅱ 製剤学実習			
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						
3) 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。						
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学Ⅱ			
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。				高齢者医療Ⅰ		
6) その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。						
<b>【②製剤化と製剤試験法】</b>						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤学Ⅱ 製剤学実習			
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。						
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤学Ⅱ			
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。			製剤学Ⅱ 製剤学実習			
<b>【③生物学的同等性】</b>						
1) 製剤の特性(適用部位、製剤からの薬物の放出性など)を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			製剤学Ⅲ			
<b>(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)</b>						
<b>【①DDS の必要性】</b>						
1) DDSの概念と有用性について説明できる。						先端応用薬学総論Ⅵ (選)
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4. も参照)			製剤学Ⅲ			
<b>【②コントロールドリリース(放出制御)】</b>						
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。						
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学Ⅲ			
3) コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【③ターゲティング（標的指向化）】</b>						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。						
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学Ⅲ			
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
<b>【④吸収改善】</b>						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。						
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学Ⅲ			
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>F 薬学臨床</b>						
前)：病院・薬局での実習履修前に修得すべき事項						
<b>(1) 薬学臨床の基礎</b>						
<b>【①早期臨床体験】</b> ※原則として2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	早期臨床体験					
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)						
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)				病態検査学実習		
<b>【②臨床における心構え】</b> [A(1)、(2)参照]						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)		プレゼンテーション				海外実務実習(選)
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)				ブレ実務実習Ⅱ(実践薬学)		
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)		プレゼンテーション				
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)						
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)				病院実習 薬局実習	病院実習 薬局実習	
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)					病院実習 薬局実習 海外実務実習(選)	
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)						
<b>【③臨床実習の基礎】</b>						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。						
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。						
3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。				ブレ実務実習Ⅰ(調剤)		海外実務実習(選)
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。						
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 [B(3)①参照]						
6) 病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。						
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。				病院実習	病院実習 海外実務実習(選)	
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)					病院実習	
9) 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。						
10) 産前産後医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実習 薬局実習	
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。						
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。						
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。						
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					薬局実習	
15) 薬局の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)						
<b>(2) 処方せんに基づく調剤</b>						
<b>【①法令・規則等の理解と遵守】</b> [B(2)、(3)参照]						
1) 前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。				ブレ実務実習Ⅰ(調剤) ブレ実務実習Ⅱ(総合演習)	海外実務実習(選)	
2) 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)					病院実習 薬局実習	
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)						
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。					薬局実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【②処方せんと疑義照会】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。		総合科学演習		プレ実務実習Ⅰ（調剤）		
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。						
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。			製剤学実習	プレ実務実習Ⅰ（調剤）		
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。				プレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
5) 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。						
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）				プレ実務実習Ⅰ（実践薬学） プレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
7) 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）		総合科学演習				
8) 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）					病院実習 薬局実習	
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）						
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方妥当であるか判断できる。（知識・技能）						
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）						
<b>【③処方せんに基づく医薬品の調製】</b>						
1) 前) 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）			製剤学実習	プレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
2) 前) 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。				プレ実務実習Ⅱ（調剤）		
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）			製剤学実習	プレ実務実習Ⅱ（実践薬学） プレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。				プレ実務実習Ⅱ（調剤）		
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。						
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）				プレ実務実習Ⅰ（実践薬学）		
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）				プレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）						
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）					病院実習 薬局実習	
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）						
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）						
12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）				プレ実務実習Ⅰ（調剤） 病院実習 薬局実習	病院実習 薬局実習	
13) 一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）				病院実習 薬局実習		
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）				プレ実務実習Ⅰ（調剤） 病院実習 薬局実習	病院実習 薬局実習	
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。					病院実習 薬局実習	
16) 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）						
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）					病院実習	
18) 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）					病院実習 薬局実習	
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】</b>						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。（態度）				プレ実務実習Ⅰ（医薬品管理・患者対応） プレ実務実習Ⅱ（実践薬学） プレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				プレ実務実習Ⅰ（医薬品管理・患者対応）		
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）				プレ実務実習Ⅰ（医薬品管理・患者対応） プレ実務実習Ⅱ（実践薬学） プレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）				プレ実務実習Ⅰ（医薬品管理・患者対応） 一般用医薬品学 プレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				プレ実務実習Ⅱ（実践薬学） プレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（技能・態度）				プレ実務実習Ⅰ（医薬品管理・患者対応）		
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				プレ実務実習Ⅱ（実践薬学） プレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（技能）					病院実習 薬局実習	
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。（態度）						
10) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）				一般用医薬品学 病院実習 薬局実習		
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）				病院実習 薬局実習	病院実習 薬局実習	
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）				一般用医薬品学 病院実習 薬局実習		
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。（知識・態度）					病院実習 薬局実習	
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）						
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）						
<b>【⑤医薬品の供給と管理】</b>						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				プレ実務実習Ⅰ（医薬品管理・患者対応）	海外実務実習（選）	
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。						
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				プレ実務実習Ⅰ（医薬品管理・患者対応） プレ実務実習Ⅱ（総合演習）		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。						
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。			放射薬品学 放射薬品学実習(選)	ブレ実務実習Ⅰ(医薬品管理・患者応対)		
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。						
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。			漢方薬学			
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。						
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)						
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)					病院実習 薬局実習	
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。						
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)						
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)					病院実習	
<b>【⑥安全管理】</b>						
1) 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を挙げて説明できる。				ブレ実務実習Ⅰ(医薬品管理・患者応対)		
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を挙げて説明できる。						
3) 前) 代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)				ブレ実務実習Ⅰ(医薬品管理・患者応対) ブレ実務実習Ⅱ(実践薬学)		
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				感染症学 ブレ実務実習Ⅰ(医薬品管理・患者応対)		
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)				ブレ実務実習Ⅰ(医薬品管理・患者応対) ブレ実務実習Ⅱ(実践薬学) ブレ実務実習Ⅱ(総合演習)		
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				ブレ実務実習Ⅰ(医薬品管理・患者応対)		
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。						
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)						
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。						
10) 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)					病院実習 薬局実習	
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)						
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)						
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)				病院実習		
14) 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)				感染症学 病院実習	病院実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(3) 薬物療法の実践</b>						
<b>【①患者情報の把握】</b>						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				ブレ実務実習Ⅰ（調剤）		
2) 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度） 〔E3（2）①参照〕				ブレ実務実習Ⅱ（実践薬学） ブレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
3) 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。			症候学	病態検査学実習 ブレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）				病態検査学実習 ブレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）						
6) 患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）					病院実習 薬局実習	
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）						
<b>【②医薬品情報の収集と活用】〔E3（1）参照〕</b>						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）				ブレ実務実習Ⅱ（医療情報）		
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）					病院実習 薬局実習 海外実務実習（選）	
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）				病院実習 薬局実習		
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）						
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）					病院実習 薬局実習	
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）						
<b>【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				ブレ実務実習Ⅱ（医療情報）		処方設計管理学
2) 前) 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				高齢者医療Ⅰ ブレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				高齢者医療Ⅰ ブレ実務実習Ⅱ（実践薬学） ブレ実務実習Ⅱ（医療情報）		
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				ブレ実務実習Ⅰ（調剤）		
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				ブレ実務実習Ⅰ（調剤） 高齢者医療Ⅰ ブレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。						
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。						
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。						
9) 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。（知識・態度）					病院実習 薬局実習	
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）						
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）					病院実習	
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）						
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					病院実習 薬局実習	
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				ブレ実務実習Ⅱ（医療情報）		処方設計管理学
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。（知識・技能）				ブレ実務実習Ⅱ（総合演習）		
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。（知識・技能）						
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。（知識・態度）				病院実習 薬局実習	病院実習 薬局実習	処方設計管理学
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定のプロセスを提案できる。（知識・態度）					病院実習	
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。（知識・技能）						
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。						
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					病院実習 薬局実習	
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。						処方設計管理学
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。（知識・態度）					病院実習	
11) 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。（技能）					病院実習 薬局実習	
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。（知識・技能）						
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）					病院実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(4) チーム医療への参画</b> [A (4) 参照]						
<b>【①医療機関におけるチーム医療】</b>						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				ブレ実務実習 I (調剤)	海外実務実習 (選)	
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。						
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法 (連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等) を説明できる。				病院実習 薬局実習	病院実習 薬局実習	
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)						
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態 (病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化 (治療効果、副作用、心理状態、QOL等) の情報を共有する。(知識・態度)						
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議 (カンファレンスや患者回診への参加等) する。(知識・態度)					病院実習	
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)						
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)						
9) 病院内の多様な医療チーム (ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等) の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)				感染症学 病院実習	病院実習	
<b>【②地域におけるチーム医療】</b>						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制 (地域包括ケア) およびその意義について説明できる。				ブレ実務実習 I (調剤)		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)				ブレ実務実習 II (実践薬学)		
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)					病院実習 薬局実習	
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)					薬局実習	
<b>(5) 地域の保健・医療・福祉への参画</b> [B (4) 参照]						
<b>【①在宅 (訪問) 医療・介護への参画】</b>						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				地域医療 II ブレ実務実習 I (医薬品管理・患者応対)	海外実務実習 (選)	
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。						
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。						
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務 (訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務) を体験する。(知識・態度)						
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)					薬局実習	
6) 在宅患者の病状 (症状、疾患と重症度、栄養状態等) とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)						
<b>【②地域保健 (公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動) への参画】</b>						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動 (薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等) について説明できる。	スポーツ科学 (選)	地域医療			海外実務実習 (選)	
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。				ブレ実務実習 I (医薬品管理・患者応対)		
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)			衛生薬学実習			
4) 地域住民の衛生管理 (消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等) における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)					薬局実習	
<b>【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】</b> [E 2 (9) 参照]						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)				ブレ実務実習 II (実践薬学)		
2) 前) 代表的な症候 (頭痛・腹痛・発熱等) を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)				一般用医薬品学 ブレ実務実習 II (実践薬学) ブレ実務実習 II (総合演習)		
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤 (漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)				ブレ実務実習 II (実践薬学)		
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)				一般用医薬品学 ブレ実務実習 II (実践薬学)		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）				薬局実習		
6) 薬局者から収集した情報や身体所見などに基づき、薬局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）				一般用医薬品学 薬局実習	薬局実習	
7) 薬局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）						
8) 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を薬局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）						
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）						
<b>【④災害時医療と薬剤師】</b>						
1) 前) 災害時医療について概説できる。				プレ実務実習Ⅰ（医薬品管理・患者対応）		
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					病院実習	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）					薬局実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>G 薬学研究</b>						
<b>(1) 薬学における研究の位置づけ</b>						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。				生命科学特別講義 (選) 卒業研究 I	卒業研究 I 社会への招待 II a(選) 社会への招待 II b(選) 社会への招待 II c(選) 社会への招待 II d(選)	卒業研究 II a(選) 卒業研究 II b(選) 先端応用薬学総論IV(選)
2) 研究には自立性と獨創性が求められていることを知る。					卒業研究 I 社会への招待 II d(選)	
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)						
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)				卒業研究 I	卒業研究 I 社会への招待 II a(選) 社会への招待 II b(選) 社会への招待 II c(選) 社会への招待 II d(選)	卒業研究 II a(選) 卒業研究 II b(選)
<b>(2) 研究に必要な法規範と倫理</b>						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。						
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。						
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲					卒業研究 I	卒業研究 II a(選) 卒業研究 II b(選)
<b>(3) 研究の実践</b>						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)						
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)						
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)						
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)						
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)						
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)					卒業研究 I	卒業研究 II a(選) 卒業研究 II b(選)

(基礎資料3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 <sup>1)</sup>		220	220	220	220	220	220
入学時の学生数 <sup>2)</sup>	A	241	241	239	241	270	278
在籍学生数 <sup>3)</sup>	B	250	244	250	226	259	282
過年度在籍者数 <sup>4)</sup>	留年による者 C	9	12	27	17	25	45
	休学による者 D	0	0	0	0	0	0
編入学などによる在籍者数	E	0	2	0	2	0	0
ストレート在籍者数 <sup>5)</sup>	F	241	230	223	207	234	237
ストレート在籍率 <sup>6)</sup>	F/A	1.00	0.95	0.93	0.86	0.87	0.85
過年度在籍率 <sup>7)</sup>	(C+D)/B	0.04	0.05	0.11	0.08	0.10	0.16

1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。

2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。

3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。

4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。

5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。  
 ストレート在籍者数 [B - (C + D + E)]

6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

(基礎資料3-2) 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	277	251	251	252	250
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	0	0	1	
	退学者数 <sup>2)</sup>	6	8	5	7	
	留年者数 <sup>2)</sup>	10	12	11	9	
	進級率 <sup>3)</sup>	0.94	0.92	0.94	0.93	
2年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	285	281	248	254	245
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	2	0	0	
	退学者数 <sup>2)</sup>	5	7	8	5	
	留年者数 <sup>2)</sup>	20	15	19	6	
	進級率 <sup>3)</sup>	0.91	0.91	0.89	0.96	
3年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	253	285	271	233	250
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	4	1	2	
	退学者数 <sup>2)</sup>	4	4	4	3	
	留年者数 <sup>2)</sup>	25	12	13	7	
	進級率 <sup>3)</sup>	0.89	0.93	0.93	0.95	
4年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	244	233	271	262	226
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	0	0	0	
	退学者数 <sup>2)</sup>	0	1	1	1	
	留年者数 <sup>2)</sup>	9	2	6	3	
	進級率 <sup>3)</sup>	0.96	0.99	0.97	0.98	
5年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	219	234	231	265	259
	休学者数 <sup>2)</sup>	1	0	0	0	
	退学者数 <sup>2)</sup>	2	1	0	1	
	留年者数 <sup>2)</sup>	0	1	2	1	
	進級率 <sup>3)</sup>	0.99	0.99	0.99	0.99	

(基礎資料3-3) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 <sup>1)</sup> A		224	218	235	230	264
学士課程修了(卒業)者数 <sup>1)</sup> B		198	204	214	210	231
卒業率 <sup>2)</sup> B/A		0.88	0.94	0.91	0.91	0.88
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 <sup>3)</sup>	6年 C	183	186	196	191	212
	7年	11	14	15	16	15
	8年	1	4	3	1	4
	9年以上	1	0	0	1	0
入学時の学生数(実入学者数) <sup>4)</sup> D		245	235	258	238	278
ストレート卒業率 <sup>5)</sup> C/D		0.75	0.79	0.76	0.80	0.76

- 1) 当該年度の9月に卒業した学生は、「在籍学生数」(A)にも、「卒業者数」(B)にも含みません。  
なお、卒業者数は、当該年度の卒業判定会議(年度末)における卒業認定者数を記載してください。
- 2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値(B/A)を小数点以下第2位まで記載してください。
- 3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。
- 4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。
- 5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値(C/D)を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	平均値 <sup>5)</sup>
入学定員	A	220	220	220	220	220	220	
実入学者数 <sup>1)</sup>	B	278	270	241	239	241	241	252
入学定員充足率 <sup>2)</sup>	B/A	1.26	1.23	1.10	1.09	1.10	1.10	1.15
編入学定員		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
編入学者数 <sup>3)</sup>	C+D+E	1			2		2	1
編入学した学年別の内数 <sup>4)</sup>	2年次 C	1			2		2	1
	3年次 D							
	4年次 E							

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入(転入)学による入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

(基礎資料4) 学生受入れ状況(入学試験種類別)

	学科名	入試の種類			2017年度入試 (2016年度実施)	2018年度入試 (2017年度実施)	2019年度入試 (2018年度実施)	2020年度入試 (2019年度実施)	2021年度入試 (2020年度実施)	2022年度入試 (2021年度実施)	募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均)
			受験者数	合格者数							
薬学部	一般入試	受験者数	1,122	1,173	916	741	672	792			
		合格者数	173	215	240	218	211	143			
		入学者数(A)	123	121	124	130	94	55			
		募集定員数(B)	100	100	100	100	100	100			
		A/B*100(%)	123.0	121.0	124.0	130.0	94.0	55.0			
	共通テスト利用入試	受験者数	1,086	793	719	701	558	509			
		合格者数	170	199	194	175	155	134			
		入学者数(A)	17	21	20	9	5	6			
		募集定員数(B)	20	20	20	20	15	15			
	センター試験入試 (後期) (2019年度入試まで実施)	受験者数	48	32	20						
		合格者数	10	10	10						
		入学者数(A)	3	2	5						
	総合入試 (専願制)	募集定員数(B)	10	10	10						
		A/B*100(%)	30.0	20.0	50.0						
		受験者数	158	141	91	118	98	125			
		合格者数	37	39	37	30	32	48			
	推薦入試 (指定校制)	入学者数(A)	37	39	37	30	32	48			
		募集定員数(B)	37	37	37	30	25	25			
		A/B*100(%)	100.0	105.4	100.0	100.0	128.0	192.0			
		受験者数	86	50	49	53	74	68			
	推薦入試 (公募併願制)	合格者数	86	50	49	53	74	68			
		入学者数(A)	86	50	49	53	74	68			
		募集定員数(B)	50	50	50	50	50	50			
		A/B*100(%)	172.0	100.0	98.0	106.0	148.0	136.0			
	社会人入試	受験者数				85	155	155			
		合格者数				38	63	81			
		入学者数(A)				12	30	57			
		募集定員数(B)				10	20	20			
	同窓生子女入試	A/B*100(%)				120.0	150.0	285.0			
		受験者数	2	3	2	1	1	0			
		合格者数	0	2	1	0	1	0			
		入学者数(A)	0	1	1	0	1	0			
一般入試 (共通テスト併用)	募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名				
	A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—				
	受験者数	14	14	17	13	11	14				
	合格者数	4	7	3	5	4	4				
学科計	入学者数(A)	4	7	3	5	4	4				
	募集定員数(B)	3	3	3	若干名	若干名	若干名				
	A/B*100(%)	133.3	233.3	100.0	—	—	—				
	受験者数				285	253	263				
編(転)入試験	合格者数				39	41	36				
	入学者数(A)				2	1	3				
	募集定員数(B)				10	10	10				
	A/B*100(%)				20.0	10.0	30.0				
	受験者数	2,516	2,206	1,814	1,997	1,822	1,926				
編(転)入試験	合格者数	480	522	534	558	581	514				
	入学者数(A)	270	241	239	241	241	241				
	募集定員数(B)	220	220	220	220	220	220				
	A/B*100(%)	122.7	109.5	108.6	109.5	109.5	109.5				
	受験者数	7	8	5	4	3	3				
編(転)入試験	合格者数	0	1	2	0	3	2				
	入学者数(A)	0	0	2	0	2	2				
	募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名				
	A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—				

- [注] 1 入学者数は、実施した入試により5月1日(評価対象年度に実施した入試のデータは調査提出時)に新入学者となっている学生数を記入してください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B\*100(%)]を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入試(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。



(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 <sup>1)</sup>
25名	10名	24名	10名	69名	36名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 <sup>2)</sup>
4名	1名	4名	1名	10名	6名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2の教員は含まない

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 <sup>1)</sup>	兼任教員 <sup>2)</sup>
0名	0名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 <sup>1)</sup>	合計
22名	0名	0名	0名

自己点検・評価を実施した年度の実績を記入

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員

事務職員 <sup>1)</sup>	技能職員 <sup>2)</sup>	その他 <sup>3)</sup>	合計
11(2)名	4(3)名	0名	15(5)名

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤者数は( )に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など



(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
60代	9名	0名	0名	0名	9名	13.0%
50代	13名	2名	6名	0名	21名	30.4%
40代	3名	6名	7名	2名	18名	26.1%
30代	0名	2名	11名	8名	21名	30.4%
20代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
合計	25名	10名	24名	10名	69名	100.0%

専任教員の定年年齢:(65歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	24名	8名	19名	5名	56名	81.2%
女性	1名	2名	5名	5名	13名	18.8%



(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬理学Ⅰ		15.17	0.51
							薬理学Ⅱ		15.17	0.51
							薬理学実習	◎	45.00	1.50
							薬理学Ⅴ		15.17	0.51
							薬学総合演習Ⅱ		7.00	0.23
							先端応用薬学総論Ⅳ		1.17	0.04
							薬理学特論Ⅰ	院	9.33	0.31
							薬物治療学特論Ⅱ	院	17.50	0.58
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	細胞生物学		15.17	0.51
							人体生理学Ⅰ		15.17	0.51
							人体生理学Ⅱ		15.17	0.51
							薬理学実習	◎	45.00	1.50
							生命科学特別講義		2.33	0.08
							先端応用薬学総論Ⅳ		2.33	0.08
							薬科学研究序論	院	1.17	0.04
							薬学研究序論	院	4.67	0.16
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生化学Ⅰ		15.17	0.51
							生化学Ⅱ		15.17	0.51
							生化学Ⅲ		15.17	0.51
							生化学実習	◎	30.00	1.00
							生命科学		15.17	0.51
							先端応用薬学総論Ⅲ		2.33	0.08
							生化学特論	院	9.33	0.31
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	分析化学Ⅰ		15.17	0.51
							分析化学Ⅱ		15.17	0.51
							分析化学実習	◎	60.00	2.00
							分析化学Ⅲ		15.17	0.51
							薬学機器分析学		1.17	0.04
							薬学演習Ⅱ		2.33	0.08
							薬学総合演習Ⅰ		2.33	0.08
							先端応用薬学総論Ⅰ		2.33	0.08
							生体分子分析学特論	院	9.33	0.31
							薬科学研究序論	院	1.17	0.04
							薬学研究序論	院	3.50	0.12
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	有機化学実習Ⅰ	◎	30.00	1.00
							有機化学Ⅲ		30.33	1.01
							有機化学Ⅳ		15.17	0.51
							医薬品合成化学Ⅱ		30.33	1.01
							先端応用薬学総論Ⅱ		2.33	0.08
							薬科学研究序論	院	1.17	0.04
							薬学研究序論	院	3.50	0.12
							医薬品分子設計学特論Ⅱ	院	17.50	0.58
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	プレ実務実習Ⅰ(調剤)	◎	16.33	0.54
							プレ実務実習Ⅱ(実践)	◎	103.50	3.45
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							臨床薬学総論		1.17	0.04
							実践医療薬学特論	院	17.50	0.58
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬物治療学Ⅰ		15.17	0.51
							病態検査学実習	◎	39.16	1.31
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							薬物治療学Ⅳ		15.17	0.51
							薬物治療学演習		10.50	0.35
							薬学総合演習Ⅱ		3.50	0.12
							先端応用薬学総論Ⅴ		2.33	0.08
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬物動態学Ⅰ		15.17	0.51
							薬物動態学実習	◎	30.00	1.00
							放射薬品学		8.17	0.27
							薬物動態学Ⅱ		15.17	0.51
							薬物動態学Ⅲ		5.83	0.19
							薬学総合演習Ⅰ		2.33	0.08
							薬学総合演習Ⅱ		7.00	0.23
							先端応用薬学総論Ⅳ		1.17	0.04
							薬科学研究序論	院	1.17	0.04
							薬学研究序論	院	1.17	0.04
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	無機化学		15.17	0.51
							有機化学Ⅰ		15.17	0.51
							有機化学実習Ⅱ	◎	60.66	2.02
							薬学機器分析学		2.33	0.08
							生物有機化学		15.17	0.51
							先端応用薬学総論Ⅱ		2.33	0.08
							創薬化学特論	院	9.33	0.31
							薬科学研究序論	院	1.17	0.04
							薬学研究序論	院	1.17	0.04
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	衛生薬学実習	◎	60.00	2.00
							環境Ⅰ		21.00	0.70
							健康Ⅲ		15.17	0.51
							健康Ⅳ		15.17	0.51
							薬学演習Ⅱ		2.33	0.08
							薬学総合演習Ⅱ		7.00	0.23
							先端応用薬学総論Ⅲ		1.17	0.04
							衛生化学特論	院	9.33	0.31
							分子病態解析学特論Ⅴ	院	17.50	0.58
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎物理学Ⅰ		9.33	0.31
							薬学入門		10.50	0.35
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎生物学実習	◎	30.00	1.00
							分子生物学Ⅰ		15.17	0.51
							分子生物学Ⅱ		15.17	0.51
							分子生物学・免疫学実習	◎	30.00	1.00
							放射薬品学		4.67	0.16
							薬学演習Ⅰ		1.17	0.04
							薬学総合演習Ⅰ		4.67	0.16
							先端応用薬学総論Ⅲ		2.33	0.08
							基礎薬科学特論	院	1.17	0.04
							分子病態解析学特論Ⅳ	院	17.50	0.58
授業担当時間の合計								121.85	4.06	

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	衛生薬学実習	◎	60.00	2.00
							放射薬品学実習	◎	15.00	0.50
							環境Ⅱ		3.50	0.12
							健康Ⅰ		14.00	0.47
							健康Ⅱ		12.83	0.43
							医薬品安全性学		7.00	0.23
							薬学総合演習Ⅰ		2.33	0.08
							薬学総合演習Ⅱ		3.50	0.12
							先端応用薬学総論Ⅲ		2.33	0.08
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	微生物学		15.17	0.51
							病原微生物学		30.33	1.01
							微生物実習	◎	60.00	2.00
							化学療法学		15.17	0.51
							先端応用薬学総論Ⅱ		2.33	0.08
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	初等物理学演習		30.33	1.01
							製剤学Ⅰ		15.17	0.51
							製剤学実習	◎	30.00	1.00
							製剤学Ⅱ		15.17	0.51
							薬学機器分析学		1.17	0.04
							製剤学Ⅲ		9.33	0.31
							薬学演習Ⅰ		1.17	0.04
							薬学総合演習Ⅰ		2.33	0.08
							薬学総合演習Ⅱ		7.00	0.23
							先端応用薬学総論Ⅰ		2.33	0.08
							応用薬科学特論	院	1.17	0.04
							医薬品評価学特論Ⅰ	院	17.50	0.58
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学総合講義Ⅰ		45.50	1.52
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	初等物理学演習		30.33	1.01
							物理化学Ⅰ		30.33	1.01
							物理化学Ⅱ		30.33	1.01
							物理化学実習	◎	60.00	2.00
							生体分子解析学		15.17	0.51
							薬学演習Ⅰ		1.17	0.04
							薬学総合演習Ⅰ		2.33	0.08
							先端応用薬学総論Ⅰ		2.33	0.08
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎数学Ⅰ	30.33	1.01	
							基礎数学Ⅱ	30.33	1.01	
							初等数学演習	8.17	0.27	
							生物統計学	30.33	1.01	
							授業担当時間の合計	99.16	3.31	
薬学科	教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬物治療学Ⅲ	30.33	1.01	
							薬物治療学Ⅴ	15.17	0.51	
							薬物治療学演習	10.50	0.35	
							病態検査学実習	◎	39.16	1.31
							プレ実務実習Ⅱ(実践)	◎	103.50	3.45
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							先端応用薬学総論Ⅴ		2.33	0.08
							薬物療法学特論Ⅱ	院	9.33	0.31
							薬物治療学特論Ⅳ	院	17.50	0.58
							授業担当時間の合計	263.82	8.79	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎物理学Ⅰ	39.67	1.32	
							初等物理学演習	30.33	1.01	
							基礎物理学Ⅲ	30.33	1.01	
							物理化学実習	◎	60.00	2.00
							薬学演習Ⅱ		2.33	0.08
							先端応用薬学総論Ⅰ		2.33	0.08
							薬科学研究序論	院	1.17	0.04
							薬学研究序論	院	1.17	0.04
							授業担当時間の合計	167.33	5.58	

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学入門		1.17	0.04
							プレゼンテーション		32.66	1.09
							プレ実務実習Ⅱ(実践)	◎	103.50	3.45
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							先端応用薬学総論Ⅵ		2.33	0.08
							病院薬学特論Ⅱ	院	9.33	0.31
							薬科学研究序論	院	1.17	0.04
							薬学研究序論	院	1.17	0.04
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	病態検査学		10.50	0.35
							薬物治療学Ⅱ		30.33	1.01
							病態検査学実習	◎	39.16	1.31
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							薬物治療学演習		10.50	0.35
							先端医療薬学		15.17	0.51
							薬学総合演習Ⅱ		3.50	0.12
							先端応用薬学総論Ⅴ		2.33	0.08
							薬科学研究序論	院	1.17	0.04
							臨床薬学特論Ⅱ	院	9.33	0.31
							薬学研究序論	院	1.17	0.04
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	医療情報Ⅰ		15.17	0.51
							プレ実務実習Ⅱ(医療情報)	◎	103.50	3.45
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							医療情報Ⅰ		15.17	0.51
							医療情報Ⅱ		15.17	0.51
							医療情報Ⅲ		15.17	0.51
							実践薬物治療学		16.33	0.54
							薬学演習Ⅱ		2.33	0.08
							処方設計管理学		15.17	0.51
							薬学総合演習Ⅱ		3.50	0.12
							先端応用薬学総論Ⅴ		2.33	0.08
							応用薬科学特論	院	2.33	0.08
							医薬品評価学特論Ⅲ	院	17.50	0.58
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生薬学		30.33	1.01
							生薬学実習	◎	60.00	2.00
							天然物化学		3.50	0.12
							漢方薬学		30.33	1.01
							植物療法学		4.67	0.16
							先端応用薬学総論Ⅱ		2.33	0.08
							基礎薬科学特論	院	2.33	0.08
							生薬学特論	院	9.33	0.31
授業担当時間の合計								142.82	4.76	

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	英語 I a	30.33	1.01	
							英語 I b	60.68	2.02	
							英語 II a	60.68	2.02	
							英語 II b	30.33	1.01	
							授業担当時間の合計	182.02	6.07	
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎生物学実習	◎	30.00	1.00
							免疫学 I		15.17	0.51
							分子生物学・免疫学実習	◎	30.00	1.00
							免疫学 II		15.17	0.51
							薬学演習 I		1.17	0.04
授業担当時間の合計	91.51	3.05								
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	有機化学実習 I	◎	30.00	1.00
							有機化学 II		30.33	1.01
							医薬品合成化学 I		15.17	0.51
							薬学演習 I		1.17	0.04
							薬学総合演習 I		2.33	0.08
授業担当時間の合計	79.00	2.63								
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎生物学実習	◎	11.25	0.38
							微生物実習	◎	53.33	1.78
							分子生物学・免疫学実習	◎	30.00	1.00
							衛生薬学実習	◎	60.00	2.00
							放射薬品学		2.33	0.08
							放射薬品学実習	◎	15.00	0.50
							病態検査学実習	◎	39.16	1.31
授業担当時間の合計	211.07	7.04								

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	初等化学演習		15.17	0.51
							有機構造解析学		30.33	1.01
							有機化学実習Ⅱ	◎	60.66	2.02
							薬学演習Ⅱ		2.33	0.08
							薬学総合演習Ⅰ		2.33	0.08
							基礎薬科学特論	院	2.33	0.08
							授業担当時間の合計		113.15	3.77
薬学科	准教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学入門		1.17	0.04
							地域医療		8.17	0.27
							薬局管理学		15.17	0.51
							プレ実務実習Ⅱ(実践)	◎	103.50	3.45
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							一般用医薬品学		15.17	0.51
							薬学総合演習Ⅱ		3.50	0.12
							先端応用薬学総論Ⅵ		2.33	0.08
授業担当時間の合計		185.01	6.17							
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	初等物理学演習		30.33	1.01
							構造化学		15.17	0.51
							物理化学実習	◎	60.00	2.00
							基礎薬科学特論	院	2.33	0.08
							授業担当時間の合計		107.83	3.59

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬理学実習	◎	45.00	1.50
							薬理学Ⅳ		15.17	0.51
							薬学総合演習Ⅰ		2.33	0.08
							薬学総合演習Ⅱ		3.50	0.12
							先端応用薬学総論Ⅳ		1.17	0.04
							授業担当時間の合計		67.17	2.24
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	初等物理学演習		30.33	1.01
							基礎物理学Ⅱ		15.17	0.51
							授業担当時間の合計		45.50	1.52
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	病態検査学実習	◎	39.16	1.31
							薬物治療学Ⅶ		15.17	0.51
							薬物治療学演習		10.50	0.35
							薬学総合演習Ⅰ		2.33	0.08
							授業担当時間の合計		67.16	2.24
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生薬学実習	◎	60.00	2.00
							天然物化学		11.67	0.39
							植物療法学		10.50	0.35
							薬学演習Ⅰ		1.17	0.04
							授業担当時間の合計		83.34	2.78

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	講師 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	プレゼンテーション		32.66	1.09
							プレ実務実習Ⅱ(実践)	◎	103.50	3.45
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							プレ実務実習Ⅰ(医薬品)	◎	10.50	0.35
							薬学総合演習Ⅱ		3.50	0.12
							応用薬科学特論	院	2.33	0.08
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学総合講義Ⅱ		35.00	1.17
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	コミュニケーション		16.34	0.54
							ヒューマニズムⅠ		15.17	0.51
							ヒューマニズムⅡ		2.33	0.08
							ヒューマニズムⅢ		14.00	0.47
							プレ実務実習Ⅱ(実践)	◎	103.50	3.45
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							ヒューマニズムⅣ		4.67	0.16
							実用薬学英語		15.17	0.51
							先端応用薬学総論Ⅵ		2.33	0.08
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎生物学実習	◎	15.00	0.50
							スポーツ実習Ⅰ	◎	60.66	2.02
							スポーツ実習Ⅱ	◎	60.66	2.02
							スポーツ科学		15.17	0.51
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■		0.00	0.00	
							授業担当時間の合計		0.00	0.00
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎化学	39.67	1.32	
							初等化学演習	15.17	0.51	
							保健環境論	2.34	0.08	
							有機化学実習Ⅰ	◎	30.00	1.00
							薬学演習Ⅰ		1.17	0.04
							基礎薬科学特論	院	2.33	0.08
							授業担当時間の合計		90.68	3.02
薬学科	講師 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	地域医療Ⅱ	8.17	0.27	
							薬学演習Ⅱ	2.33	0.08	
							プレ実務実習Ⅱ(実践)	◎	103.50	3.45
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							プレ実務実習Ⅰ(医薬品)	◎	7.00	0.23
							先端応用薬学総論Ⅵ		2.33	0.08
							応用薬科学特論	院	2.33	0.08
授業担当時間の合計		161.66	5.39							
薬学科	講師 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	プレ実務実習Ⅰ(調剤)	◎	14.00	0.47
							プレ実務実習Ⅱ(実践)	◎	103.50	3.45
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							高齢者医療Ⅰ		8.17	0.27
							臨床薬学総論		2.33	0.08
							薬学総合演習Ⅱ		3.50	0.12
							授業担当時間の合計		167.50	5.58

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学入門		1.17	0.04
							薬事関係法規・制度Ⅰ		8.17	0.27
							プレ実務実習Ⅱ(実践)	◎	103.50	3.45
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							薬事関係法規・制度Ⅱ		30.33	1.01
							薬学演習Ⅱ		2.33	0.08
							薬事関係法規Ⅲ		8.17	0.27
							応用薬科学特論	院	2.33	0.08
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎化学		9.33	0.31
							コンピュータ入門		30.33	1.01
							総合科学演習		30.33	1.01
							薬学総合講義Ⅱ		3.50	0.12
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	初等化学演習	◎	15.17	0.51
							物理化学実習	◎	60.00	2.00
							分析化学実習	◎	60.00	2.00
							衛生薬学実習	◎	60.00	2.00
							製剤学実習	◎	30.00	1.00
							放射薬品学実習	◎	9.00	0.30
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	症候学		15.17	0.51
							病態検査学実習	◎	39.16	1.31
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							薬物治療学Ⅵ		15.17	0.51
							薬物治療学演習		10.50	0.35
							薬学演習Ⅱ		2.33	0.08
							応用薬科学特論	院	2.33	0.08
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	微生物実習	◎	60.00	2.00
							コンピュータ入門		30.33	1.01
							薬学演習Ⅰ		1.17	0.04
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学総合講義Ⅱ		7.00	0.23
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬理学実習	◎	45.00	1.50
							人体生理学Ⅲ		15.17	0.51
							薬学演習Ⅰ		1.17	0.04
							薬学総合演習Ⅰ		2.33	0.08
							先端応用薬学総論Ⅳ		1.17	0.04
							応用薬科学特論	院	2.33	0.08
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬理学Ⅲ		15.17	0.51
							薬理学実習	◎	45.00	1.50
							薬理学Ⅵ		15.17	0.51
							薬学演習Ⅱ		2.33	0.08
							先端応用薬学総論Ⅳ		1.17	0.04
							薬学総合演習Ⅱ		3.50	0.12
							応用薬科学特論	院	2.33	0.08
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎生物学実習	◎	30.00	1.00
							基礎生物学		39.67	1.32
							分子生物学・免疫学実習	◎	30.00	1.00
							病態検査学実習	◎	39.16	1.31
							基礎薬科学特論	院	2.33	0.08
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	衛生薬学実習	◎	60.00	2.00
							環境Ⅰ		9.33	0.31
							薬学演習Ⅰ		1.17	0.04
							先端応用薬学総論Ⅲ		1.17	0.04
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬物動態学Ⅲ		9.33	0.31
							薬物動態学実習	◎	30.00	1.00
							薬学演習Ⅰ		1.17	0.04
							先端応用薬学総論Ⅳ		1.17	0.04
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	初等物理学演習		30.33	1.01
							製剤学実習	◎	30.00	1.00
							製剤学Ⅲ		5.83	0.19
							基礎薬科学特論	院	2.33	0.08
							授業担当時間の合計		68.49	2.28
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	初等化学演習		15.17	0.51
							衛生薬学実習	◎	60.00	2.00
							環境Ⅱ		11.67	0.39
							健康Ⅰ		1.17	0.04
							放射薬品学実習	◎	15.00	0.50
							健康Ⅱ		2.33	0.08
							医薬品安全性学		8.17	0.27
							薬学演習Ⅰ		1.17	0.04
							薬学総合演習Ⅰ		2.33	0.08
							薬学総合演習Ⅱ		3.50	0.12
							基礎薬科学特論	院	2.33	0.08
							授業担当時間の合計		122.84	4.09
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	初等化学演習		15.17	0.51
							分析化学実習	◎	60.00	2.00
							薬学機器分析学		1.17	0.04
							授業担当時間の合計		76.34	2.54



学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	初等化学演習		15.17	0.51
							微生物実習	◎	60.00	2.00
							授業担当時間の合計		75.17	2.51
薬学科	助教(実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	プレ実務実習Ⅱ(医療情報)	◎	103.50	3.45
							プレ実務実習Ⅱ(総合)	◎	36.00	1.20
							授業担当時間の合計		139.50	4.65
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	衛生薬学実習	◎	60.00	2.00
							授業担当時間の合計		60.00	2.00
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬理学実習	◎	45.00	1.50
							授業担当時間の合計		45.00	1.50
薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	分析化学実習	◎	60.00	2.00
							授業担当時間の合計		60.00	2.00

- 1) 薬学科(6年制)専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は(兼任学科名)を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目(兼任学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む)を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。  
※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間)を記入します。  
※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。  
※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数)で除した値を記入してください。  
開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。



(基礎資料 8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

4年生の在籍学生数	226名
5年生の在籍学生数	259名
6年生の在籍学生数	282名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する研究室の面積 (m <sup>2</sup> )
1	薬剤学教室	3	14	16	13	43	279.3
2	生薬学教室	2	11	16	14	41	324.7
3	薬理学教室	3	15	15	13	43	316.5
4	分子生物学教室	3	14	15	13	42	324.7
5	薬品分析学教室	3	0	6	4	10	316.5
6	生化学教室	2	9	9	7	25	316.5
7	薬品製造学教室	3	12	15	14	41	324.7
8	薬品物理分析学教室	2	9	11	13	33	316.5
9	薬化学教室	3	8	16	12	36	316.6
10	衛生化学教室	3	14	16	13	43	324.7
11	微生物学教室	3	13	15	13	41	316.5
12	薬物学教室	3	14	14	14	42	324.7
13	公衆衛生学教室	3	15	14	13	42	316.5
14	薬物動態学教室	3	15	14	13	42	276.2
15	薬品物理化学教室	2	11	11	5	27	324.7
16	数学教室	1	1	0	1	2	41.3
17	薬学教育推進部門	3	0	2	0	2	62.6
18	薬物治療学研究室	3	11	14	15	40	309.9
19	臨床薬効解析学研究室	1	0	0	4	4	72.4
20	病態生化学研究室	2	11	7	3	21	309.9
21	臨床薬学研究室	2	9	8	6	23	176.6
22	臨床薬剤学研究室	1	0	5	3	8	59.5
23	実践医療薬学研究室	4	10	10	8	28	156.8
24	薬事法学研究室	1	3	3	2	8	68.5
25	社会薬学研究室	1	3	3	2	8	68.5
26	地域医療薬学研究室	1	4	4	2	10	68.5
27	薬学総合教育部門	2	0	0	62	62	329.8
	合計	63	226	259	282	767	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。  
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。  
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。  
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。



## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬理学教室	職名 教授	氏名 田中 芳夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		毎年度実施 2020年～	・薬理学講義時間内に演習時間を設け、知識の定着、理解の向上を目指した。 ・学内講義室等での講義／解説を録画して、LMSを介しての学生の視聴機会を提供した。 他3件
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度 2019年2月28日	・薬理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ自主学習用問題集 1/2/3年次生自主学習用問題集（学内のみ） ・パートナー薬理学（改定第3版）（南江堂） 編集/分担執筆（第15章） 他2件
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Effect of distigmine on the contractile response of guinea pig urinary bladder to electrical field stimulation	共著	2017年8月	European Journal of Pharmacology Vol. 809:209-214
（論文）Evaluation of the potentiating effects of antidepressants on the contractile response to noradrenaline in guinea pig urethra smooth muscles	共著	2019年5月	Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology Vol. 46(5):444-455
（論文）Pharmacological properties of $\beta$ -adrenoceptors mediating rat superior mesenteric artery relaxation and the effects of chemical sympathetic denervation	共著	2020年1月	Life Sciences Vol. 241:117155
（論文）Docosahexaenoic acid inhibits U46619- and prostaglandin $F_{2\alpha}$ -induced pig coronary and basilar artery contractions by inhibiting prostanoid TP receptors	共著	2021年10月	European Journal of Pharmacology Vol. 908:174371
（論文）Prostanoid TP receptor stimulation enhances contractile activities in guinea pig urinary bladder smooth muscle through activation of $Ca^{2+}$ entry channels: Potential targets in the treatment of urinary bladder contractile dysfunction	共著	2021年12月	Life Sciences Vol. 287:120130

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ドコサヘキサエン酸（DHA）はプロスタノイドTP受容体の抑制を介してU46619、プロスタグランジン（PG） $F_{2\alpha}$ によるブタ冠動脈、脳底動脈の収縮を抑制する（共同発表者）	2021年6月5日	第144回日本薬理学会関東部会
プロスタノイドによる膀胱平滑筋の基礎張力及び自発性収縮活動の増加はTP受容体の刺激と $Ca^{2+}$ チャネルの活性化が関与する（共同発表者）	2021年8月6日	第63回日本平滑筋学会総会
モルモット気管・気管支平滑筋の収縮反応に対するNP-1815-PXの影響（共同発表者）	2021年9月11日	第65回日本薬学会関東支部大会
他2件		
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2017年4月～現在	日本平滑筋学会評議員、編集委員	
2017年4月～現在	日本薬理学会評議員	
2020年6月～現在	一般社団法人日本私立薬科大学協会理事	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬物学教室	職名 教授	氏名 田中 光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2020年度～ 2021年度	オンライン講義を構築した (細胞生物学、人体生理学I・II、薬理学実習)
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年度～ 2021年度 2019年2月28日	オンライン講義資料 (細胞生物学、人体生理学I・II、薬理学実習) パートナー薬理学(分担執筆)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年12月～ 2021年1月	「遠隔授業に関するアンケート」を実施 (LMS環境整備委員長として)
4 その他教育活動上特記すべき事項		2020年2月18日 2020年8月21日 2021年7月13日	LMS環境整備連絡会を開催 (LMS環境整備委員長として)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Positive Lusitropic Effect of Quercetin on Isolated Ventricular Myocardia from Normal and Streptozotocin-Induced Diabetic Mice	共著	2021年12月	日本薬学会、Biological and Pharmaceutical Bulletin、44巻第12号
Contribution of ATP-Mediated Positive Feedback to Sympathetic Nerve-Induced Positive Inotropy in Guinea Pig Ventricular Myocardium	共著	2021年3月	日本薬学会、Biological and Pharmaceutical Bulletin、44巻第3号
Fluorescence Discrimination of Pharmacological Effects on the Na <sup>+</sup> -Ca <sup>2+</sup> Exchanger and Sarco-Endoplasmic Reticulum Ca <sup>2+</sup> -ATPase in Mouse Ventricular Cardiomyocytes	共著	2021年1月	日本薬学会、Biological and Pharmaceutical Bulletin、44巻第1号
KB-R7943 Inhibits the Mitochondrial Ca <sup>2+</sup> Uniporter but Not Na <sup>+</sup> -Ca <sup>2+</sup> Exchanger in Cardiomyocyte-Derived H9c2 Cells	共著	2020年12月	日本薬学会、Biological and Pharmaceutical Bulletin、43巻第12号
Involvement of the persistent Na <sup>+</sup> current in the diastolic depolarization and automaticity of the guinea pig pulmonary vein myocardium.	共著	2019年9月	日本薬理学会、Journal of Pharmacological Sciences、141巻第1号
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
心筋弛緩の薬理学的研究		2021年9月	第22回 応用薬理シンポジウム

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2017年4月～2019年3月	薬剤師国家試験出題委員
2017年4月～現在	MR認定センター 試験委員会委員
2017年4月～現在	日本薬理学会学術評議員
2021年4月～現在	Biological and Pharmaceutical Bulletin誌 Editor

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 生化学教室	職名 教授	氏名 高橋 良哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年以降 2020年4月	授業アンケートを毎年実施 生化学Ⅰ～Ⅲの授業における「自主学習」を促すために臨床症例が多数記載されている生化学の教科書を導入した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年9月以降	「生化学実習」実習書(全90頁)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017年以降毎年	東邦大学薬学部教育ワークショップ参加 学内FD講演会参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Functional characterization of the neuron-restrictive silencer element in the human tryptophan hydroxylase 2 gene expression	共著	2017年9月	Journal of Neurochemistry 142 (6) : 824-840
(論文) SAMP8 mice as a neuropathological model of accelerated brain aging and dementia: Toshio Takeda's legacy and future directions	共著	2017年8月	Neuropathology 37 (4) : 293-305
(著書) Infantile Radiation and Aging Stresses: Effects of Calorie and Dietary Restrictions. Models, Molecules and Mechanisms in Biogerontology	共著	2019年	Springer
(論文) A Stable and Highly Sensitive Fluorescent Probe for Detection of Hypochlorite Ion In Vitro and in Living Cells	共著	2019年2月	Chemistry Letters 48 (2) : 110-113
(論文) Synthesis, characterization, and supramolecular architectures of two distinct classes of probes for the visualization of endogenously generated hypochlorite ions in response to cellular activity.	共著	2019年9月	Journal of Photochemistry and Photobiology B: Biology 198 (2) : 111594.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名） Effect of fasting-refeeding on the levels of glycogen and triglyceride in the liver of SAMP8 and SAMR1	2021年6月	第44回日本基礎老化学会大会
（演題名）絶食-再摂食が老化促進モデルマウス（SAM）のP8系とR1系の脂質代謝系に及ぼす影響	2021年9月	第36回 老化促進モデルマウス（SAM）学会学術大会
（演題名）特別講演「老化と微量元素」	2021年10月	第32回 日本微量元素学会学術集会
（演題名）招待講演「Dietary Restriction from Late Adulthood can Improve Biomolecular Damages Associated with Aging」	2021年10月	27 <sup>th</sup> International Conference (CONIAPS XXVII) on Interdisciplinary Research in Biomedical Sciences
（演題名）シンポジウム「加齢に伴う異常タンパク質蓄積」	2021年11月	第94回日本生化学会大会
（演題名）加齢に伴うラットおよびマウスの肝のプロテアソーム活性変化	2022年3月	日本薬学会 第142年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2017年4月	老化促進モデルマウス（SAM）学会幹事	
2019年3月	日本薬学会第139年会シンポジウムオーガナイザー	
2021年3月	日本薬学会代議員	
2021年11月	第94回日本生化学会大会シンポジウムオーガナイザー	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬品分析学教室	職名 教授	氏名 福島 健
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年～	講義にPower pointを使用し、そのスライドを講義資料として事前に配付し、予習できるようにした。講義内で問題(小テスト)を出し、解く時間を取っている。その後、解説し、講義時間内に理解できるように努めている。授業評価アンケートを担当講義科目で実施し、内容の改善を図るようにしている。
		2020年4月～	上記の事項に加えて、オンライン講義では上記のPower pointを使用した解説動画を毎回作成し、その視聴期間を1週間として、繰り返して視聴・復習ができるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2021/10/13 2020/08/25 2020/08/05	薬学部FD講演会に出席 薬学部FD講演会・春学期授業意見交換会に出席 全学ハラスメント講演会に出席
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Increased indoleamine 2,3-dioxygenase levels at the onset of Sjögren's syndrome in SATB1-conditional knockout mice.	共著	2021年9月	Int J Mol Sci. 22. 10125
(論文) Development of derivatization reagents bearing chiral 4-imidazolidinone for distinguishing primary amines from other amino acids and application to the liquid chromatography-tandem mass spectrometric analysis of miso.	共著	2021年8月	J Chromatogr A. in press.
(論文) Increased inosine levels in drug-free individuals with at-risk mental state: a serum metabolomics study.	共著	2021年3月	Early Interv Psychiatry. in press.
(論文) Alterations in methionine to homocysteine ratio in individuals with first-episode psychosis and those with at-risk mental state.	共著	2020年3月	Clin Biochem. 77: 48-53.
(論文) Succinimidyl 3-[(Benzyloxy)carbonyl]-5-oxo-1,3-oxazolidin-4-yl)acetate (COXA-OSu) on a triazole-bonded phase for the separation of DL-amino-acid enantiomers and the mass-spectrometric determination of chiral amino acids in rat plasma.	共著	2019年12月	J Chromatogr A 1585:131-137.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 新規D-キヌレニン型酵素蛍光プローブによるラット腎D-アミノ酸化酵素活性評価法の検討		2022年3月	日本薬学会第142年会
(演題名) カラムスイッチングHPLCを用いたワイン中のD-およびL-リンゴ酸の定量		2022年3月	日本薬学会第142年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2019年4月～2020年3月	薬学教育評価機構評価実施員（主査）
2018年4月～2019年3月	薬学教育評価機構評価実施員（主査）
2017年4月～2018年3月	薬学教育評価機構評価実施員
2017年4月～2019年3月	日本薬学会学術誌編集委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬化学教室	職名 教授	氏名 加藤 恵介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月7日 2021年9月28日～	授業評価アンケートの実施（有機化学Ⅳ） 有機化学Ⅲおよび医薬品合成化学Ⅱにおいて、欠席者数を 毎回ムードルでアナウンスしたところ、欠席者が激減した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年10月1日～	有機化学Ⅲにおいて講義資料を毎回作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			学部主催のFDへの参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Aging-related changes in the sensitivity of behavioral effects of the neonicotinoid pesticide clothianidin in male mice	共著	2021年2月	エルゼビア社、Toxicology Letters, 2021, 342, 95-103.
(論文) Improved Synthesis and Determination of the Biologically Active Diastereomer of YK11	共著	2020年4月	MDPI社、Molbank 2020, 2020, M1125.
(論文) Total Synthesis of (-)-Graminin A Based on Asymmetric Cyclization Carbonylation of Propargyl Acetate	共著	2019年12月	米国化学会、J. Org. Chem. 2019, 84, 16268-16277.
(論文) Pd(II) catalyzed ligand controlled synthesis of bis(3-furanyl)methanones and methyl 3-furancarboxylates	共著	同 年6月	英国王立化学会、Org. Biomol Chem. 2019, 17, 6860-6865.
(論文) Asymmetric Cyclizative Dimerization of (ortho-Alkynyl Phenyl) (Methoxymethyl) Sulfides with Palladium(II) Bisoxazoline Catalyst	共著	同 年1月	WILEY社、Chem. Eur. J. 2019, 25, 733-737.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Urupocidinの合成研究		2022/3/1	日本薬学会第142年会
アルキニルヒドラゾンを用いたピピラゾール類の新規合成法の開発		2022年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
平成22年2月19日～現在まで	有機合成化学協会関東支部幹事		
平成23年1月25日～令和3年1月24日	薬事・食品衛生審議会委員（毒物劇物調査会）		
	日本薬学会会員		
	日本化学会会員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 医療薬学教育センター 実践医療薬学研究室	職名 教授	氏名 石井 敏浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		毎年	・4年次プレ実務実習において症例演習を取り入れることで、知識の結びつきを図っている。 ・授業評価アンケートを年1回実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年9月1日 2019年3月5日 2019年9月2日	「薬局管理学」(京都廣川書店)を編著した。 「業務別・病院実務実習テキスト」(京都廣川書店)を責任編集した。 「高齢者医療薬学」(京都廣川書店)を編著した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年3月30日	第4回日本薬学教育学会大会プレ企画「薬学実務実習情報共有と課題検討シンポジウム」にて、事前学習と実習施設との連携をテーマに発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		毎年	東邦大学薬学教育ワークショップに参加。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Analysis of Patients with Hypomagnesemia using the Japanese Adverse Drug Event Report Database.	共著	2018年3月	the Canadian Society for Pharmaceutical Sciences; J Pharm Pharm Sci vol.21, No.3
(論文) Analysis of Patients with drug-induced pemphigoid using the Japanese Adverse Drug Event Report database.	共著	2019年3月	日本皮膚科学会; Journal of Dermatology vol.46, No.3
(論文) 我が国における低用量エストロゲン・プロゲステン製剤による有害事象報告と医薬品副作用被害救済制度給付決定情報の調査解析	共著	2019年11月	日本医療薬学会; 医療薬学(第47巻第11号)
(論文) Comparative Study of Different Epidermal Growth Factor Receptor (EGFR)-Tyrosine Kinase Inhibitors Affecting Lung Cancer Cell Lines Stably Overexpressing EGFR Mutations.	共著	2021年1月	日本薬学会; BPB Reports, vol.4, No.1
(論文) Analysis of the Time-To-Onset and Factors Affecting Clinical Outcomes of Immune Reconstitution Inflammatory Syndrome in People Living with HIV Using Data from the Japanese Spontaneous Reporting Database.	共著	2021年4月	the Canadian Society for Pharmaceutical Sciences; J Pharm Pharm Sci vol.24
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 皮膚悪性腫瘍の発生に関連する薬剤-JADERを用いた解析-		2021年7月	日本医薬品安全性学会学術大会
(演題名) NDBオープンデータを用いた抗HIV薬処方の実態調査-2015年度から2017年度の3年間の変遷-		2021年11月	日本エイズ学会学術集会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2015年4月～現在	花見川区顔の見える地域地域医療・介護連携を推進する会 運営委員（千葉市、年5回、研修会）
2016年4月～2021年3月	薬学教育協議会関東地区調整機構大学小員会 委員
2021年4月～現在	公益社団法人薬剤師認定制度認証機構 社員（東邦大学代表）
2021年4月～現在	日本薬学会 代議員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬物治療学	職名 教授	氏名 高原 章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2017年～現在 2017年～現在	独自にレジメを作成して学生に配布している 学生による授業評価アンケートの調査結果によるフィードバックを毎年受けており、講義方法の改善に役立っている
2	作成した教科書、教材、参考書	2020年3月26日	Principal Pharmacotherapy (改訂2版) 治療薬の選択・解説(呼吸器・胸部疾患)を分担
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年1月1日	平成30年度東邦大学教育改革推進G P補助金事業の成果報告 『薬物療法における実践的能力の育成のためのsimulation-based education(SBE)を活用した実務実習前の参加体験型実習の構築』
4	その他教育活動上特記すべき事項	2020年1月1日 2017年～現在	薬理学エデュケーター(日本薬理学会)に認定 薬学部FD講演会に毎年出席
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	(著書) Cardio-Ankle Vascular Index -Overview & Clinical Application- Chapter 36. Overview	共著	2021年10月 株式会社コンパス
	(著書) 疾患モデルの作製と利用-循環器疾患第6節 薬物誘発性 torsade de pointes 不整脈検出モデル	共著	2021年9月 株式会社エル・アイ・シー
	(論文) Torsadogenic potential of HCN channel blocker ivabradine assessed in the rabbit proarrhythmia model.	共著	2021年11月 Biological & Pharmaceutical Bulletin 第44巻 第2号
	(論文) Selectivity of Ca <sup>2+</sup> channel blockers for dilator actions on the isolated lower esophageal sphincter and aorta from rats	共著	2018年5月 Journal of Pharmacological Sciences 第137巻 第1号
	(論文) The anaesthetized rabbit with acute atrioventricular block provides a new model for detecting drug-induced Torsade de Pointes.	共著	2017年8月 British Journal of Pharmacology 第174巻 第15号
2.	学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	(演題名) アルドステロンは心房細動の持続性を増大させる 一慢性容量負荷モデルラットを用いた検討-	2022年3月	第95回日本薬理学会年会
	(演題名) 大動脈領域の血管弾性調節機構の解明 -in vivoウサギモデルでの検討	2022年3月	第95回日本薬理学会年会
	(演題名) 薬物性QT延長症候群の発生機構に対するL型Ca <sup>2+</sup> チャネルの意義 一急性房室ブロックウサギを用いた検討-	2022年3月	第95回日本薬理学会年会
	(演題名) 心房におけるトリガー発生は慢性的なaldosterone負荷と容量負荷の共存により増強する	2021年10月	第145回日本薬理学会関東部会
	(演題名) 摘出心臓組織標本およびウサギ in vivoモデルを用いた薬物誘発性torsade de pointes不整脈の検出法	2021年9月	第22回応用薬理シンポジウム
	(演題名) 止瀉薬loperamideによる心室再分極遅延作用にμ受容体は関与しない	2021年9月	第65回日本薬学会関東支部大会
	(演題名) 高血圧発症早期における心房の電気生理学的特性 ~L-NAME誘発高血圧ラットを用いた検討~	2021年9月	第65回日本薬学会関東支部大会
	(演題名) MEK阻害薬selumetinibが心房細動の持続性に与える影響 ~新規心房細動モデルラットを用いた検討~	2021年9月	第65回日本薬学会関東支部大会
	(演題名) 抗精神病薬fluphenazineによる心室再分極遅延作用の評価 ~Isoflurane麻酔モデルラットを用いた検討~	2021年9月	第65回日本薬学会関東支部大会
	(演題名) 心室再分極異常を伴う有害事象が報告された12種の抗ヒスタミン薬の非臨床 in vivo研究を通じたQT延長リスクの検証	2021年9月	第65回日本薬学会関東支部大会
	(演題名) 肺高血圧症の発症初期における心房細動持続性に関する検討 ~モノクロタリン肺高血圧症モデルラットを用いて~	2021年9月	第65回日本薬学会関東支部大会
	(演題名) 循環血流量変化が大動脈と大腿動脈の血管弾性と末梢循環動態に与える影響 -stiffness parameter β法を用いた検討-	2021年6月	第144回日本薬理学会関東部会
	(演題名) HCNチャネル阻害薬ivabradineの催不整脈作用 一急性房室ブロックウサギを用いた評価-	2021年6月	第144回日本薬理学会関東部会
	(演題名) 出血性ショック白色家兎における、眼血流と全身臓器血流の関係性	2021年4月	第125回日本眼科学会総会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2020年11月～現在	日本薬理学会代議員
1999年4月～現在	日本薬理学会評議員
2013年4月～現在	東邦大学生涯学習認定制度委員会・研修企画実行委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬物動態学教室	職名 教授	氏名 宮内 正二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 授業アンケートに基づいた復習および解説動画。		2020年4～現在	オンデマンド型の学習支援。復習、解説動画による繰り返し学習。この試みによる学生の学力の向上。
2 作成した教科書、教材、参考書 (株) 南江堂「コンパス：生物薬剤学第3版」(教科書) (株) 京都廣川「パザパ：生物薬剤学第6刷」(演習書)		2021年2月1日 2019年2月15日	共著 (生体膜の薬物透過に関する所を執筆) 共著 (講義資料用いた演習問題の詳細な解説書)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特に無し			
4 その他教育活動上特記すべき事項 グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム(熊本大学)での発表		2019年1月	研究マインドの向上を目指した英語による研究成果発表
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Consideration of albumin-mediated hepatic uptake for highly protein-bound anionic drugs: Bridging the gap of hepatic uptake clearance between in vitro and in vivo	共著	2021年7月	Pharmacol. Ther., 107938
Extrapolation of In Vivo Hepatic Clearance from In Vitro Uptake Clearance by Suspended Human Hepatocytes for Anionic Drugs with High Binding to Human Albumin: Improvement of In Vitro-to-In Vivo Extrapolation by Considering the "Albumin-Mediated" Hepatic Uptake Mechanism on the Basis of the "Facilitated-Dissociation Model"	共著	2019年2月	Drug Metab Dispos. 2019, 47 (2) 94-103
The Phenomenon of Albumin-Mediated Hepatic Uptake of Organic Anion Transport Polypeptide Substrates: Prediction of the In Vivo Uptake Clearance from the In Vitro Uptake by Isolated Hepatocytes Using a Facilitated-Dissociation Model	共著	2018年3月	Drug Metab Dispos. 2018, 46(3):259-267
Chemical Modulation of the Human Oligopeptide Transporter 1, hPepT1	共著	2017年12月	Mol Pharm. 2017, 14(12):4685-4693
Analysis of Nonlinear Pharmacokinetics of a Highly Albumin-Bound Compound: Contribution of Albumin-Mediated Hepatic Uptake Mechanism	共著	2017年9月	J Pharm Sci. 2017, 106(9):2704-2714
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Na <sup>+</sup> /モノカルボン酸共輸送担体を介したアミノ酸輸送		2021年10月	生体膜と薬物相互作用シンポジウム(日本薬学会・物理部会)
オリゴペプチド輸送担体PEPT1のH <sup>+</sup> チャネル様機能変換に関わる構造的特徴		2021年10月	生体膜と薬物相互作用シンポジウム(日本薬学会・物理部会)

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2021年から現在	日本薬学会代議委員
2019年10月	第41回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム実行委員長(習志野キャンパス開催)
2014年から現在	日本薬剤学会評議委員
2012年から現在	日本薬物動態学会評議委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬品製造学教室	職名 教授	氏名 東屋 功
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 遠隔講義・実習の実施		2020年度	コンテンツ作成、実施
2 作成した教科書、教材、参考書 スタンダード化学系薬学 I 新編 医薬化学			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 遠隔講義設備の整備		2020年度	遠隔講義設備の選定・利用マニュアル等作成
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Relationship between crystal shape and unit cell shape: crystal shape modification via co-crystallization toward SXRD-suitable crystals.	共著	2021年	CrystEngComm
Homochiral and heterochiral associations observed in crystals of ArSO <sub>2</sub> -(Aib) <sub>5</sub> -OMe.	共著	2020年	CrystEngComm, 22, 8353-8361.
Evaluation of the Steric Bulk of Substituents Utilizing the Shuttling Behavior of [2]Rotaxanes with N-Arylpyrrole Moieties.	共著	2019年	Eur. J. Org. Chem. 3412-3420.
Crystallization Processes through Self-Assembled Materials Dependent on the Substituents of Tetrapodal Adamantanes.	共著	2018年	Chem. Lett. 2018, 47, 1279-1281.
Synthesis and Solvent Vapor Induced Transformations of Crystals of 1D Coordination Polymer Assembled with Continuous Void Space.	共著	2017年	CrystEngComm 2017, 19, 3398-3406.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
～現在	シンポジウム モレキュラー・キラリティ 実行委員(2021年度は欠席)		
～2021年2月	日本化学会有機結晶部会広報委員		
2021年3月～現在	日本化学会有機結晶部会幹事		
2019～2022年度	日本薬学会関東支部幹事		
2019～2020年度	日本薬学会代議員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 衛生化学教室	職名 教授	氏名 山本 千夏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年10月4日	授業評価アンケート (健康Ⅳ)
		2020年10月	授業評価アンケート (健康Ⅳ)
		2019年10月	授業評価アンケート (健康Ⅳ)
		2018年10月	授業評価アンケート (健康Ⅳ)
		2017年10月	授業評価アンケート (健康Ⅳ)
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年11月18日	日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズⅡ 9 薬学演習 ⅢⅠ薬学総論・衛生薬学 東京化学同人
		2020年3月30日	コンパス 衛生薬学 健康と環境 (改訂第3版) 南江堂
		2019年1月25日	日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズⅡ 5 衛生薬学 健康と環境 東京化学同人
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Effects of substitution on cytotoxicity of diphenyl ditelluride in cultured vascular endothelial cells.	共著	2021年9月	International Journal of Molecular Sciences(22):10520-10531
Syndecan-1 downregulates syndecan-4 expression by suppressing the ERK1/2 and p38 MAPK signaling pathways in cultured vascular endothelial cells.	共著	2021年4月	Biochemistry and Biophysics Reports. 26:101001
Cadmium induces plasminogen activator inhibitor-1 via Smad2/3 signaling pathway in human endothelial EA.hy926 cells.	共著	2021年3月	The Journal of Toxicological Sciences.46(5):249-253
Cell density-dependent accumulation of low polarity gold nanocluster in cultured vascular endothelial cells.	共著	2020年5月	The Journal of Toxicological Sciences.45(2):109-115
Induction of metallothionein isoforms in cultured bovine aortic endothelial cells exposed to cadmium	共著	2020年9月	The Journal of Toxicological Sciences.45(12):801-806
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ターピリジン亜鉛錯体による内皮細胞の線溶活性の促進.		2021年10月	メタルバイオサイエンス研究会 2021
EGFR/ERK/COX-2/PGI2経路を介した鉛による血管内皮細胞のパーカシオン発現抑制		2021年9月	フォーラム2021: 衛生薬学・環境 トキシコロジー
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2021年度～現在	船橋市環境審議会委員		
2019年度～現在	日本薬学会 代議員		
2012年度～現在	日本毒性学会 評議員		
2017年度～2018年度	厚生労働省 医道審議会(薬剤師分科会薬剤師国家試験K・V部会)委員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬学教育推進部門	職名 教授	氏名 大井 浩明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年度～現在 2017年度～現在	基礎科学科目へのTBLの導入とその運営補助を行っている。 1年次「薬学入門」ではグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングの手法を取り入れ、学生の行動計画作成の一助となるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017年度～現在	FD委員長として、教育の向上に資する内容のワークショップ（年1回）とFD講演会（年複数回）の企画運営を行っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年11月	薬学教育学会学会誌投稿論文査読		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 分子生物学教室	職名 教授	氏名 多田 周右
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年4月～	eラーニングシステムに復習課題を提示し、回答を提出してもらう。復習課題は、提出期限後でも閲覧可能にして復習を促している。 アニメーションを作成し、複雑な生物学的な反応過程における分子の動きをイメージしやすくなるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年8月30日 2021年10月22日	廣川書店「薬学のための分子生物学 第2版」分担（第3章、第5章執筆） 東京化学同人「スタンダード薬学シリーズII9 薬学演習 II基礎科学」分担
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）「薬学のための分子生物学 第2版」	共著	2019年8月	廣川書店
（著書）「スタンダード薬学シリーズII 9 薬学演習 II基礎科学」	共著	2021年10月	東京化学同人
（論文）Mutant analysis of Cdt1's function in suppressing nascent strand elongation during DNA replication in <i>Xenopus</i> egg extracts.	共著	2017年9月	Biochem Biophys Res Commun. (490巻 4号)
（論文）Biphasic increases of cell surface calreticulin following treatment with mitoxantrone.	共著	2020年10月	Biol Pharm Bull. (43巻 10号)
（論文）N-terminal region of RecQ4 inhibits non-homologous end joining and chromatin association of the Ku heterodimer in <i>Xenopus</i> egg extracts.	共著	2021年6月	Gene. (787巻)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
アポトーシス誘発によるLAMP-1, 2の細胞表面への移行とその役割		2021年9月	日本薬学会関東支部大会
HepG2細胞のインスリン応答に対するWRN遺伝子ノックダウンの影響		2021年9月	日本薬学会関東支部大会
高濃度グルコースによるHSP90のO-GlcNAc修飾とアポトーシスへの関与		2021年9月	日本薬学会関東支部大会
RecQ4のN末側領域はDNA二本鎖切断に対する非相同末端結合修復を阻害する		2022年3月	日本薬学会第142年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2017年4月～2018年3月	日本薬学会学術誌（Biol Pharm Bull.）編集委員
2018年4月～現在	日本薬学会学術誌（Biol Pharm Bull.）編集委員会部門長
2021年2月～現在	日本薬学会代議員
2021年2月～現在	日本薬学会関東支部幹事

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 公衆衛生学教室	職名 教授	氏名 根本 清光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		毎年実施	授業評価アンケートを年1回実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年3月30日発行	教科書分担執筆：コンパス 衛生薬学 健康と環境 改訂第3版 南江堂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			毎年欠かさず、東邦大学教育ワークショップに参加している
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Activation of the aryl hydrocarbon receptor by 3-methylcholanthrene, but not by indirubin, suppresses mammosphere formation via downregulation of CDC20 expression in breast cancer cells.	共著	2021年	Biochem Biophys Res Commun, 570, 131-136
Comparative Study of Different Epidermal Growth Factor Receptor (EGFR)-Tyrosine Kinase Inhibitors Affecting Lung Cancer Cell Lines Stably Overexpressing EGFR Mutations.	共著	2021年	BPB Reports, 4(1), 12-16
The Differential Selectivity of Aryl Hydrocarbon Receptor (AHR) Agonists towards AHR-Dependent Suppression of Mammosphere Formation and Gene Transcription in Human Breast Cancer Cells.	共著	2021年	Biol Pharm Bull, 44(4), 571-578
Polycyclic aromatic hydrocarbons induce CYP3A5 gene expression via aryl hydrocarbon receptor in HepG2 cells.	共著	2021年	J Toxicol Sci, 46(1), 25-29
An evaluation of the genotoxicity and subchronic toxicity of the peel extract of Ponkan cultivar 'Ohta ponkan' (Citrus reticulata Blanco) that is rich in nobiletin and tangeretin with anti-dementia activity.	共著	2020年	Regul Toxicol Pharmacol, 114, 104670
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
アрил炭化水素受容体アゴニストによる乳がん腫瘍様塊の形成抑制作用の相違		2021年9月	フォーラム2021 衛生薬学・環境トキシコロジー

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2014年1月～現在	日本毒性学会評議委員
2014年1月～現在	日本毒性学会編集委員会委員
2018年7月～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 BPB Reports編集委員会委員
2017年4月～2018年3月	日本学術振興会：特別研究員等審査会専門委員、卓越研究員候補者選考委員会書面審査員および国際事業委員会書面審査員・書面評価員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 微生物学教室	職名 教授	氏名 安齊洋次郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年～2021年 2020年、2021年	担当している科目を受講している学生を対象にアンケートを実施した。 オンデマンド授業では、ビデオと通常の講義スライドの他、ビデオ講義を補うための説明文を加えた講義スライド、課題集とその解答例を提供し、小テストを実施した。 他1件
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年～2021年 2021年3月30日	「微生物学実習」テキスト 作成 第7版 薬科微生物学(丸善出版) 編・著 他1件
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Cytochrome P450 enzyme RosC catalyzes a multistep oxidation reaction to form the non-active compound 20-carboxyrosamicin	共著	2017年7月	FEMS microbiology letters vol. 364 No. 12
Quorum sensing inhibitors against <i>Chromobacterium violaceum</i> CV026 derived from an actinomycete metabolite library	共著	2020年1月	Biological & Pharmaceutical Bulletin vol. 43 No. 1
Artificial control of the multistep oxidation reactions catalyzed by the cytochrome P450 enzyme RosC	共著	2020年2月	Applied microbiology and biotechnology vol. 104 No. 8
<i>Actinocatenispora comari</i> sp. nov., an endophytic actinomycete isolated from aerial parts of <i>Comarum salesowianum</i> .	共著	2021年7月	International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology vol. 71 No. 7
Engineering sequence and selectivity of late-stage C-H oxidation in the MycG iterative cytochrome P450	共著	2021年9月	Journal of Industrial Microbiology and Biotechnology kuab069
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
シトクロムP450酵素MycGの反応制御に基づく希少な生合成中間体の効率的な生産		2021年9月	第33回 微生物シンポジウム
分光学的手法による多段階酸化型シトクロムP450酵素RosCの機能解析		2021年9月	2021年度 日本放線菌学会大会
Microbial screening using actinomycetes isolated in Mongolia and academic exchange with National University of Mongolia		2021年9月	International Online Symposium Access to Mongolian Bioresources
土壌由来希少放線菌からのクオラムセンシング阻害物質の単離		2022年3月	日本薬学会第142年会
電子伝達機構を介した多機能型シトクロムP450酵素MycGの反応制御		2022年3月	日本薬学会第142年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
1999年4月～2018年3月	日本放線菌学会 学術企画委員
2014年4月～2018年3月	日本放線菌学会 理事
2018年4月～現在	日本放線菌学会 学術企画アドバイザー
2018年2月28日～3月7日	さくらサイエンスプログラムによりモンゴル国立大学の学部生6名を研修生として招聘
2019年10月14日～20日	さくらサイエンスプログラムによりモンゴル国立大学の学部生6名を研修生として招聘

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬剤学教室	職名 教授	氏名 野口 修治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年10月19日 2020年4月1日	「製剤学Ⅰ」学生による授業評価（アンケート）を実施し、講義内容に改善に利用した。 講義の実施にMoodleの利用を開始した。講義資料はすべてMoodleに講義日の2週間以上前に掲載して学生の予習の便に供した。講義終了後には講義内容に関する小テストをMoodleを利用して毎回実施し、学生が講義内容を整理・復習するのに役立てさせると共に、講義内容の理解度の確認に利用した。 その他 9件
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年9月5日 2019年9月8日	製剤学教科書「製剤学物理薬剤学通論 第2版（京都廣川書店）」を出版。編者・著者を担当。 製剤学教科書「製剤学物理薬剤学通論（京都廣川書店）」を出版。編者・著者を担当。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年10月13日 2021年8月26日	FD講演会「薬学教育の中で、広い視野を持った学生をどのように育成するのか」参加 FD講演会「学修者本位の授業設計—シラバスを活用して—」参加 その他 4件
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) "Investigation of physical properties of disodium etidronate tetrahydrate and application of phosphorus K-edge X-ray absorption near-edge structure spectroscopy".	共著	in press.	American Association of Pharmaceutical Scientists, Pharmaceutical Research.
(論文) "Reduced deliquescency of isosorbide by cocrystallization and mechanisms for hygroscopicity".	共著	2021年9月	Elsevier社, International Journal of Pharmaceutics 607.
(論文) "X-ray absorption near-edge spectroscopy analysis of indomethacin in crystalline forms and in amorphous solid dispersions".	共著	2021年8月	ACS Publications, Molecular pharmaceutics 18.
(論文) "Chlorine K-edge X-ray absorption near-edge structure discrimination of crystalline solvates and salts in organic molecules".	共著	2020年8月	ACS Publications, Crystal Growth & Design 20.
(論文) "Desolvation behavior of indinavir sulfate ethanol and follow-up by terahertz spectroscopy".	共著	2020年8月	Elsevier社, International Journal of Pharmaceutics 567.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
「カルメロースを用いた医薬品原薬の苦味マスキング」		2021年5月	日本薬剤学会
「スルファメトキサゾールの新規塩の構造解析及び溶解性測定」		2021年5月	日本薬剤学会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2017年4月～現在	PMDA 日本薬局方原案審議委員会 物性試験法委員会 専門委員
2018年4月～現在	製剤機械技術学会 評議員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬学総合教育部門	職名 教授	氏名 岩木 和夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		毎年実施	講義科目の授業アンケート
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学性のための分析化学（廣川書店：共著）		2017年 毎年	第10章 実試料の分析に向けて 担当科目の講義資料の更新
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		毎年	東邦大学薬学教育ワークショップ
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）第4版 薬学性のための分析化学	共著	2017年	廣川書店
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
～現在（毎年一回 8月）	千葉県環境保全協議会主催 公害防止管理者等（ダイオキシン類関係）国家試験対策講習会講師「ダイオキシン類特論」		
2018年4月～2020年1月	（一社）日本環境測定分析協会 第6回MLAP技能試験実行委員会委員		
2020年8月～現在	（一社）日本環境測定分析協会 第7回MLAP技能試験実行委員会委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬品物理分析学教室	職名 教授	氏名 伊関 峰生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年～ 2021年6月	毎年春学期と秋学期に1回ずつ授業評価アンケート実施
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017年～2021年  2017年5月	第24回～第28回東邦大学薬学部薬学教育ワークショップ参加  平成29年度第7回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Photoactivated adenylyl cyclases: Fundamental properties and applications	共著	2021年1月	Adv. Exp. Med. Biol. vol. 1293
(論文) Hydrogen bonding environments in the photocycle process around the flavin chromophore of the AppA-BLUF domain.	共著	2018年9月	J. Am. Chem. Soc., vol. 140 No. 38
(論文) Molecular mechanism of photoactivation of a light-regulated adenylyl cyclase.	共著	2017年8月	Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A. vol. 114 No. 32
(論文) 光活性化アデニル酸シクラーゼ合成酵素OaPACの活性化機構解明	共著	2017年6月	生化学 vol. 89 No. 3
(論文) Photomovement in Euglena	共著	2017年5月	Adv. Exp. Med. Biol. vol. 979
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
鞭毛藻ミドリムシから見出されたバクテリア型アゾレダクターゼ		2021年9月	日本植物学会第85回大会
光誘起電子移動反応を引き起こすLOVドメイン変異体		2021年11月	第59回日本生物物理学会年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年4月～現在	ユーグレナ研究会幹事		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 数学教室	職名 教授	氏名 金子 真隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			学習支援システム (Moodle) 上に実装した動的幾何のプラグインを用い、統計などに関するシミュレーションなどを行わせ、深い理解に結びつくように支援した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年4月6日	薬学生のための基礎シリーズ2 微分積分 (改訂版) を分担執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Temporal analytics of log data derived from students' manipulating math objects	共著	2020年3月	Companion proceedings of LAK20
Moodle上でのCindyJSを用いた探究学習におけるログデータのアナリティクスから学習支援へ	共著	2021年4月	京都大学数理解析研究所講究録2178
Moodle上でのCindyJSを用いた探究学習におけるログデータのアナリティクスから学習支援へ (続)	共著	掲載決定	京都大学数理解析研究所講究録2088
オンラインでの動的な探究学習における数学ソフトウェアの活用について	共著	掲載決定	数式処理
CindyJSによるコンテンツのweb上での操作ログの解析	共著	2019年12月	京都大学数理解析研究所講究録2142
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Monitoring the impact of teacher's intervention in inquiry-based mathematics learning with the use of dynamic geometry	共著	2021年7月	MathUI2021
動的コンテンツを用いた数学協調学習での認知負荷の様態に関する操作・対話・行動のログを用いた分析の試み	共著	2021年8月	日本科学教育学会第45回年会
動的コンテンツを用いた数学の探究的協調学習における関する操作・対話のログを用いた知識構築プロセスの分析	共著	2021年10月	日本教育工学会2021年秋季全国大会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本数式処理学会教育分科会運営委員		
2019年4月～現在	京都大学数理解析研究所共同研究「数学ソフトウェアとその効果的教育利用に関する研究」研究代表者		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 臨床薬効解析学研究	職名 教授	氏名 加藤 裕芳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
プレ実習においてDVDを作成する		2020年8月	自宅学習用にDVD(散薬調剤・軟膏調剤)を作成しMoodleにUPする
プレ実習においてモニターを活用する		2021年9~12月	実習開始前に注意点などをモニターにて説明する
2 作成した教科書、教材、参考書			
(実習書)病態検査学実習 薬物治療薬演習		2021年2月	病態検査学実習 薬物治療薬演習のテキストを作成する
(実習書)プレ実務実習テキスト		2019年8月	プレ実務実習テキスト(散薬)を作成する
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
OSCEモニター員		2018年12月1日	武蔵野大学薬学部にてOSCEモニター員を務める
OSCE実施委員長		2021年12月19日	OSCE実施委員長を務める
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)臨床腫瘍薬学	共著	2019年3月	じほう社
(著書)改訂6版がん化学療法レジメンハンドブック	共著	2019年3月	羊土社
(論文) Retrospective cohort study of the efficacy and safety of dabigatran: real-life dabigatran use including very low-dose 75 mg twice daily administration	共著	2019年8月	Journal of Pharmaceutical Health Care Science 5:17
(論文) Good response to methotrexate is associated with a decrease in the gene expression of ABCG2, a drug transporter, in patients with rheumatoid arthritis	共著	2021年2月	Modern Rheumatology vol.31 No.6
(論文) Measurement of Cytokines in Pressure Ulcer Wound Exudate and Their Involvement in Wound Healing	共著	2021年3月	応用薬理 100
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)国内の有害事象自発報告(JADER)を用いた免疫チェックポイント阻害薬の免疫有害事象の検討		2019年3月	日本臨床腫瘍薬学会
(演題名)がん診療連携拠点病院近隣薬局にて経口抗がん薬を応需する薬局薬剤師の実態調査(その2)		2020年3月	日本臨床腫瘍薬学会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2018年3月～現在	日本臨床腫瘍薬学会理事長
2018年6月	第66回東邦大学薬学部公開講座 講演

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬品物理化学教室	職名 教授	氏名 坂田 健
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2018年以降 2018年以降 2019年以降	・授業評価アンケートを毎年実施している。 ・「基礎物理学I」の中で実施されるTBLにおいて、グループで考えさせるのに適した問題を出題するよう心がけている。 ・LMS(Moodle)を活用している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年以降	・講義資料を作成し、教科書の補助教材としている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Copper-Catalyzed [3+2] Cycloaddition Reactions of Isocyanacetates with Phosphaalkynes to Prepare 1,3-Azaphospholes	共著	2019年1月	Wiley, Angew. Chem. Int. Ed. 58, 1168 (2019)
(論文) Ruthenium-Catalysed Oxidative Conversion of Ammonia into Dinitrogen	共著	2019年6月	Springer Nature, Nature Chem. 11, 702 (2019)
(論文) Ruthenium-Catalyzed Enantioselective Propargylic Phosphinylation of Propargylic Alcohols with Phosphine Oxides	共著	2021年5月	Wiley, Angew. Chem. Int. Ed. 60, 11231 (2021)
(論文) Enantioselectivity in Ruthenium-Catalyzed Propargylic Substitution Reactions of Propargylic Alcohols with Acetone: A DFT Study	共著	2021年11月	Wiley, Chem. Asian. J. 16, 3760 (2021)
(論文) Ruthenium- and Copper-Catalyzed Propargylic Substitution Reactions of Propargylic Alcohol Derivatives with Hydrazones	共著	2021年11月	Wiley, Chem. Eur. J. 27, 15650 (2021)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
マンガン錯体を用いた触媒的アンモニア分解反応に関するDFT計算		2021年9月	第15回分子科学討論会
光学活性硫黄架橋二核ルテニウム触媒を用いた不斉プロパルギル位置換反応に関する量子化学的研究		2022年3月	日本化学会第102回春季年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年2月~2023年1月		日本薬学会代議員	

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 臨床薬剤学研究室	職名 教授	氏名 真坂 亙
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2018年度以降 2020年度以降 2020年度以降	・実務実習のアンケートを実施している。 ・Moodleの活用を開始している。 ・補助教材用のビデオを作成し使用している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年度以降	・講義資料を作成し補助教材として使用。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年度以降 2018年度 2021年度	・実務実習のアンケートを実施している。 ・プレ実習の教育に関し学会発表している。 ・授業評価アンケートを実施している。
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
病気とくすり 薬局増刊号	共著	2017年3月	南山堂
業務別・病院実務実習テキスト	共著	2019年3月	京都廣川書店
イブラグリフロジン投与における肝機能検査値改善と体重減少および血糖低下の関連性の検討	共著	2018年12月	日本病院薬剤師会雑誌54(12)
Good response to methotrexate is associated with a decrease in the gene expression of ABCG2, a drug transporter, in patients with rheumatoid arthritis.	共著	2021年6月	Modern Rheumatology 31(6)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
プレ実務実習Ⅱ 情報の提供(疑義照会)の学習成果に関する調査		2019年9月	P-C0学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～2018年3月	一般社団法人 千葉県病院薬剤師会会長		
2017年4月～2018年6月	一般社団法人 千葉県薬剤師会 副会長		
2017年4月～2019年3月	日本医薬品安全性学会 評議員		
2018年5月～現在	一般社団法人 千葉県病院薬剤師会 顧問		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 病態生化学	職名 教授	氏名 梶貝 孝慈
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021	授業評価アンケート（薬物治療学Ⅱ）
		2020	授業評価アンケート（薬物治療学Ⅱ）
		2019	授業評価アンケート（薬物治療学Ⅱ）
		2018	授業評価アンケート（薬物治療学Ⅱ）
		2017	授業評価アンケート（薬物治療学Ⅱ）
2 作成した教科書、教材、参考書		2021	病態検査学実習・薬物治療学演習テキスト作成 病態検査学、薬物治療学Ⅱ、先端医療薬学講義資料作成
		2020	病態検査学実習・薬物治療学演習テキスト作成 病態検査学、薬物治療学Ⅱ、先端医療薬学講義資料作成
		2019	病態検査学実習・薬物治療学演習テキスト作成 病態検査学、薬物治療学Ⅱ、先端医療薬学講義資料作成
		2018	病態検査学実習・薬物治療学演習テキスト作成 病態検査学、薬物治療学Ⅱ、先端医療薬学講義資料作成
		2017	病態検査学実習・薬物治療学演習テキスト作成 病態検査学、薬物治療学Ⅱ、先端医療薬学講義資料作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2018. 10. 6	日本薬学会第4回若手薬学教育者のための アドバンスワークショップに参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Globo-A binds to the recombinant natural cytotoxicity receptor NKp44 Biol.	共著	2018年6月	Biol. Pharm. Bull41(9):1480-1484
Influence of Sorafenib on Host Immunity in Patients with Liver Cirrhosis With Advanced Hepatocellular Carcinoma Stratified by Etiology.	共著	2019年3月	Anticancer Research 39(4):2183-2191
Tivantinib Decreases Hepatocyte Growth Factor-Induced BCRP Expression in Hepatocellular Carcinoma HepG2 Cells	共著	2020年6月	Biol. Pharm. Bull 43(9):1421-1425
Safety and Effectiveness of Ixazomib Dose-escalating Strategy in Ixazomib-Lenalidomide-Dexamethasone Treatment for Relapsed/Refractory Multiple Myeloma	共著	2020年9月	in vivo 34(5):2821-2828
Importance of Compliance with Guidelines for the Prevention of Varicella-Zoster Virus Reactivation in Multiple Myeloma	共著	2021年11月	in vivo 35(6):3289-3296
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
NKG2D リガンド ULBP1 の転写調節		2022. 3	日本薬学会第142年会
肝細胞癌患者血清中可溶性MICAおよびFGF-19濃度		2022. 3	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年度～現在	独立行政法人 物質・材料研究機構 並木地区遺伝子組換え実験安全委員会 外部委員		
2017年度～現在	独立行政法人 物質・材料研究機構 並木地区微生物実験安全委員会 外部委員		
2019年度～現在	日本薬学会 Biological and Pharmaceutical Bulletin 編集委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 臨床薬学研究室	職名 教授	氏名 松尾 和廣
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
医療情報Ⅱ	2017年4月1日～ 現在	<p>個々の患者への適正な薬物治療に貢献できるようになるために、患者からの情報の収集、評価に必要な基本的知識、技能、態度を習得する。また、個々の患者に応じた投与計画を立案できるようになるために、薬物治療の個別化に関する基本的知識と技能を解説した。講義では、関連する実症例などを例示しながら具体的なイメージが持てるように工夫した。各講義前に理解度を確保するための問題を提示し、予習・復習を促し、単元ごとに問題を提示し、繰り返し学習ができるように工夫した。</p>	
医療情報Ⅰ	2021年4月1日～ 現在	<p>2021年度より3年次秋学期に開講された（それまで（現2021年度の4年生まで）は4年次春学期開講）。薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上的問題解決ができるようになるために、医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理、根拠に基づく医療（EBM）の実践について解説した。特に、3年次秋学期からはじまる薬物治療学及び4年次以降に続く医療情報Ⅱ・Ⅲ、実践薬物治療学、プレ実務実習、実務実習、処方設計管理學へと知識・技能が引き継がれる学力を養成した。各講義前に理解度を確保するための問題を提示し、予習・復習を促し、単元ごとに問題を提示し、繰り返し学習ができるように工夫した。</p>	
実践薬物治療学	2021年4月1日～ 現在	<p>患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できるように、代謝疾患、血液疾患、循環器疾患、脳血管疾患、精神神経疾患、自己免疫疾患、呼吸器疾患について解説した。本講義は臨床医学総論Ⅱにて数日前に臨床医から講義された疾患に対応して実施した。また、各講義前に課題として、症例を提示し課題を解説する形で行った。また、疾患に対する理解度を確保するための問題を提示し、繰り返し学習ができるように工夫した。</p>	
「他11件」			
2 作成した教科書、教材、参考書			
薬物治療学（改訂6、7、8、9、10版）	2017年～現在	<p>病態から治療薬の基礎知識、そして治療薬の実際の使い方について、薬学生が将来、医療現場で臨床薬剤師として十分機能できるようになる為の教科書または参考書として出版されたものである。このうち、編者と眼疾患を分担した。</p>	
薬学生・薬剤師レジデントのための感染症学・抗菌薬治療テキスト（第2版）	2018年～現在	<p>感染症の専門薬剤師を目指す薬学生や若手薬剤師びとって、修得すべき感染症にの知識や技術を幅広く基礎から臨床まで網羅した参考書である。このうち、キノロン系薬の使い方を分担した。</p>	
治療薬ハンドブック2017～2021	2017年～現在	<p>日々情報が更新される添付文書情報やRMP等の薬剤適正使用に係る注意喚起を各医薬品情報に反映したほか、医学・薬学の最新知見を過不足なくとりいれてある医薬品集である。このうち薬剤リストを分担した。</p>	

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）精神科薬物療法の出口戦略の実践に使用する Decision Aid（治療選択の手引き）の薬剤師を対象としたニーズ調査	共著	2021年3月	日本精神薬学会誌（第4巻2号）
（著書）Visual Core Pharma 薬物治療学（改訂10版）	共著	2021年4月	南山堂
（論文）Risk factors for clozapine-induced central nervous system abnormalities in Japanese patients with treatment-resistant schizophrenia	共著	2021年6月	Asian Journal of Psychiatry, Vol. 60,
（論文）Occurrence of infusion-related reactions due to obinutuzumab therapy for follicular lymphoma.	共著	2021年11月	Gan To Kagaku Ryoho. Vol. 48, No. 3
（論文）乳酸アシドーシスと呼吸不全で死亡し、血漿メトホルミン濃度の著明高値が証明された一剖検例.	共著	2021年11月	日集中医誌、（第28巻6号）
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）COVID-19患者を対象としたファビピラビルによる尿酸値上昇の危険因子.		2021年5月	第95回日本感染症学会学術講演会／第69回日本化学療法学会総会 合同学会
（演題名）大学病院における経口抗菌薬使用量サーベイランスとその課題		2021年5月	第95回日本感染症学会学術講演会／第69回日本化学療法学会総会 合同学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2007年1月～現在	日本中毒学会 編集委員		
2010年4月～現在	薬物治療モニタリング研究会 幹事		
2014年7月～現在	日本中毒学会 評議員		
2019年8月～現在	日本精神薬学会 評議員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 生薬学教室	職名 教授	氏名 李 巍
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			講義・実習科目において、eラーニングシステム Moodle を利用して、講義資料の配布や演習を行うことにより、授業・実習内容に対する理解の促進を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年4月 2020年3月	天然物化学教科書「資源天然物化学」共著 生薬学教科書「実践漢方生薬学」共著
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年10月23日	2021年度漢方薬・生薬認定薬剤師 漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習を担当した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Bistinospinosides A and B, dimeric clerodane diterpene glycosides from <i>Tinospora sagittate</i>	共著	2017年9月	Journal of Natural products Vol. 80 No.9
Identification, structural modification, and dichotomous effects on human immunodeficiency virus type 1 (HIV-1) replication of ingenane esters from <i>Euphorbia kansui</i>	共著	2018年8月	European Journal of Medicinal Chemistry Vol. 156
Synthesis and structure-activity relationship correlations of gnidimacrin derivatives as potent HIV-1 inhibitors and HIV latency reversing agents	共著	2019年8月	Journal of Medicinal Chemistry Vol. 62 No.15
Daphneodorins A-C, Anti-HIV Gnidimacrin Related Macrocyclic Daphnane Orthoesters from <i>Daphne odora</i>	共著	2020年1月	Organic Letters vol.22 No.1
LC-MS Identification, Isolation, and Structural Elucidation of Anti-HIV Tiglane Diterpenoids from <i>Wikstroemia lamatsoensis</i>	共著	2021年8月	Journal of Natural products Vol. 84 No.8
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
LC-MSを活用した <i>Wikstroemia ligustrina</i> の抗HIV活性大環状ダフナン型ジテルペノイドに関する成分研究		2021年9月	日本生薬学会第67回年会
ジンチョウゲ科アオガンビ属植物由来の抗 HIV 活性テグリアン型ジテルペノイドの探索研究		2021年10月	第23回天然薬物の開発と応用シンポジウム

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2014年4月～現在	日本生薬学会 学会誌編集委員
2020年3月～現在	日本薬学会 学会誌編集委員
2021年3月～現在	日本生薬学会 評議員
2021年3月～現在	日本生薬学会関東支部役員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬学部 英語教室	職名 教授	氏名 花崎 一夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 The Road to AI パラグラフライティングの真髄		2021年1月1日 2017年9月	大学英语の授業で使用するテキストの作成をした。 大学生用の英語のライティング用のテキストを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) コロケーションで学ぶ英会話	共著	2020年3月	ブイツーソリューション
(論文) The Semantics of Words that Denote Lower Places or Movements toward Such Lower Places	共著	2018年8月	11th International Conference on Language, Education & Innovation: 25-35.
(論文) 英語前置詞downとunderの意味論—効果的な教育方法の試案—	共著	2019年3月	信州大学総合人間科学研究(第13号):2-16.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
大学入試センター英語リスニング部会	2017年4月～ 2019年3月まで

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 分子生物学教室	職名 准教授	氏名 東 祐太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年7月-毎年 2017年11月-毎年	授業評価アンケートの実施（免疫学Ⅱ） 授業評価アンケートの実施（免疫学Ⅰ） 授業評価アンケートの実施により、教育方法の改善を毎年行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年10月-毎年	分子生物学・免疫学実習-実習書（毎年改訂） 分子生物学的分析法・免疫学的分析法を用いた生体成分の解析法と評価に関する実習テキストを毎年改訂し作成している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017年-毎年	薬学部FD講演会、全学FD講演会に参加（毎年）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Mutant analysis of Cdt1's function in suppressing nascent strand elongation during DNA replication in <i>Xenopus</i> egg extracts.	共著	2017年7月	Biochem Biophys Res Commun. 490 : 1375-1380 (2017)
（論文） Biphasic Increases of Cell Surface Calreticulin Following Treatment with Mitoxantrone.	共著	2020年7月	Biol. Pharm. Bull. 43:1595-1599 (2020).
（論文） N-terminal region of RecQ4 inhibits non-homologous end joining and chromatin association of the Ku heterodimer in <i>Xenopus</i> egg extracts	共著	2021年4月	Gene. 787 : 145647- 145647 (2021)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
HepG2細胞のインスリン応答に対するWRN遺伝子ノックダウンの影響		2021年9月	日本薬学会関東支部会
アポトーシス誘発によるLAMP-1, 2の細胞表面への移行とその役割		2021年9月	日本薬学会関東支部会
高濃度グルコースによるHSP90のO-GlcNAc修飾とアポトーシスへの関与		2021年9月	日本薬学会関東支部会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
		なし	

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬化学教室	職名 准教授	氏名 高橋 圭介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		毎年度	重要箇所の復習を促すための課題を出題した。また分子模型を組み立てさせる課題を出題した。また、授業評価アンケートを実施した(有機化学II, 医薬品合成化学I)
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年度	有機化学実習Iの実習をキストを作成した。この内容に沿った実験動画も作成、公開した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Formal synthesis of tirandamycin B.	共著	2017年6月	Tetrahedron 2017, 73, 3548-3553.
(論文) Syntheses of 4-OH and 5-OH Imidacloprids.	共著	2019年6月	Chemistry Select 2019, 4, 7343-7345.
(論文) Interspecies differences in cytochrome P450-mediated metabolism of neonicotinoids among cats, dogs, rats, and humans.	共著	2021年1月	Comp. Biochem. Phys. C. 2021. 239, 108898.
(論文) Total Synthesis of (-)-Graminin A Based on Asymmetric Cyclization Carbonylation of Propargyl Acetate.	共著	2019年12月	J. Org. Chem. 2019, 84, 16268-16277.
(論文) Asymmetric Cyclizative Dimerization of (ortho-Alkynyl Phenyl) (Methoxymethyl) Sulfides with Palladium (II) Bisoxazoline Catalyst.	共著	2019年1月	Chem. Euro. J. 2019, 25, 733-737.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Urupocidinの合成研究		2022年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017-2021年	Chem. Pharm. Bull 誌 審査員		
2019年	Synthesis 誌 審査員		
2021年、2019年、2018年、2017年	東邦大学「夏休み薬学教室」講師として参加		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬学総合実験部門	職名 准教授	氏名 五郎丸-新海 美智子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017-2021年	「自分の手を動かし目で見て得た体験(実験)は、本の中や講義で学んだ事を確実に身につけることができる」をモットーにして、実技中心の教育を実践している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年	ブロッコリースプラウトを用いた喫煙防止モデル教材を改良して、発表した
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年	全国的にも珍しい放射薬品学実習の実施内容と意義についてを大学紀要に報告した
4 その他教育活動上特記すべき事項		2006~2021年	大学近くの小学校で学校薬剤師として活動し、その経験を関係の実習に生かしている
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Effect of cigarette extract on vitamin C contents of broccoli sprouts.	共著1st	2018年	Analytical Bio-Science 6(4):51-54
Effect of cigarette extract on vitamin C contents of broccoli sprouts; second report.	共著1st	2020年	東邦大学教養紀要 52:33-40
放射薬品学実習 東邦大学薬学部での実施報告と考察	共著1st	2021年	東邦大学教養紀要 in press
学校薬剤師による保健教育 — 学校薬剤師活動の考察と中学生女子指導報告	共著	2020年	東邦大学教養紀要 52:17-32
Development of experimental teaching material for high school students: analysis of the protein content in Japanese green tea, black tea, and toasted tea.	共著	2020年	Int J Bio-Sci 8(2): 29-33
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
学校薬剤師としての活動報告 問題点と今後の展望		2022年3月	日本薬学会第142年会
学校薬剤師による女子中学生とその保護者を対象にした思春期指導		2022年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2006年4月~現在	学校薬剤師(千葉県船橋市により委嘱)		
1995年4月~現在	日本薬理学会学術評議員		
2021年3月	江戸川区子ども未来館 理科実験教室 「ゼリーと果物を使った酵素の実験」		
2020年9月	鎌ヶ谷市・船橋市 学校薬科研究協議会講演「これからの学校薬剤師に期待すること」		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬品製造学教室	職名 准教授	氏名 氷川 英正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		毎年6月と10月に実施	講義科目の授業アンケートの実施
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年6月	初等化学演習用のテキストを作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) A palladium-catalyzed dehydrative N-benzylation/C-H benzylation cascade of 2-morpholinoanilines on water.	共著	2018年2月	Green Chemistry vol.20 No.6
(論文) A borrowing hydrogen methodology: palladium catalyzed dehydrative N-benzylation of 2-aminopyridines in water.	共著	2018年7月	Green Chemistry vol.20 No.13
(論文) Platinum(II)-catalyzed dehydrative C3-benzylation of electron-deficient indoles with benzyl alcohols.	共著	2019年7月	Organic Chemistry Frontiers vol.6 No.17
(論文) A Borrowing Hydrogen Strategy for Dehydrative Coupling of Aminoisoquinolines with Benzyl Alcohols in Water	共著	2020年2月	European Journal of Organic Chemistry No.5
(論文) Direct Use of Benzylic Alcohols for Multicomponent Synthesis of 2-Aryl Quinazolinones Utilizing the $\pi$ -Benzylpalladium(II) System in Water	共著	2021年6月	Advanced Synthesis & Catalysis vol.363 No.16
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
水中におけるPd触媒を用いた多成分連結反応によるキナゾリノン合成		令和4年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
令和3年4月～現在	日本薬学会 代議員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 地域医療薬学研究室	職名 准教授	氏名 藤枝 正輝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			なし
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年9月 2020年3月	薬局管理学 京都廣川書店 セルフケアとOTC医薬品 ネオメディカル
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 薬局薬剤師による疑義照会の医療経済学的効果に関する研究	共著	2019年1月	薬理と治療(第47巻第1号)
(論文) 保険薬局における受診勧奨シートを用いた受診勧奨の取り組み	共著	2019年4月	薬局薬学(第11巻第1号)
(論文) OTC医薬品販売に伴う薬局薬剤師の介入による潜在的医療費節減効果	共著	2019年6月	薬理と治療(第47巻第6号)
(論文) 保険薬局における医療用麻薬の使用実態に関する医療経済学的研究	共著	2019年11月	薬理と治療(第47巻第11号)
(論文) 薬剤師を対象としたコンビネーション医薬品および不具合報告制度の認知度調査	共著	2021年5月	医薬品情報学(第23巻第1号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 薬局薬剤師によるトレーニングレポートを用いた処方変更提案が提案通りに変更される割合の推移とその内容		2021年11月	日本薬局学会学術総会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	日本薬学会会員		
	日本薬剤師会会員		
	日本医療薬学会会員		
	日本薬局学会会員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬品物理分析学教室	職位 准教授	氏名 岩田 達也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年4月7-7月7日	Moodleを利用したレポートへの個別返答の実施
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Structural Changes during the Photorepair and Binding Processes of <i>Xenopus</i> (6-4) Photolyase with (6-4) Photoproducts in Single- and Double-Stranded DNA	共著	2021年10月	American Chemical Society, Biochemistry 2021, 60, 43, 3253-3261
(論文) Orientations and water dynamics of photoinduced secondary charge-separated states for magnetoreception by cryptochrome	共著	2021年9月	Nature Research, Communications Chemistry 4, 141 (2021)
(論文) ATP binding promotes light-induced structural changes to the protein moiety of <i>Arabidopsis</i> cryptochrome 1.	共著	2020年9月	Royal Society of Chemistry, Journal of the American Chemical Society 140(38) 11982-11991
(論文) Hydrogen Bonding Environments in the Photocycle Process around the Flavin Chromophore of the AppA-BLUF domain	共著	2018年9月	American Chemical Society, Journal of the American Chemical Society 140(38) 11982-11991
(論文) Unique Hydrogen Bonds in Membrane Protein Monitored by Whole Mid-IR ATR Spectroscopy in Aqueous Solution	共著	2018年1月	American Chemical Society, Journal of Physical Chemistry B 122(1) 165-170
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Photoreaction of mutated LOV domain that causes light-induced electron transfer		2021年11月	日本生物物理学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬物学教室	職名 准教授	氏名 行方衣由紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年から現在	特定の分野だけを狭く講義するのではなく、関連した分野にも繋げた、視野の広い教育を目指した。その際、重要なポイントを学生が見失わないようスクリーンなどを利用することで視聴的にも強調し学生に伝えるよう工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年から現在 2019年2月	・講義ごとに、様々な教科書から要点をまとめたプリントを独自に作成し、学習のポイントがわかりやすくなるような教材の作成を目指した。 ・パートナー薬理学第3版(南江堂)の部分執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年10月 2020年1月 2017年から現在	第68回薬学部公開講座 講演 薬理学エデュケーター(日本薬理学会)に認定 薬学部FD講演会に毎年出席している
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Positive lusitropic effect of quercetin on isolated ventricular myocardia from normal and streptozotocin-induced diabetic mice.	共著	2021年12月	Biol Pharm Bull. 44(12):1894-1897. 2021.
(論文) Contribution of ATP-mediated positive feedback to sympathetic nerve-induced positive inotropy in guinea pig ventricular myocardium.	共著	2021年3月	Biol Pharm Bull. 44(3):458-460. 2021.
(論文) Fluorescence discrimination of pharmacological effects on the Na <sup>+</sup> -Ca <sup>2+</sup> exchanger and sarco-endoplasmic reticulum Ca <sup>2+</sup> -ATPase in mouse ventricular cardiomyocytes.	共著	2021年1月	Biol Pharm Bull. 44(1):154-157. 2021.
(論文) KB-R7943 inhibits the mitochondrial Ca <sup>2+</sup> -uniporter but Not Na <sup>+</sup> -Ca <sup>2+</sup> exchanger in cardiomyocyte-derived H9c2 Cells.	共著	2020年12月	Biol Pharm Bull. 43(12):1993-1996. 2020.
(論文) Differential effects of class I antiarrhythmic drugs on the guinea pig pulmonary vein myocardium: Inhibition of automatic activity correlates with blockade of a diastolic sodium current component.	共著	2020年4月	J. Pharmacol. Sci. 143(4):325-329. 2020.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Streptozotocin誘発糖尿病マウス心筋の弛緩機能に対するQuercetinの作用		2021年6月	第144回日本薬理学会関東部会
(演題名) 肺静脈心筋に対するI群抗不整脈薬の作用:緩徐脱分極相抑制とlateI <sub>Na</sub> 遮断の関係		2021年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2021
(演題名) ATX-IIは Na <sup>+</sup> /Ca <sup>2+</sup> 交換機構の逆方向回転モードの活性化を介して肺静脈心筋細胞の細胞内Na <sup>+</sup> 及びCa <sup>2+</sup> 濃度を上昇させる		2021年9月	第30回日本バイオイメーjing学会学術集会
(演題名) 自発的 Ca <sup>2+</sup> transient の発生における Na <sup>+</sup> /Ca <sup>2+</sup> exchanger 役割—モルモット洞房結節細胞での検討—		2021年9月	第30回日本バイオイメーjing学会学術集会
(演題名) 肺静脈心筋自発活動に寄与するイオンチャネル・トランスポーターの解明		2021年10月	第145回日本薬理学会関東部会
(演題名) 洞房結節自動能における細胞内Ca <sup>2+</sup> の関与:動物種による違い		2021年11月	2021年度生理研研究会
(演題名) Low Na <sup>+</sup> 液がモルモット洞房結節の自発的な電気活動とCa <sup>2+</sup> 動態に及ぼす影響		2022年3月	第95回日本薬理学会年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2020年4月～現在	Cardiovascular Toxicology Editorial Board Members
2020年4月～現在	日本薬学会機関誌『ファルマシア』 トピックス小委員会
2021年9月	第30回日本バイオイメーjing学会学術集会 事務局
2020年11月	日本バイオイメーjing学会 奨励賞受賞
2017年～現在	日本薬学会 薬理系薬学部会若手世話人

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬品物理化学	職名 准教授	氏名 吉川 武司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Trajectory surface hopping approach to condensed-phase nonradiative relaxation dynamics using divide-and-conquer type spin-flip time-dependent density-functional tight-binding	共著	2021年2月	J. Chem. Theory Comput. Vol. 17, p. 1290
(論文) Machine-learned electron correlation model based on frozen core approximation	共著	2020年11月	J. Chem. Phys. Vol. 153, p. 184108
(論文) Finite-temperature-based time-dependent density functional theory method for static electron correlation systems	共著	2020年6月	J. Chem. Phys. Vol. 152, p. 244111
(論文) Large-scale excited-state calculation using dynamical polarizability evaluated by divide-and-conquer based coupled cluster linear response method	共著	2020年1月	J. Chem. Phys. Vol. 152, p. 024102
(論文) GPU-accelerated large-scale excited-state simulation based on divide-and-conquer time-dependent density-functional tight-binding	共著	2019年8月	J. Comput. Chem. Vol. 40, p. 2778
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
スピン反転法に基づく凍結軌道解析を用いたS0/S1円錐交差構造の理論的解明		2021年5月	第23回理論化学討論会
動的分極率による励起状態計算へ向けた量子アルゴリズムqUCC-LR開発		2021年11月	日本コンピュータ化学会2021年
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～現在	日本化学会会員		
	理論化学会会員		
	分子科学会会員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 病態生化学研究室	職名 准教授	氏名 巽 康彰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年度春学期	薬物治療学Ⅶの13コマをすべて担当し、講義を行った。
		2021年6月7日	薬学総合演習Ⅰの第9回病態・薬物治療の2コマを講義し、さらに1コマで確認試験を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年度春学期	薬物治療学Ⅶすべての講義資料をパワーポイントで作成した。
		2021年6月7日	薬学総合演習Ⅰの中で2コマの講義資料をパワーポイントで作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年7月3日	生命倫理シンポジウムにおいてファシリテーターを務めた。
		2021年10月2日	医薬合同授業においてファシリテーターを務めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Juvenile Hemochromatosis: A Case Report and Review of the Literature	共著	2020年8月	Pharmaceuticals, 13(8):E195. (2020)
(論文) Omega-3 polyunsaturated fatty acids exert anti-oxidant effects through the nuclear factor (erythroid-derived 2)-related factor 2 pathway in immortalized mouse Schwann cells.	共著	2019年3月	J Diabetes Investig., 10(3):602-612. (2019)
(論文) Recurrent short-term hypoglycemia and hyperglycemia induce apoptosis and oxidative stress via the ER stress response in immortalized adult mouse Schwann (IMS32) cells.	共著	2019年10月	Neurosci Res., 147:26-32. (2019)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Docosahexaenoic acid suppresses oxidative stress-induced autophagy and cell death through the AMPK-dependent signaling pathway in immortalized adult rat Schwann (IFRS1) cells.		2021年6月	アメリカ糖尿病学会
DHAはラット不死化シュワン細胞においてAMPK依存性シグナル経路を介して酸化ストレス誘導オートファジーと細胞死を抑制する		2021年5月	日本糖尿病学会
血糖変動・低血糖による糖尿病性神経障害の成因と治療: シュワン細胞のミトコンドリア機能障害に対するイメグリミンの効果		2021年5月	日本糖尿病学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年11月18日	高校模擬講義: 千葉県立船橋芝山高校		
2019年5月~現在	Biol. Pharm. Bull. 論文審査員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 生薬学教室	職名 准教授	氏名 菊地 崇
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年～現在 2021年～現在	天然物化学 植物療法学 指定教科書に加え、参考資料として要点をまとめた資料を用いて、授業を行っている。理解度を把握するために、適宜、演習問題を行っている。2021年10月に植物療法学の授業アンケートを実施し、授業の改善に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017年8月26、27日	第88回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿 修了
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Strophasterols E and F: Rearranged ergostane-type sterols from <i>Pleurotus eryngii</i>	共著	2019年5月	Bioorganic Chemistry vol. 89
(論文) Pleurocorols A and B: rearranged steroids from the fruiting bodies of <i>Pleurotus cornucopiae</i>	共著	2020年6月	Organic Chemistry Frontiers vol. 7 No. 15
(論文) Carapanins A-C: new limonoids from andiroba ( <i>Carapa guianensis</i> ) fruit oil	共著	同年10月	Organic & Biomolecular Chemistry vol.18 No. 45
(論文) Identification of anti-HIV macrocyclic daphnane orthoesters from <i>Wikstroemia ligustrina</i> by LC-MS analysis and phytochemical investigation	共著	2021年7月	Journal of Natural Medicines vol. 75 No. 4
(論文) LC-MS Identification, Isolation, and Structural Elucidation of Anti-HIV Tigliane Diterpenoids from <i>Wikstroemia lamatsoensis</i>	共著	同年8月	Journal of Natural Products vol. 84 No. 8
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 生物活性を有する開裂型および転位型エルゴスタン系ステロイドの探索研究		2021年9月20日	日本生薬学会第67年会
(演題名) ジンチョウゲ科植物 <i>Daphne pedunculata</i> 由来の新規大環状ダフナン型ジテルペノイドの構造解析		2021年9月20日	日本生薬学会第67年会
(演題名) LC-MS を活用した <i>Wikstroemia ligustrina</i> の抗HIV 活性大環状ダフナン型ジテルペノイドに関する成分研究		2021年9月20日	日本生薬学会第67年会
(演題名) ナデシコ科植物シラタマソウ <i>Silene vulgaris</i> のトリテルペノイドサポニンに関する成分研究		2021年9月20日	日本生薬学会第67年会
(演題名) ジンチョウゲ科アオガンピ属植物由来の抗HIV 活性チグリアン型ジテルペノイドの探索研究		2021年10月16日	第23回天然薬物の開発と応用シンポジウム

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
なし	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 臨床薬剤学研究室	職名 准教授	氏名 木下 雅子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年3月より  2017年4月より	早期臨床体験で、病院と薬局の見学の引率を実務実習を終えた5年次生を充て、屋根瓦方式を導入し、1年生が将来を想像しやすくした。  2年次生を対象としたプレゼンテーションで、薬学における社会的問題について討議させ、そのプロダクトを発表する形式をとっている。また、討議のグループメンバーを互いに評価するピア評価の導入をおこなっている。それにより学習者とその同僚が学習の振り返りが容易になった。  他3件
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年7月より  2020年7月より	プレ実務実習II及び、プレ実務実習II(実践薬学)で実習テキストを作成して活用している。  プレ実務実習II(実践薬学)用に、調剤薬監査と持参薬調査についての動画を作成して、学生が自己学習できるようにした。  他1件
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2017年9月	「早期臨床体験」における視覚障害患者への服薬指導ロールプレイの教育評価
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017年4月より  2017年  2020年3月より	認定指導薬剤師養成ワークショップにタスクフォースとして参加している。  4期性開始前に週報のトライアルを実施し検証を行った。それにより平成25年改訂モデルコア・カリキュラムに準拠した実習への移行が容易になった。  新型コロナウイルス感染症拡大を鑑み、早期臨床体験の実施方法の再考と緊急事態宣言時の実務実習の学習継続のための対応した。コロナ禍でも平日に準じた実習を行えた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)「早期臨床体験」における視覚障害患者への服薬指導ロールプレイの教育評価	共著	2017年9月	医療薬学会(第43巻第9号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
東邦大学教員による学校薬剤師としての活動報告		2022年3月	日本薬学会第142年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2015年4月～現在	学校薬剤師（船橋市前原中学校）
2018年3月～2018年10月	第12回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会実行委員
2019年4月～現在	千葉県薬学生受入委員会委員
2021年4～現在	関東地区調整機構委員

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学薬学部	講座名 薬学総合教育部門	職名 講師	氏名 関 広美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年～現在 2018年～現在 2019年～現在	統合型演習科目（薬学演習、薬学総合演習）の運営に協力 6年次薬学総合講義Ⅱの科目責任者として改善に着手（本件について学会発表2回実施） 4年次薬学演習の科目責任者として改革に着手
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年～現在 2018年～現在	薬学総合講義Ⅱ教材（重要事項のまとめ、演習問題）の更新、改訂 基礎問題集（薬学演習Ⅰ、Ⅱ教科書）の更新、改訂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
～現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 社会薬学研究室	職名 講師	氏名 高橋 瑞穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		平成21年～現在 令和2年～現在 令和2年～現在	・TV会議システムを用いた双方向性学習を通し国内外の薬剤師業務についての理解を促す ・医療人意識形成関連科目においてSDL室を活用したグループワークの機会創出に努める ・医療チームの一員としてのActive Learning実現のため医学部・高校生を含むチームでのディベートを実施する（オンライン）
2 作成した教科書、教材、参考書		平成29年～現在 令和2年～現在	・薬物治療学（改訂6-10版） [分筆] ・プレ実務実習テキスト／動画資料（患者対応部分）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		令和2年10月16日	・TCM (Toho Crew Meeting : 学内有志勉強会) 報告会第2部 [オンライン講義での取り組み] にて報告
4 その他教育活動上特記すべき事項		令和3年	・MOU提携施設（瀋陽薬科大学）の学生とのオンライン交流会企画・運営・実施
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) 「Visual Core Pharma 薬物治療学 改訂10版」	共著	2021年3月	南山堂
(論文) 精神科薬物療法の出口戦略の実践に使用する Decision Aid (治療洗濯の手引き) の薬剤師を対象としたニーズ調査	共著	2021年3月	日本精神薬学会誌 (第4巻2号)
(論文) 医学生用学習意欲尺度の信頼性と妥当性の検討：看護学生用からの改変	共著	2020年7月	日本健康医学会雑誌 (第29巻2号)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
平成25年～現在	東邦大学付属東邦高校 「薬物乱用防止講義」		
平成29年～現在	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会理事		
令和2年9月12日	日本薬学教育大会WS「TRY! 事例を使った薬学倫理教育～4分割表の活用法～」		
令和3年～現在	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会 編集委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 スポーツ健康科学教室	職名 講師	氏名 成末 憲治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年～2021年	授業評価アンケートを実施して教育内容の改善を毎年行っている。Moodleを活用した双方向型授業を取り入れている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Effect of cigarette extract on vitamin C contents of broccoli sprouts.	共著	2018年12月	Int. J. Anal. Bio-Sci. (6・4)
学校薬剤師による保健教育—学校薬剤師活動の考察と中学生女子指導報告—	共著	2020年2月	東邦大学教養紀要 (52)
The effects of cigarette extract on the vitamin C contents of broccoli sprout: Second report	共著	2020年2月	Toho Liberal Arts Review (52)
香りとフェロモンの感覚受容細胞の電気生理学的特性	共著	2021年2月	Aroma Research (22・1)
放射薬品学実習—東邦大学薬学部における実施の記録と考察—	共著	in press	東邦大学教養紀要 (53)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年1月～現在	日本生理学会認定生理学エデュケーター		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 中央機器室	職名 講師	氏名 満長 克祥
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			授業／実習：担当なし
2 作成した教科書、教材、参考書			授業／実習：担当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			授業／実習：担当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			大学法人ならびに学部主催の FD /WSに参加 授業／実習を担当していませんが 中央機器室に所属し、研究支援をしている
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Thyrotoxic Rubber Antioxidants, 2-Mercaptobenzimidazole and its Methyl Derivatives, Cause Both Inhibition and Induction of Drug-Metabolizing Activity in Rat Liver Microsomes After Repeated Oral Administration.	共著	2017年	Biochemical and Biophysical Reserch Communications vol.492
In vitro Metabolism of 4-Methyl- and 5-Methyl-2-Mercapto-benzimidazole, Thyrotoxic and Hepatotoxic Rubber Antioxidants, in Rat Liver Microsomes.	共著	2018年	Fundamental Toxicological Science vol.5
Inhibitory and inductive effects of 4- or 5-methyl-2-mercapto-benzimidazole, thyrotoxic and hepatotoxic rubber antioxidants, on several forms of cytochrome P450 in primary cultured rat and human hepatocytes.	共著	2020年	Toxicology reports vol.7
In vitro cytotoxicity of the thyrotoxic and hepatotoxic rubber anti-oxidant 2-mercaptobenzimidazole and its 4- or 5-methyl derivatives in rabbit corneal cells.	共著	2020年	Fundamental Toxicological Sciences vol.7
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
バルプロ酸による培養ラット神経堤細胞の遊走促進作用		2017年	第44回 日本毒性学会学術年会
2-Mercaptobenzimidazole (MBI) 及びメチル誘導体のラット肝ミクロソームによる代謝に関する研究		2019年	第46回 日本毒性学会学術年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
1988年度～現在	日本薬学会会員
2004年度～現在	日本質量分析学会会員
2013年度～現在	日本医用マスペクトル学会
2020年度～現在	日本医用マスペクトル学会 評議員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬化学教室	職名 講師	氏名 日下部太一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年度 2020年度 2019年度 2018年度 2017年度	授業評価アンケートの実施（基礎化学、初等化学演習） 授業評価アンケートの実施（基礎化学） 授業評価アンケートの実施（基礎化学） 授業評価アンケートの実施（基礎化学） 授業評価アンケートの実施（基礎化学）
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年度 2020年度 2019年度 2018年度 2017年度	講義資料（基礎化学）、実習書（有機化学実習Ⅰ）、他1件 講義資料（基礎化学）、実習書（有機化学実習Ⅰ）、他1件 講義資料（基礎化学）、実習書（有機化学実習Ⅰ）、他1件 講義資料（基礎化学）、実習書（有機化学実習Ⅰ）、他1件 講義資料（基礎化学）、実習書（有機化学実習Ⅰ）、他1件
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年5月19日 2018年5月20日	認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスドワークショップ（東邦大学） 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスドワークショップ（東邦大学）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Improved Synthesis and Determination of the Biologically Active Diastereomer of YK11	共著	2020年4月	Molbank 2020, 2
(論文) Total Synthesis of (-)-Graminin A Based on Asymmetric Cyclization Carbonylation of Propargyl Acetate.	共著	2019年12月	J. Org. Chem. 84, 24
(論文) PdII catalyzed ligand controlled synthesis of bis(3-furanyl)methanones and methyl 3-furancarboxylates.	共著	2019年6月	Org. Biomol. Chem. 17, 28
(論文) Syntheses of 4-OH and 5-OH Imidacloprids	共著	2019年6月	ChemistrySelect 4, 24
(論文) Asymmetric Cyclizative Dimerization of (ortho-Alkynyl Phenyl) (Methoxymethyl) Sulfides with Palladium(II) Bisoxazoline Catalyst.	共著	2019年1月	Chem. Eur. J. 25, 3
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
アルキニルヒドラゾンを用いたピラゾール類の新規合成法の開発		2022年3月	日本薬学会第142年会
Urupocidinの合成研究		2022年3月	日本薬学会第142年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2017年4月～現在	日本薬学会会員
2017年4月～現在	有機合成化学協会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 臨床薬剤学研究室	職名 講師	氏名 有山 智博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年～2021年 2020年～2021年 2021年	授業評価アンケートの実施により講義方法・内容の改善を図っている Moodleを活用した講義資料・動画配信と確認試験の実施 プレ実務実習Ⅱで実習室に設置されたモニタを活用した実習
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年～2021年 2020年 2019年	プレ実務実習Ⅱのテキスト（水剤）作成（2019年までは冊子、2020年～2021年はMoodleに掲載） プレ実務実習Ⅱ（計数調剤・水剤）の動画作成 病院実習テキスト（京都廣川書店）作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017年～2021年	TOHOボランティア部 顧問
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Comparative Study of Different Epidermal Growth Factor Receptor (EGFR)-Tyrosine Kinase Inhibitors Affecting Lung Cancer Cell Lines Stably Overexpressing EGFR Mutations.	共著	2021年	BPB Reports 4: 12-16, 2021
(著書) 業務別・病院実務実習テキスト-薬剤師業務の背景・基本・実践、そして心構え-	共著	2019年	京都廣川書店
(論文) Pd (II) catalyzed ligand controlled synthesis of bis (3-furanyl) methanones and methyl 3-furancarboxylates.	共著	2019年	Organic & biomolecular chemistry 17: 6860-6865, 2019
(論文) 我が国における低用量エストロゲン・プロゲステン製剤による有害事象報告と医薬品副作用被害救済制度給付決定情報の調査解析.	共著	2019年	医療薬学 45: 115-124, 2019
(論文) 医薬品副作用データベースを用いた全身投与薬による眼障害の調査解析.	共著	2018年	あたらしい眼科 35: 1299-1306, 2018
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
保険薬局に所属する日本精神薬学会会員を対象とした学会に対する期待と地域医療連携の現状調査		2021年8月	第5回日本精神薬学会総会・学術集会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2020年4月～現在	一般社団法人日本精神医療薬学会 地域医療連携推進委員会副委員長
2020年6月～現在	独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院 治験審査委員会委員
2021年5月～現在	これからの臨床薬学を考える会世話人
2021年8月～現在	一般社団法人日本精神医療薬学会 評議員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 実践医療薬学研究室	職名 講師	氏名 田中 博之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 授業評価アンケートを実施（毎年） プレ実務実習Ⅱ（4年次科目）における映像資料の作成と導入		2020年9月～	
2 作成した教科書、教材、参考書 高齢者医療薬学（京都廣川書店）編著 visual core pharma 薬物治療学（南山堂）分担執筆		2019年9月2日 2021年4月1日	高齢者医療Ⅰ（4年次科目）の教科書として使用 改訂10版（改訂8版から担当）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第56回全国大学保健管理研究集会にて発表		2019年10月3日	（演題名）薬学教育が薬学生の意識に与える影響について—解熱鎮痛薬を対象とした調査—
4 その他教育活動上特記すべき事項 2017年東邦大学薬学部生涯学習講座上期にて講演		2017年7月23日	（講演タイトル）HIV感染症の薬物治療と薬剤師のかかわり
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Analysis of patients with hypomagnesemia using the Japanese Adverse Drug Event Report database.	共著	2018年2月	Journal of pharmacy & pharmaceutical sciences, Vol. 21 No. 1
Analysis of patients with drug-induced pemphigoid using the Japanese Adverse Drug Event Report database.	共著	2019年3月	The Journal of dermatology, Vol. 46 No. 3
レセプト情報・特定健診等情報データベースオープンデータからみた抗HIV薬の処方実態.	共著	2019年8月	日本エイズ学会誌（第21巻第3号）
Analysis of the time-to-onset and factors affecting clinical outcomes of immune reconstitution inflammatory syndrome in people living with HIV using data from the Japanese spontaneous reporting database.	共著	2021年4月	Journal of pharmacy & pharmaceutical sciences, Vol. 24 No. 2
Association between anaphylaxis and anti-influenza drug use: An analysis of the Japanese Adverse Drug Event Report database.	共著	2021年7月	Drug discoveries & therapeutics, Vol.15 No. 3
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
皮膚悪性腫瘍の発生に関連する薬剤—JADERを用いた解析—		2021年7月	第7回日本医薬品安全性学会学術大会
NDBオープンデータを用いた抗HIV薬処方の実態調査—2015年度から2017年度の3年間の変遷—		2021年11月	第35回日本エイズ学会学術集会・総会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2014年5月～現在	日本医薬品安全性学会社員（評議員）
2018年3月～現在	東京（関東）医薬品安全性研究会幹事
2018年3月～現在	一般社団法人薬局共創未来人財育成機構薬剤師生涯研修センター認定委員会委員
2021年7月～現在	日本医薬品安全性学会編集委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬事法学研究室	職名 講師	氏名 平賀 秀明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
・ 講義における裁判例の積極的利用		2015年～	薬事関係法規・制度Ⅰ、Ⅱにおいて、医療人である薬剤師としての心構えを持ち医療安全の意識向上などを目的として、医療過誤訴訟の裁判例（例：KGLの静注事件など実際に発生した事件）を積極的に利用している。
・ 講義における漫画などのイラストの積極的利用		2015年～	薬剤師法などの条文の解説だけでは薬剤師業務の具体的な場面がイメージし難い。そのため、薬事関係法規・制度Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、薬剤師業務に関連した漫画、イラスト、写真などを積極的に利用している（漫画についてはアンケートにより一定の効果が認められた。）。
2 作成した教科書、教材、参考書			
・ 薬学と社会－薬事関連法・制度－ （株式会社南江堂）		2020年3月30日	規制薬物、医薬品副作用被害救済制度、医療経済について部分執筆
・ スタンダード薬学シリーズⅡ 9 薬学演習Ⅲ 薬学総論・衛生薬学（東京化学同人）		2020年11月18日	規制薬物などについて部分執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
・ 薬学部低学年の学生における授業理解促進のための小学生向け漫画教材の利用		2018年9月9日	第12回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会でのポスター発表（優秀賞）
・ 東邦大学薬学部における模擬患者養成活動の歩みと今後の課題		2017年9月10日	第11回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会でのポスター発表
4 その他教育活動上特記すべき事項			
・ 東邦大学理学部・健康科学部等 兼任講師		2018年～	医療関係・薬事関係法規等に関する講義
・ 付属東邦高等学校薬物乱用防止講習会 講師		2021年10月28日	薬物乱用に関係する薬物の法規制などについて毎年講演（高校1年生対象）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）精神科薬物療法の出口戦略の実践に使用するDecision Aid（治療選択の手引き）の薬剤師を対象としたニーズ調査	共著	2021年3月	日本精神薬学会誌4(2)
（論文）The Litigation Background Influencing the Time Until Resolution of Medical Litigation Filed in Chiba District Court of Japan: How Can Time-Consuming Medical Disputes be Resolved Early?	共著	2020年7月	The Japanese Journal of Quality and Safety in Healthcare 15(3)
（論文）Survey of Civil and Criminal Litigation Involving the Misuse of Benzodiazepine Hypnotics Designated as Psychotropic Drugs under the Narcotics and Psychotropics Control Law	共著	2020年9月	Japanese Journal of Psychiatric Pharmacy 4(1)
（論文）中華人民共和国の薬局における薬剤師の法的責任：医薬品の品質管理	共著	2020年12月	社会薬学 39(2)
（論文）Investigative Research on the Final Resolution of Cases Where Medical Accidents or Malpractice Led to Litigation in the Chiba District Court	共著	2019年10月	The Japanese Journal of Quality and Safety in Healthcare 14 (4)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2021年8月19日	印旛郡市薬剤師会医療安全管理講習会 講師
2016年～	医療法人社団信濃会 信濃坂クリニック治験審査委員会 委員
2016年～	千葉県薬学部連携会議（注：後発医薬品の使用促進に関する会議） 委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬学教育推進部門	職名 講師	氏名 水落 茂樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年～2021年	オンライン教材への対応 (コンピュータ入門(授業評価の実施)、薬学入門、基礎科目TBL、総合科学演習)
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年～2021年	オンライン教材の作成(コンピュータ入門、総合科学演習)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年～2021年	東邦大学生生活協同組合理事		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬学総合実験部門	職名 講師	氏名 黒田 潤
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2018年4月～	物理、化学現象等の理解を深めるために学生に印象が残るような工夫をし、実践する努力をしている。 例1：吸収とは、吸収と蛍光の違い等は、プリズムを用いた、指示薬の色の変化を捉える。 フルオレセイン等を用いて蛍光と吸収の違いを観察する等。 例2：溶けるとは、フェノール：水に酸とアルカリ、色の変化に指示薬を交えた観察実験の追加。 視野を広げる、関連した分野に繋げる工夫も心掛けている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年4月～	a) 小中高生向けの薬学独自の教材の作成 1) 坐薬を作って、薬の一生をイメージしてみよう。 2) くすりのからくりを考えてみよう、等 b) 実習教材の作成 物理化学、分析、薬剤等
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年4月～ 2021年2月～	船橋学校薬剤師会で “簡単な除菌剤の作成法” の説明 船橋学校薬剤師会： コロナ対策のレポートを提出 ”安心・安全に活動できる環境作り” 除菌対策の取り組み
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年4月～	薬学実験口座を実施 東邦付属中高 薬学教室（夏休み口座） 東京都江戸川区子供未来館共催
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）
（著書） 筆頭者 なし			発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） 筆頭者 なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2011年4月～		千葉県船橋市学校薬剤師	
2016年4月～		東邦付属中高等学校薬剤師	

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬学部薬物治療学	職名 講師	氏名 永澤 悦伸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年～現在 2017年～現在	独自に講義資料を作成して学生に配布している 授業評価アンケートを実施し、結果に基づき講義方法、講義資料の改善を行っている
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年～現在 2017年～現在	病態検査学実習・薬物治療学演習 実習書 薬物治療学VI講義資料、症候学講義資料、薬学演習II講義資料、病態検査学実習実習資料
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年1月	平成30年度東邦大学教育改革推進G P補助金事業の成果報告 『薬物療法における実践的能力の育成のためのsimulation-based education(SBE)を活用した実務実習前の参加体験型実習の構築』
4 その他教育活動上特記すべき事項		2020年1月1日 2017年～現在	薬理学エデュケーター（日本薬理学会）認定取得 薬学部FD講演会に毎年出席
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) Chap.38: CAVI during bleeding; Part 7: The role of arterial stiffness in vascular function -From animal study-. Cardio-Ankle Vascular Index -Overview & Clinical Application-	共著	2021年10月	株式会社コンパス
(著書) 動脈弾性能の血圧調節機構への関与. CAVIから眺める血管機能学	共著	2019年5月	株式会社コンパス
(論文) Sensitivity of inhalation anesthetics isoflurane and sevoflurane for the drug-induced QT-interval prolongation in guinea pigs.	共著	2020年1月	Journal of Pharmacological Sciences (第143巻第1号)
(論文) Electropharmacological profile of an atrial-selective sodium channel blocker acehytisine assessed in the isoflurane-anesthetized guinea-pig model.	共著	2019年11月	Journal of Pharmacological Sciences (第141巻第4号)
(論文) Acehytisine suppresses atrial fibrillation in rats with dilated atria caused by chronic volume overload.	共著	2019年11月	Journal of Pharmacological Sciences (第142巻第1号)

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）アルドステロンは心房細動の持続性を増大させる ー慢性容量負荷モデルラットを用いた検討ー	2022年3月	第95回日本薬理学会年会
（演題名）大動脈領域の血管弾性調節機構の解明 -in vivoウサギモデルでの検討	2022年3月	第95回日本薬理学会年会
（演題名）薬物性QT延長症候群の発生機構に対するL型Ca <sup>2+</sup> チャネルの意義 ー急性房室ブロックウサギを用いた検討ー	2022年3月	第95回日本薬理学会年会
（演題名）血管拡張剤、収縮剤投与時の心・血管クロストーク	2021年10月	第3回臨床血管健康Web研究会
（演題名）心房におけるトリガー発生は慢性的なaldosterone負荷と容量負荷の共存により増強する	2021年10月	第145回日本薬理学会関東部会
（演題名）摘出心臓組織標本およびウサギin vivoモデルを用いた薬物誘発性torsade de pointes不整脈の検出法	2021年9月	第22回応用薬理シンポジウム
（演題名）止瀉薬loperamideによる心室再分極遅延作用に $\mu$ 受容体は関与しない	2021年9月	第65回日本薬学会関東支部大会
（演題名）高血圧発症早期における心房の電気生理学的特性 ～L-NAME誘発高血圧ラットを用いた検討～	2021年9月	第65回日本薬学会関東支部大会
（演題名）MEK阻害薬selumetinibが心房細動の持続性に与える影響 ～新規心房細動モデルラットを用いた検討～	2021年9月	第65回日本薬学会関東支部大会
（演題名）抗精神病薬fluphenazineによる心室再分極遅延作用の評価 ～Isoflurane麻酔モルモットを用いた検討～	2021年9月	第65回日本薬学会関東支部大会
（演題名）心室再分極異常を伴う有害事象が報告された12種の抗ヒスタミン薬の非臨床in vivo研究を通じたQT延長リスクの検証	2021年9月	第65回日本薬学会関東支部大会
（演題名）肺高血圧症の発症初期における心房細動持続性に関する検討 ～モノクロタリン肺高血圧症モデルラットを用いて～	2021年9月	第65回日本薬学会関東支部大会
（演題名）循環血液量変化が大動脈と大腿動脈の血管弾性と末梢循環動態に与える影響 ーstiffness parameter $\beta$ 法を用いた検討ー	2021年6月	第144回日本薬理学会関東部会
（演題名）HCNチャネル阻害薬ivabradineの催不整脈作用 ー急性房室ブロックウサギを用いた評価ー	2021年6月	第144回日本薬理学会関東部会
（演題名）出血性ショック白色家兎における、眼血流と全身臓器血流の関係性	2021年4月	第125回日本眼科学会総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2009年4月～現在に至る	日本薬理学会学術評議委員	

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 微生物学教室	職名 講師	氏名 福本 敦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年11月 2019年4月～	微生物学実習において、デモンストレーションを行っていた手技の一部をビデオ撮影しスクリーンに投影した。 コンピュータ入門の授業において、授業回ごとに理解度のアンケートをオンラインで行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2017年4月～ 2020年	コンピュータ入門におけるオンライン教材の作成 薬学演習1におけるオンライン教材の作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2020年1月 2017年～2021年 2017年～2020年	関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにタスクフォースとして参加(帝京大学) 高校での模擬講義(各年1～2回) 学共用試験センター派遣 GBTモニター員	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Engineering sequence and selectivity of late-stage C-H oxidation in the MycG iterative cytochrome P450	共著	2021年9月	J IndustMicrobiol Biotech(pp. kuab069)
(論文) Actinocatenispora comari sp. nov., an endophytic actinomycete isolated from aerial parts of Comarum salesowianum	共著	2021年7月	Int J System Evolut Microbiol (71(7))
(論文) Artificial control of the multistep oxidation reactions catalyzed by the cytochrome P450 enzyme RosC	共著	2020年2月	Appl Microbiol Biotech(104(8))
(論文) Quorum sensing inhibitors against Chromobacterium violaceum CVO26 derived from an actinomycete metabolite library	共著	2020年1月	Biologic Pharm Bull(43(1))
(論文) Cytochrome P450 enzyme RosC catalyzes a multistep oxidation reaction to form the non-active compound 20-carboxyrosamicin	共著	2017年7月	FEMS Microbiol Lett(364(12))
(論文) Naphthacemycins, novel circumventors of $\beta$ -lactam resistance in MRSA, produced by Streptomyces sp. KB-3346-5. I. The taxonomy of the producing strain, and the fermentation, isolation and antibacterial activities	共著	2017年5月	J Antibiot (70(5))
(論文) Naphthacemycins, novel circumventors of $\beta$ -lactam resistance in MRSA, produced by Streptomyces sp. KB-3346-5. II. Structure elucidation	共著	2017年5月	J Antibiot (70(5))

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ソボク <i>Caesalpinia sappan</i> に含まれるクオラムセンシング阻害物質	2022年3月	日本薬学会第142年会
土壌由来希少放線菌からのクオラムセンシング阻害物質の単離	2022年3月	日本薬学会第142年会
シトクロムP450酵素MycGの反応制御に基づく希少な生合成中間体の効率的な生産	2021年9月	第33回微生物シンポジウム
Microbial screening using actinomycetes isolated in Mongolia and academic exchange with National University of Mongolia	2021年9月	“MONGOLIAN SPECIFIC BIORESOURCES EXPLORING” International Symposium on Access to Mongolian Bioresources
放線菌が生産するアゾキシアルケン化合物の生合成メカニズムの解析	2021年9月	2021年度日本放線菌学会大会
分光学的手法による多段階酸化型シトクロムP450酵素RosCの機能解析	2021年9月	2021年度日本放線菌学会大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2019年4月～現在	国立研究開発法人物質・材料研究機構 遺伝子組換え実験安全委員会委員	
2019年4月～現在	国立研究開発法人物質・材料研究機構 微生物実験安全委員会委員	
2014年7月～現在	漢方薬・生薬認定薬剤師	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬学教育推進部門	職名 講師	氏名 木村 美紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		毎年実施	担当科目の授業評価アンケートを実施した。 図を書いて視覚的に理解を促す工夫をした。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年実施	講義用資料として、書き込み式まとめプリント を独自に作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2017年9月	生薬学・天然物化学教科担当教員会議にて、 「最近の薬学部教育の現状と問題点」をテーマ に講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年3月	令和2年度東邦大学教育賞を受賞。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 皇帝の漢方薬図鑑	単著	2017年6月	じほう
(著書) 王子様のくすり図鑑	単著	2017年1月	じほう
(著書) 王様のくすり図鑑	単著	2016年1月	じほう
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年10月	「薬と健康の週間」（主催：厚生労働省、都道府県、日本薬剤師会及び 都道府県薬剤師会）のポスター及びパンフレットに著書起用		
2019年7月・2017年8月	東邦大学夏休み薬学教室「植物の成長と化学物質」		
2018年8月・2017年8月	駒場東邦中学校への模擬講義「薬学への招待」		
2019年10月	東洋女子高等学校への出張授業「薬学への招待」		
2017年6月	埼玉県越谷市市民講座にて講演「くすりと健康」		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬物学教室	職名 講師	氏名 濱口 正悟
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年4月から	授業評価アンケートを実施。 学生自身で理解度を確認できるように確認問題や過去の試験問題を配布している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年4月から	複数の教科書から要点をまとめた講義資料およびスライドを作成し、講義に用いている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Contribution of ATP-Mediated Positive Feedback to Sympathetic Nerve-Induced Positive Inotropy in Guinea Pig Ventricular Myocardium	共著	2021年3月	Biological & pharmaceutical bulletin vol.44(3) 458-460
(論文) Differential effects of class I antiarrhythmic drugs on the guinea pig pulmonary vein myocardium: Inhibition of automatic activity correlates with blockade of a diastolic sodium current component	共著	2020年8月	Journal of pharmacological sciences vol.143(4) 325-329
(論文) Angiotensin II Induces Automatic Activity of the Isolated Guinea Pig Pulmonary Vein Myocardium through Activation of the IP <sub>3</sub> Receptor and the Na <sup>+</sup> -Ca <sup>2+</sup> Exchanger	共著	2019年4月	International journal of molecular sciences vol.20(7)
(論文) Acceleratory effect of ellagic acid on sarcoplasmic reticulum Ca <sup>2+</sup> uptake and myocardial relaxation	共著	2018年1月	International Journal of Human Culture Studies vol.28 701-707
(論文) Permissive role of reduced inwardly-rectifying potassium current density in the automaticity of the guinea pig pulmonary vein myocardium	共著	2017年4月	Journal of pharmacological sciences vol.133(4) 195-202
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
自発的Ca <sup>2+</sup> transientの発生におけるNa <sup>+</sup> /Ca <sup>2+</sup> exchangerの役割—モルモット洞房結節細胞での検討—		2021年9月	第30回 日本バイオイメーキング学会 学術集会
ATX-IIはNa <sup>+</sup> /Ca <sup>2+</sup> 交換機構の逆方向回転モードの活性化を介して肺静脈心筋細胞の細胞内Na <sup>+</sup> 及びCa <sup>2+</sup> 濃度を上昇させる		2021年9月	第30回 日本バイオイメーキング学会 学術集会
心筋弛緩の薬理学的研究: 弛緩を促進する天然由来化合物の探索		2021年9月	第22回 応用薬理シンポジウム
肺静脈心筋に対するI群抗不整脈薬の作用: 緩徐脱分極相抑制とlate INa遮断の関係		2021年8月	次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2021
Streptozotocin誘発糖尿病マウス心筋の弛緩機能に対するQuercetinの作用		2021年6月	第144回 日本薬理学会関東部会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2020年1月～現在	日本薬理学会 薬理学エディター
2017年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東邦大学	薬理学教室	講師	氏名 小原 圭将
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			授業評価アンケートを年1回位実施している。薬理学Ⅲでは、2020年度から学生の理解度を確認するため、授業後にオンライン上での小テストを実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書			薬理学Ⅲ、Ⅵ：毎年、講義資料及び問題集を改変したものを作成している。2020年度からはオンライン講義用の動画を作成し、公開している。 薬学演習Ⅱ：2020年度よりオリジナルCBT対策問題集を作成し、それを用いた演習を行っている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			薬学部主催のFDIに毎年参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Prostanoid TP receptor stimulation enhances contractile activities in guinea pig urinary bladder smooth muscle through activation of Ca <sup>2+</sup> entry channels: Potential targets in the treatment of urinary bladder contractile dysfunction	共著	2021年12月	Life Sciences vol.287
(論文) Docosahexaenoic acid inhibits U46619- and prostaglandin F <sub>2α</sub> -induced pig coronary and basilar artery contractions by inhibiting prostanoid TP receptors	共著	2021年10月	European journal of pharmacology vol.908
(論文) Docosahexaenoic acid and eicosapentaenoic acid inhibit the contractile responses of the guinea pig lower gastrointestinal tract	共著	2021年8月	Biological and pharmaceutical bulletin vol.44 No.8
(論文) Normetadrenaline and metadrenaline induce rat thoracic aorta/prostate contraction via α <sub>1D/1A</sub> -adrenoceptor stimulation	共著	2020年6月	European journal of pharmacology vol.877
(論文) Pharmacological properties of β-adrenoceptors mediating rat superior mesenteric artery relaxation and the effects of chemical sympathetic denervation	共著	2020年1月	Life Sciences vol.241
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
NP-1815-PX (P2X4受容体拮抗薬) のモルモット気管・気管支平滑筋の収縮反応に対する影響の評価		2021年3月	第95回日本薬理学会年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2021年10月～現在	a review editor for <i>Frontiers in Pharmacology</i>
	日本薬学会会員
	日本薬理学会会員
	日本平滑筋学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 分子生物学教室	職名 講師	氏名 津山 崇
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2018年～現在	基礎的な知識だけでなく、他の教科や臨床との関連性などについても説明することで、生命現象を暗記ではなく理解できるように努めている。また、視覚的に理解できるようにイラストを多用した講義資料を作成している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年～現在	・基礎生物学の講義資料 ・基礎生物学実習の講義資料 ・学生の自習用問題集
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年9月 22日、23日	2019年度第8回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Mutant analysis of Cdt1's function in suppressing nascent strand elongation during DNA replication in <i>Xenopus</i> egg extracts	共著	2017年9月	Biochemical and Biophysical Research Communications, 490
がんの分子標的治療に対する耐性化の新たなメカニズム	単著	2021年1月	ファルマシア 57巻
N-terminal region of RecQ4 inhibits non-homologous end joining and chromatin association of the Ku heterodimer in <i>Xenopus</i> egg extracts	共著	2021年6月	Gene, 787
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
RecQ4のN末側領域はDNA二本鎖切断に対する非同末端結合修復を阻害する		2022年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
	なし		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 衛生化学教室	職名 講師	氏名 藤江 智也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2018年4月～現在	「環境I」では、講義資料の作成・配布および毎回の講義に小テストを実施して、学生の理解を助けるよう努めた。「衛生薬学実習」では、学生の理解と感染症対策の両立を図り、Web会議サービスの画面共有機能を利用した実習前講義の実施および実習器具・試薬の充実を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Induction of ZIP8, a ZIP transporter, via NF- $\kappa$ B signaling by the activation of I $\kappa$ B $\alpha$ and JNK signaling in cultured vascular endothelial cells exposed to cadmium	共著	2022年1月	Toxicology Applied Pharmacology, <b>434</b> , 115802.
Synthesis of reactive sulfur species in cultured vascular endothelial cells after exposure to TGF- $\beta$ 1: induction of cystathionine $\gamma$ -lyase and cystathionine $\beta$ -synthase expression mediated by the ALK5-Smad2/3/4 and ALK5-Smad2/3-ATF4 pathways.	共著	2021年10月	International Journal of Molecular Sciences, <b>22</b> (21), 11762.
Induction of metallothionein isoforms in cultured bovine aortic endothelial cells exposed to cadmium.	共著	2020年12月	The Journal of Toxicological Sciences, <b>45</b> (12), 801-806.
Transcriptional induction of cystathionine $\gamma$ -lyase, a reactive sulfur-producing enzyme, by copper diethyldithiocarbamate in cultured vascular endothelial cells.	共著	2020年8月	International Journal of Molecular Sciences, <b>21</b> (17), 6053
Possible mechanisms underlying transcriptional induction of metallothionein isoforms by tris(pentafluorophenyl)stibane, tris(pentafluorophenyl)arsane, and tris(pentafluorophenyl)phosphane in cultured bovine aortic endothelial cells.	共著	2019年2月	The Journal of Toxicological Sciences, <b>44</b> (5), 327-333

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ターピリジン亜鉛錯体による内皮細胞の線溶活性の促進	2021年10月	メタルバイオサイエンス研究会2021
カドミウムの内皮細胞毒性は転写因子NF- $\kappa$ Bの活性化が介在する金属輸送体ZIP8の誘導によって増強される	2021年10月	メタルバイオサイエンス研究会2021
メチル水銀はEGFR-p38 MAPK-PKA経路の活性化を介して血管内皮細胞ZIP8の発現を誘導する	2021年10月	メタルバイオサイエンス研究会2021
亜ヒ酸による血管内皮細胞のメタロチオネインアイソフォーム（MT1およびMT2）の誘導とその機構	2021年10月	メタルバイオサイエンス研究会2021
鉛はPERK-ATF4経路の活性化によって血管内皮細胞の活性イオウ分子産生を促進させる	2021年10月	メタルバイオサイエンス研究会2021
バイオオルガノメタリクス研究戦略の血管毒性学研究への応用	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
血管内皮細胞のピグリカン発現にCREBが及ぼす影響	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
FGF-2およびTGF- $\beta$ <sub>1</sub> による血管内皮細胞のグリコサミノグリカン糖鎖修飾酵素の発現調節	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
TGF- $\beta$ <sub>1</sub> -ALK5-Smad2/3/4-ATF4経路を介した活性イオウ分子の増加はTGF- $\beta$ <sub>1</sub> の血管内皮細胞増殖抑制作用をmodulateする	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
ジチオカルバメート銅錯体Cu10による血管内皮細胞のメタロチオネインアイソフォームの誘導	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
ターピリジン亜鉛錯体による内皮細胞の線溶活性促進とeNOSの関与	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
内皮細胞の線溶活性におけるフェナントロリンおよびその亜鉛、ロジウム錯体の構造活性相関	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
亜ヒ酸による血管内皮細胞のメタロチオネインアイソフォームの誘導とその機構	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
血管内皮細胞においてカドミウムはI $\kappa$ B $\alpha$ およびJNKシグナルの活性化による転写因子NF- $\kappa$ Bの安定化、蓄積、活性化を介して金属輸送体ZIP8を誘導する	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
TGF- $\beta$ <sub>1</sub> は酸化ストレスによる内皮細胞毒性を増強させる	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
Claudin-5はカドミウムによる血管内皮細胞の脱離を抑制する	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
血管内皮細胞におけるカドミウムおよびヒ素の相互作用	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
カドミウムによる血管内皮細胞のインテグリン発現の抑制	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
血管内皮細胞におけるMT-3の発現およびカドミウム毒性に対する役割	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
血管内皮細胞におけるメチル水銀による金属輸送体ZIP8の発現誘導とその分子メカニズム	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
EGFR/ERK/COX-2/PGI <sub>2</sub> 経路を介した鉛による血管内皮細胞のバールカン発現抑制	2021年9月	フォーラム2021：衛生薬学・環境トキシコロジー
血管内皮細胞におけるカドミウム毒性に対するメタロチオネインの役割	2021年7月	第48回日本毒性学会学術年会
FGF-2の血管内皮細胞増殖への活性イオウ分子の関与	2021年7月	第48回日本毒性学会学術年会
血管内皮細胞においてメチル水銀はEGFR-p38 MAPK-PKA経路を活性化して金属輸送体ZIP8の発現を誘導する	2021年7月	第48回日本毒性学会学術年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2019年6月～現在	日本毒性学会 評議員	
2018年7月～現在	日本毒性学会 生体金属部会 幹事	

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬物動態学教室	職名 講師	氏名 佐々木将太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年度～ 現在	履修学生が授業により関心を示し、理解を深めることができるように、板書とレジュメを併用して講義を行っている。講義毎に授業内容に関する学生からのコメントと理解度を精察し、次回以降の講義方法の改良に努めている。また、講義動画、問題解説動画、質問回答動画をMoodle上に掲示し、学生の復習を促している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年度～ 現在	薬剤系実習（薬物動態学）における実習書および講義時に使用する資料（紙媒体および動画）の作成・改良。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017年度～ 現在	薬学部で毎年開催されるFDに参加し、教育・研究の向上に努めている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Protonation State of a Histidine Residue in Human Oligopeptide Transporter 1 (hPEPT1) Regulates hPEPT1-Mediated Efflux Activity	共著	2021年5月	Biol Pharm Bull. 2021;44(5):678-685.
Transport of 2,4-dichloro phenoxyacetic acid by human Na <sup>+</sup> -coupled monocarboxylate transporter 1 (hSMCT1, SLC5A8)	共著	2019年2月	Drug Metab Pharmacokinet. 2019 Feb;34(1):95-103.
The Phenomenon of Albumin-Mediated Hepatic Uptake of Organic Anion Transport Polypeptide Substrates: Prediction of the In Vivo Uptake Clearance from the In Vitro Uptake by Isolated Hepatocytes Using a Facilitated-Dissociation Model	共著	2018年3月	Drug Metab Dispos. 2018 Mar;46(3):259-267.
Involvement of monocarboxylate transporter 1 (SLC16A1) in the uptake of l-lactate in human astrocytes	共著	2018年1月	Life Sci. 2018 Jan 1;192:110-114.
The flexible cytoplasmic loop 3 contributes to the substrate affinity of human monocarboxylate transporters	共著	2017年5月	Biochim Biophys Acta Biomembr. 2017 Oct;1859(10):1790-1795.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
オリゴペプチド輸送担体PEPT1のH <sup>+</sup> チャネル様機能変換に関わる構造的特徴		2021年10月	第42回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム
Na <sup>+</sup> /モノカルボン酸共輸送担体を介したアミノ酸輸送能		2021年10月	第42回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2020年度～現在	トランスポーター研究会 世話人
2020年度	第5回トランスポーター研究会関東部会 組織委員
2019年度	第41回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム 事務局長
2018年度～2020年度	トランスポーター研究会 幹事

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名 薬剤学教室	職名 講師	氏名 鈴木 浩典
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		毎年実施	製剤学III (3年秋) および初等物理学演習 (1年通年)。講義科目の授業アンケートの実施。事前に穴埋め形式にした資料を配布し、講義では記入事項を最小限に抑えた上で、内容の理解に集中できるようにしている。演習問題では、基礎的な内容の確認をするとともに、一問一答式のようにには回答できない、複数の事項を盛り込んだ問題を提示するようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		令和元年9月 (初版) 令和3年9月 (第2版)	製剤学・物理薬剤学通論を分担執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Reduced delinquency of isosorbide by cocrystallization and mechanisms for hygroscopicity.	共著	2021年8月	Int. J. Pharm. <b>607</b> , Article No. 120959
X-ray absorption near-edge spectroscopy analysis of indomethacin in crystalline forms and in amorphous solid dispersions.	共著	2021年8月	Mol. Pharm., <b>18</b> , 3475–3438.
Chlorine K-edge X-ray absorption near-edge structure discrimination of crystalline solvates and salts in organic molecules.	共著	2020年7月	Cryst. Growth Des., <b>20</b> , 4892–4897.
Chlorine K-edge X-ray absorption near-edge structure analysis of clarithromycin hydrochloride metastable crystal.	共著	2020年3月	J. Pharm. Sci., <b>109</b> , 2095–2099.
Desolvation behavior of indinavir sulfate ethanol and follow-up by terahertz spectroscopy.	共著	2019年6月	Int. J. Pharm. <b>567</b> , Article No. 118446
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2007年4月～	日本薬学会会員
2007年4月～	日本生化学会会員
2018年4月～	日本薬剤学会会員
2018年4月～	製剤機械技術学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 公衆衛生学教室	職名 講師	氏名 竹元 裕明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2018年～2021年	授業評価アンケートを実施して教育内容の改善を毎年行っている。Moodleを活用した双方向型授業を取り入れている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Effects of Sesame Oil Aroma on Mice after Exposure to Water Immersion Stress: Analysis of Behavior and Gene Expression in the Brain	共著	2020年12月	Molecules (25)
Neuroinflammaging underlies emotional disturbances and circadian rhythm disruption in young male senescence-accelerated mouse prone 8 mice	共著	2020年12月	Exp Gerontol (142)
Emotional Impairments and Neuroinflammation are Induced in Male Mice Invulnerable to Repeated Social Defeat Stress	共著	2020年9月	Neuroscience (443)
Comprehensive evaluation of antioxidant effects of Japanese Kampo medicines led to identification of Tsudosan formulation as a potent antioxidant agent	共著	2019年1月	J Nat Med (73)
Ephedrine Alkaloids-Free Ephedra Herb Extract, EFE, Has No Adverse Effects Such as Excitation, Insomnia, and Arrhythmias	共著	2018年2月	Biol Pharm Bull (41)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～2021年3月		和漢医薬学会評議員	

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬品分析学教室	職名 講師	氏名 小野里磨優
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			授業評価アンケートを実施（初等化学演習）。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2018/4/29, 30	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに出席 学部主催のFDIに出席
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Column-switching high-performance liquid chromatography-fluorescence detection method for malic acid enantiomers in commercial wines	共著	2021年11月	J Food Compost Anal. <b>106</b> : 104282, 2022.
(論文) LC-MS/MS analysis of thiol-containing amino acids in exosomal fraction of serum.	共著	2020年6月	J Chromatogr Sci. <b>58</b> : 636-640, 2020.
(論文) Serum D- and L-lactate, pyruvate, and glucose levels in individuals with at-risk mental state and correlations with clinical symptoms.	共著	2019年7月	Early Interv Psychiatry. <b>14</b> : 410-417, 2020.
(論文) Amino acid analyses of the exosome-eluted fractions from human serum by HPLC with fluorescence detection.	共著	2018年4月	Prac Lab Med. <b>12</b> : e00099, 2018.
(論文) Alteration in plasma and striatal level of D-serine after D-serine administration with or without nicergoline: An <i>in vivo</i> microdialysis study.	共著	2017年8月	Heliyon. <b>9</b> : e00399, 2017.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
イワムシ糞中の多環芳香族炭化水素の分布と起源		2021年9月	日本ベントス学会・日本プランクトン学会 合同大会
カラムスイッチングHPLCを用いたワイン中のD-およびL-リンゴ酸の定量		2022年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年4月～現在	日本薬学会会員		
2014年4月～現在	日本神経精神薬理学会		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 英語教室	職名 講師	氏名 メサクリンガー ジョセフ
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	平成21年～現在	このクラスは、学生が学術目的で英語を使用する能力を向上させることを目的としています。学術スキルは学生に説明されて、実演します、そして学生は実践する。学生は、薬学に関連する本格的なジャーナル記事を読み、内容をアウトライン形式で整理する練習をします。また、主題に関連した語彙を学び、事実と意見を特定する練習をします。読むことに加えて、学生は基本的なライティングスキル、主に段落を整理する方法を練習します。このコースはリスニングとスピーキングに重点を置いていませんが、学生はプレゼンテーションを行ったり、関連するニュースレポートを聞いたりする機会もあります。	
2 作成した教科書、教材、参考書		オープンソースの雑誌記事から講師が作成した教材  教材の配布や宿題の回収は、学習管理システム「Moodle」を使って行われます。小テストや、フォーラム、ワークショップなどの活動もMoodleを使って行われます。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Flattening the Curve: How Teaching Remotely Has Affected Grades	単著	43831	東邦大学教養紀要(52)
Can Performance on a Mother-tongue Cloze Exercise Predict Performance on Second Language Cloze Tests?	単著	43466	東邦大学教養紀要(51)
Naming the Fourth Primary Color	単著	43101	東邦大学教養紀要(50)
A Review of High School English Curriculum, Materials and Methods from a Language Testing Perspective	単著	42370	東邦大学教養紀要(48)
Set Theory for Language Learners	単著	41640	東邦大学教養紀要(46)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Listenability		39022	World Englishes Conference in Nagoya
Some Ideas for Language Testing		37469	Gunma JALT

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
なし	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 衛生化学教室	職名 講師	氏名 原 崇人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年5月	衛生薬学実習 内容を変更することで項目が削減されることなく、学生の密集を防いだ実習を実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Effects of substitution on cytotoxicity of diphenyl ditelluride in cultured vascular endothelial cells	共著	2021年9月	Int. J. Mol. Sci., 22, 10520, 2021.
(論文) Cadmium induces plasminogen activator inhibitor-1 via Smad2/3 signaling pathway in human endothelial EA.hy926 cells	共著	2021年5月	J. Toxicol. Sci., 46, 249-253, 2021.
(論文) Syndecan-1 downregulates syndecan-4 expression by suppressing the ERK1/2 and p38 MAPK signaling pathways in cultured vascular endothelial cells	共著	2021年4月	Biochem. Biophys. Rep., 26, 101001, 2021.
(論文) Cell density-dependent accumulation of low polarity gold nanocluster in cultured vascular endothelial cells	共著	2020年12月	J. Toxicol. Sci., 45, 795-800, 2020.
(論文) Cell density-dependent fibroblast growth factor-2 signaling regulates syndecan-4 expression in cultured vascular endothelial cells	共著	2020年8月	Int. J. Mol. Sci., 21, 3698, 2020.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
これまでのお礼とこれからの想い		2022年3月	日本薬学会第142年会, 理事会企画シンポジウム
血管内皮細胞のバルカン発現は鉛によってEGFR/ERK/COX-2/PGI2経路を介して抑制される		2021年10月	メタルバイオサイエンス研究会2021, 口頭発表
生体機能解析に向けた有機-無機ハイブリッド分子の毒性学		2021年9月	フォーラム2021 衛生薬学・環境トキシコロジー, 一般シンポジウム
有機-無機ハイブリッド分子の細胞毒性とその特異性		2021年9月	第7回 東京環境健康薬学研究会, 特別講演
CHSY1によるカドミウムの内皮細胞毒性の修飾		2021年7月	第48回日本毒性学会学術年会, ポスター発表

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2021年10月～現在	日本毒性学会生体金属部会幹事
2021年7月～現在	日本毒性学会評議員
2013年10月～現在	日本薬学会会員
2012年5月～現在	日本毒性学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬物動態学教室	職名 助教	氏名 清水 真紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
実習：薬物動態学実習		1996年～現在	3年生に対して実施、速度論解析を担当
実習：放射薬品学実習		2006年～現在	3年生選択科目として実施、軟β線、LSC
演習：プレゼンテーション		2021年度	2年生に対して実施、SGDチューターとして
2 作成した教科書、教材、参考書			
「薬物動態学実習」実習書		2016年～現在	3年生学生実習用の実習書
「放射薬品学実習」実習書		2006年～現在	同上
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
学校薬剤師による思春期指導		2021年2月	千葉県船橋市立三山中学校女子生徒に対する指導
思春期における女子指導		2020年2月	同上
思春期における女子指導		2019年2月	同上
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 学校薬剤師による保健教育—学校薬剤師活動の考察と中学生女子指導報告—	共著	2021年2月	東邦大学教養紀要, 2020, 52, 17-32
(論文) 学校薬剤師による女子中学生とその保護者を対象にした思春期における女子指導	共著	2022年2月	東邦大学教養紀要, 2021, 53, in press
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 学校薬剤師による女子中学生とその保護者を対象にした思春期指導		2022年3月	日本薬学会第142年会
(演題名) 東邦大学薬学部教員による学校薬剤師としての活動報告		2022年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1996年度～現在	日本薬学会会員		
1996年度～現在	日本薬物動態学会会員		
2017年度～現在	千葉県船橋市立三山中学校学校薬剤師(委嘱)		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 生化学教室	職名 助教	氏名 大寺 恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年以降	生化学実習では、「主体的に学習に取り組む態度」を育成するためにグループ実験から可能な範囲で個別実験とした。また、学習内容の深い理解を促すために、実験データの整理、解析について学生全員に「個別指導」を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年以降毎年	「生化学実習」実習書(全90頁)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年3月	日本薬学会第139年会にてシンポジウム「こんな薬剤師が欲しい! ~医師・看護師・薬剤師の立場と教育現場から~」のオーガナイザーを務めた
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017年以降毎年	東邦大学薬学部教育ワークショップ参加 学部内FD講演会参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Infantile Radiation and Aging Stresses: Effects of Calorie and Dietary Restrictions. Models, Molecules and Mechanisms in Biogerontology	共著	2019年	Springer
(論文) A Stable and Highly Sensitive Fluorescent Probe for Detection of Hypochlorite Ion In Vitro and in Living Cells	共著	2019年2月	Chemistry Letters 48 (2) : 110 -113
(論文) Synthesis, characterization, and supramolecular architectures of two distinct classes of probes for the visualization of endogenously generated hypochlorite ions in response to cellular activity.	共著	2019年9月	Journal of Photochemistry and Photobiology B: Biology 198 (2) : 111594.
(論文) 老化研究の多面的アプローチ	共著	2020年3月	YAKUGAKU ZASSHI 140 (3) : 379 -382
(論文) こんな薬剤師が欲しい! ~医師・看護師・薬剤師の立場と教育現場から~	共著	2020年3月	YAKUGAKU ZASSHI 140 (3) : 405 -406
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Intestinal distribution pattern of fatty acid binding proteins in SAMP8 and SAMR1		2021年6月	第44回日本基礎老化学会大会
(演題名) 老化促進モデルマウスSAMP8とSAMR1の脳におけるカルボニル化酸化タンパク質の組織化学的および生化学的解析		2021年9月	第36回 老化促進モデルマウス(SAM)学会学術大会
(演題名) シンポジウム「中高年齢からの食餌制限」		2021年11月	第94回日本生化学会大会
(演題名) ファゴサイトーシス過程で発生する次亜塩素酸イオンの新規蛍光プローブを用いた可視化		2022年3月	日本薬学会 第142年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2019年3月	日本薬学会第139年会シンポジウムオーガナイザー
2021年11月	第94回日本生化学会大会シンポジウムオーガナイザー

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬品製造学	職名 助教	氏名 吉川 晶子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2020/05/20~	化学実習用のオンライン動画を撮影・編集・作成
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Size and shape manipulation of channel structures assembled via saddle stacking of tetrapodal adamantanes containing aryl butadiynyl moieties.	共著	2021年12月	ChemistrySelect, 6, 13336-13341, 2021.
(論文) Relationship between crystal shape and unit cell shape: crystal shape modification via co-crystallization toward SXRDSuitable crystals.	共著	2021年10月	CrystEngComm, 23, 7760-7770, 2021.
(論文) High Proportion of Chiral Crystallization of Achiral Indolyl Sulfonamides: Effect of Intermolecular Interactions	共著	2021年7月	Crystal Growth & Design, 21(8), 4380-4389, 2021.
(論文) Effect of Halogen Bonding on Chiral Assemblies of Achiral Sulfonamide Molecules in the Crystalline Phase	共著	2020年12月	Crystal Growth & Design, 21(2), 1148-1158, 2021.
(論文) Characteristic Hydrogen Bonding Observed in the Crystals of Aromatic Sulfonamides: 1D Chain Assembly of Molecules and Chiral Discrimination on Crystallization.	共著	2019年4月	Crystal Growth & Design, 19(5), 2936-2946, 2019.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2011年～現在	日本薬学会会員
2012年～現在	日本化学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬剤学教室	職名 助教	氏名 伊藤 雅隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年6月21日	「初等化学演習」学生による授業評価（アンケート）を実施し、講義内容に改善に利用した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年9月5日 2019年9月8日	製剤学教科書「製剤学物理薬剤学通論 第2版（京都廣川書店）」を出版。一部著者を担当。 製剤学教科書「製剤学物理薬剤学通論（京都廣川書店）」を出版。一部著者を担当。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年10月13日 2021年8月26日	FD講演会「薬学教育の中で、広い視野を持った学生をどのように育成するのか」参加 FD講演会「学修者本位の授業設計ーシラバスを活用してー」参加 その他 4件
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) "Reduced deliquescency of isosorbide by cocrystallization and mechanisms for hygroscopicity".	共著	2021年9月	Elsevier社, International Journal of Pharmaceutics 607.
(論文) "Chlorine K-edge X-ray absorption near-edge structure discrimination of crystalline solvates and salts in organic molecules".	共著	2020年8月	ACS Publications, Crystal Growth & Design 20.
(論文) "Desolvation behavior of indinavir sulfate ethanol and follow-up by terahertz spectroscopy".	共著	2020年8月	Elsevier社, International Journal of Pharmaceutics 567.
(論文) "Phase transitions of antibiotic clarithromycin forms I, IV and new form VII crystals"	共著	2018年8月	Elsevier社, International Journal of Pharmaceutics 547.
(論文) "Mechanisms for improved hygroscopicity of L-arginine valproate revealed by X-ray single crystal structure analysis".	共著	2017年3月	Wiley社, Journal of pharmaceutical sciences 108.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
「カルメロースを用いた医薬品原薬の苦味マスキング」		2021年5月	日本薬剤学会
「スルファメトキサゾールの新規塩の構造解析及び溶解性測定」		2021年5月	日本薬剤学会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2016年11月～現在	製剤機械技術学会 固形製剤分科会委員
2017年4月～現在	製剤機械技術学会 固形製剤教育研修会にて毎年講師（熱分析）を担当
2021年4月～現在	製剤機械技術学会 ホームページ委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬物治療学	職名 教授	氏名 相本 恵美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年～現在 2017年～現在	独自にレジメを作成して学生に配布している 学生による授業評価アンケートの調査結果によるフィードバックを毎年受けており、講義方法の改善に役立っている
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年6月20日～ 2018年4月1日～ 2018年9月1日～	病態検査学講義資料（分担：第10-13回） 病態検査学実習書 薬物治療学演習実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017年～現在	薬学部FD講演会に毎年出席
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Torsadogenic potential of HCN channel blocker ivabradine assessed in the rabbit proarrhythmia model.	共著	2021年11月	Biological & Pharmaceutical Bulletin 第44巻 第11号
（論文）Electrophysiological Response to Acehytisine Was Modulated by Aldosterone in Rats with Aorto-Venocaval Shunts	共著	2021年8月	Biological & Pharmaceutical Bulletin 第44巻 第8号
（論文）Torsadogenic potential of a novel remyelinating drug clemastine for multiple sclerosis assessed in the rabbit proarrhythmia model	共著	2020年11月	Journal of Pharmacological Sciences 第144巻 第3号
（論文）Influence of chronic volume overload-induced atrial remodeling on electrophysiological responses to cholinergic receptor stimulation in the isolated rat atria	共著	2018年2月	Journal of Pharmacological Sciences 第136巻 第2号
（論文）The anaesthetized rabbit with acute atrioventricular block provides a new model for detecting drug-induced Torsade de Pointes.	共著	2017年8月	British Journal of Pharmacology 第174巻 第15号
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）アルドステロンは心房細動の持続性を増大させる 一慢性容量負荷モデルラットを用いた検討		2022年3月	第95回日本薬理学会年会
（演題名）心房におけるトリガー発生は慢性的なaldosterone負荷と容量負荷の共存により増強する		2021年10月	第145回日本薬理学会関東部会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年度～現在	日本薬理学会会員		
2016年度～現在	日本不整脈心電学会会員		
2016年度～現在	日本循環器学会会員		
2017年度～現在	日本薬学会会員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 微生物学教室	職名 助教	氏名 飯坂 洋平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年5月	「初等化学演習」において授業評価を実施し、学生からの意見を講義にできるだけ反映した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2018年11月3日、4日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Engineering sequence and selectivity of late-stage C-H oxidation in the MycG iterative cytochrome P450.	共著	In press	Journal of Industrial Microbiology and Biotechnology.
<i>Actinocatenispora comari</i> sp. nov., an endophytic actinomycete isolated from aerial parts of <i>Comarum salesowianum</i> .	共著	2021年7月	International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology. Vol. 71, No. 7
An overview of the cytochrome P450 enzymes that catalyze the same-site multistep oxidation reactions in biotechnologically relevant selected actinomycete strains.	共著	2021年4月	Applied Microbiology and Biotechnology. Vol. 105, No. 7
Artificial control of the multistep oxidation reactions catalyzed by the cytochrome P450 enzyme RosC.	共著	2020年4月	Applied Microbiology and Biotechnology. Vol. 104, No. 8
Quorum sensing inhibitors against <i>Chromobacterium violaceum</i> CVO26 derived from an actinomycete metabolite library.	共著	2020年1月	Biological and Pharmaceutical Bulletin. Vol. 43, No. 1
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
分光学的手法による多段階酸化型シトクロムP450酵素RosCの機能解析		2021年9月	日本放線菌学会
シトクロムP450酵素MycGの反応制御に基づく希少な生合成中間体の効率的な生産		2021年9月	微生物シンポジウム
多機能型シトクロムP450酵素MycGの多段階酸化反応に関与するアミノ酸残基の同定		2021年3月	日本薬学会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2011年～現在	日本放線菌学会会員
2013年～現在	日本薬学会会員
2020年～現在	日本放線菌学会学術企画委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 臨床薬学研究室	職名 助教	氏名 植草 秀介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		平成30年～	プレ実務実習(医療情報) 医療情報実習内での実習内容がつながるような症例の作成、および医療統計実習に用いるデータならびにExcelを用いた実習が可能となるファイルの作成
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Development of a Derivatization Reagent with a 2-Nitrophenylsulfonyl Moiety for UHPLC-HRMS/MS and Its Application to Detect Amino Acids Including Taurine	共著	2021年6月	Molecules, 26(12)
(論文) Risk factors for clozapine-induced central nervous system abnormalities in Japanese patients with treatment-resistant schizophrenia	共著	2021年6月	Asian J Psychiatr, 60
(論文) Fluorimetric determination of the enantiomers of vigabatrin, an antiepileptic drug, by reversed-phase HPLC with a novel diastereomer derivatization reagent	共著	2021年5月	Biomed Chromatogr, 35(5)
(論文) Increased inosine levels in drug-free individuals with at-risk mental state: A serum metabolomics study	共著	2021年3月	Early Interv Psychiatry, online ahead of print.
(論文) 精神科薬物療法の出口戦略の実践に使用する Decision Aid(治療選択の手引き)の薬剤師を対象としたニーズ調査	共著	2021年2月	日本精神薬学会誌, 4(2)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
平成30年6月～現在	日本精神薬学会編集委員
令和1年4月～現在	日本精神薬学会評議員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
東大学名 邦大学	講座名 公衆衛生学教室	職名 助教	氏名 山口 陽子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
実習におけるフローチャート作成の導入		2021年5~6月	実験手順をフローチャート化させ実験原理の理解を促した
新型コロナウイルスのPCR検査の概説		2021年5~6月	汎用される検査方法を照合することで実習内容（ゲノム抽出とPCR）の理解を促した
2 作成した教科書、教材、参考書			
がん治療認定医教育セミナーテキスト, 第11版, 第1部		2017年9月11日	がんの生物学・分子生物学について概説
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			
日本がん治療認定医機構教育委員会協力員		2017年1月~12月	テキスト、問題の執筆
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Age-related dysfunction of p53-regulated phagocytic activity in macrophages	共著	2020年8月	BBRC 529(2) 462-466
TAp63 represses transcription of MYCN/NCYM gene and its high levels of expression are associated with favorable outcome in neuroblastoma	共著	2019年10月	BBRC 518(2) 311-318
Changes in the function and phenotype of resident peritoneal macrophages after housing in an enriched environment	共著	2018年12月	Int Immunopharmacol. 65 44-49
PHLDA 1, another PHLDA family protein that inhibits Akt	共著	2018年11月	Cancer Science 109(11) 3532-3542
Pleckstrin homology-like domain family A, member 3 (PHLDA3) deficiency improves islets engraftment through the suppression of hypoxic damage	共著	2017年11月	PLoS One 12(11) e0187927-e0187927
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2021年9月～現在	Frontiers in Oncology の Review Editor
2021年9月～現在	Frontiers in Cell and Developmental Biology の Review Editor
2011年11月～現在	日本分子生物学会会員
2010年7月～現在	日本癌学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬理学教室	職名 助教	氏名 吉岡 健人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年3月 2021年4月	薬理学実習 (3年春学期) 講義資料 改変 薬理学実習 一部実験内容 改変
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年3月	薬理学実習 (3年春学期) 講義資料
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Docosahexaenoic acid inhibits U46619- and prostaglandin F <sub>2</sub> α-induced pig coronary and basilar artery contractions by inhibiting prostanoid TP receptors	共著	2021年10月	European Journal of Pharmacology (908:174371)
(論文) Prostanoid TP receptor stimulation enhances contractile activities in guinea pig urinary bladder smooth muscle through activation of Ca <sup>2+</sup> entry channels: Potential targets in the treatment of urinary bladder contractile dysfunction	共著	2021年8月	Life Sciences (287:120130)
(論文) Docosahexaenoic Acid and Eicosapentaenoic Acid Inhibit the Contractile Responses of the Guinea Pig Lower Gastrointestinal Tract	共著	2021年8月	Biological & Pharmaceutical Bulletin (8:44)
(論文) Normetadrenaline and metadrenaline induce rat thoracic aorta/prostate contraction via α <sub>1D/1A</sub> -adrenoceptor stimulation	共著	2020年6月	European Journal of Pharmacology (877:173079)
(論文) Pharmacological properties of β-adrenoceptors mediating rat superior mesenteric artery relaxation and the effects of chemical sympathetic denervation	共著	2020年1月	Life Sciences (241:117155)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ドコサヘキサエン酸 (DHA) はプロスタノイドTP受容体の抑制を介してU46619、プロスタグランジン (PG) F <sub>2</sub> αによるブタ冠動脈、脳底動脈の収縮を抑制する。		2021年6月	第144回日本薬理学会関東部会
(演題名) ブタ冠動脈および脳底動脈におけるTP受容体を介した収縮反応をドコサヘキサエン酸 (DHA) は強力に抑制する。		2022年3月	第95回日本薬理学会年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2011年11月	日本薬理学会会員
2019年	日本薬学会会員
2021年7月	Review Editor for Frontiers in Pharmacology

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東邦大学	講座名 薬品分析学教室	職名 助教	氏名 坂本 達弥
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年4月	分析化学実習
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月	分析化学実習 実習資料
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			無し
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年8月	薬学部教育ワークショップ
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(特許) 化合物、アミノ酸酸化酵素の酵素活性測定用試薬、及びアミノ酸酸化酵素の酵素活性測定方法	共著	2021年8月	特願2021-127657
(論文) Development of derivatization reagents bearing chiral 4-imidazolidinone for distinguishing primary amines from other amino acids and application to the liquid chromatography-tandem mass spectrometric analysis of miso.	共著	2021年6月	J Chromatogr A., 1652, 462341
(論文) Succinimidyl (3-[(benzyloxy) carbonyl]-5-oxo-1,3-oxazolidin-4-yl)acetate on a triazole-bonded phase for the separation of DL-amino-acid enantiomers and the mass-spectrometric determination of chiral amino acids in rat plasma	共著	2018年11月	J Chromatogr A., 1585, 131-137
(著書) 感度と精度の向上を目指した誘導体化メタボローム分析	単著	2018年4月	ファルマシア, 54 (4), 354
(論文) Liquid chromatography-mass spectrometry with triazole-bonded stationary phase for N-methyl-D-aspartate receptor-related amino acids: development and application in microdialysis studies	共著	2017年8月	Anal Bioanal Chem., 409, 7201-7210
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) タンデム型質量分析計により1級アミン構造を識別する4-イミダゾリジノン型試薬の創製と味噌成分アミノ酸分析への応用		2021年3月	日本薬学会141年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2021年3月～	日本薬学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率(%)
1年	243	243	100.0%
2年	236	234	99.2%
3年	248	242	97.6%
4年	225	224	99.6%
5年	254	251	98.8%
6年	281	280	99.6%

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった学生数	抗体価が不十分なためワクチン接種をした学生数 <sup>1)</sup>
風疹	176	70
麻疹	94	115
水痘	238	10
ムンプス	177	45
B型肝炎	15	15

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数(確認できた人数)を記入してください。

確認できない場合は、左欄のみ記入してください。



(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 <sup>1)</sup>		座席数	室数	収容人員合計	備考
講義室・演習室 <sup>2)</sup>	大講義室	309～503	6	2436	全て固定机。309席2室、315席1室、498席1室、503席1室、理学部建物504席1室
	中講義室	123～203	6	979	1室可動機で123席まで。ほか固定机150席3室、203席2室
	小講義室	36～60	10	576	全て可動機。36席1室、ほか60席
	演習室	36～48	6	261	全て可動機
	小グループ演習室	8	18	144	全て可動機
実習室	中実習室	60	2	120	基礎系実習で使用
	大実習室	128～364	5	1252	基礎系実習で使用 128席、240席、256席、264席、364席 各1室
	医療系実習室	12～44	13	335	モデル薬局、待合室・服薬説明カウンター、モデル病室、注射調剤実習室、計数・計量調剤実習室、患者シミュレータ、医療情報実習室
自習室等 <sup>3)</sup>	自習室	2	2	126	自習室は他にメディアセンター、マルチメディアラウンジにもある(基礎資料12)
	ラウンジ・ロビー	4～18	5	61	
薬用植物園	※以下の概要を任意の様式で記載してください。 ① 設置場所(薬学部キャンパス内か別キャンパスか) 薬学部キャンパス内(習志野キャンパス) ② 施設の構成と規模 見本園、ハーブ園、薬木園 約6,000㎡ ③ 栽培している植物種の数 783種類 ④ その他の特記事項 なし				

- [注] 1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考にし備考欄に記入してください。コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください(教卓にあるものなどを除く)。
- 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 <sup>1), 2)</sup>	面積 <sup>3)</sup>	収容人員 <sup>4)</sup>	室数 <sup>5)</sup>	備 考
教授室	22.78m <sup>2</sup>	1人	24	個室は教授のみ、准教授以下は実験室・研究室にデスクがある。
実験室・研究室(大)	169.67m <sup>2</sup>	1人	13	
実験室・研究室(中)	62.64m <sup>2</sup>	1人	25	
実験室・研究室(小)	20.78m <sup>2</sup>	1人	66	
セミナー室・ゼミ室	39.06m <sup>2</sup>	35人	17	

- 1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する学生用研究室は、(基礎資料11-1)と重複してかまいません。
- 2) 複数の講座・研究室が(隣接する2~3講座で共用で)占有する施設があれば、記載してください。  
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 3) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 4) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 5) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 <sup>1), 2)</sup>	室数	施設の内容
共同機器室	2	生物系、化学系
動物実験室	14	コンベンショナル動物飼育室(6室)、SPF動物飼育室(2室)、実験室(2室)、飼育準備室、倉庫(2室)、管理室
RI実験施設	12	管理室、実験室(5室)、測定室(2室)、汚染検査室、貯蔵室、廃棄関係室(2室)
共同実験室	2	P2実験室、培養室

- 1) 実験動物施設、NMR室など、例示を参考に、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。(面積などは不要です。)
- 2) 例示以外の実験施設(例えば、培養室など)があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B) <sup>1)</sup>	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 <sup>2)</sup>	備考 <sup>3)</sup>
習志野メディアセンター	405 / 217(コロナ禍)	4,023	10.07 / 5.39	マルチメディアラウンジ	39	PC : 39台	薬学部 : 1511 薬学研究科 : 25 理学部 : 2023 理学研究科 : 204 健康科学部 : 260
医学メディアセンター本館							キャンパスが異なる
計	405 / 217	4,023	10.07 / 5.39		39		

1) 「学生収容定員数(B)」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員(B)」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ(キャンパスが異なるなど)、右の欄を空欄にしてください。



(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) <sup>2)</sup>	電子ジャー ナルのタイ トル数 <sup>3)</sup>	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) <sup>1)</sup>	内国書	外国書			2018年度	2019年度	2020年度	
習志野メディアセンター	210879	187022	598	959	3100		3620	5904	3731	
医学メディアセンター本館						10342				電子ジャーナルについては、習志野と医学でタイトル数を切り分けることができないため、メディアセンター全体の数を記載しています。
計	210879	187022	598	959	3100	10342	3620	5904	3731	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。